岩手県産業教育振興会

令和５年度

事業活動報告書

－　事業活動報告書　目次　－

Ⅰ　岩手県産業教育振興会　会長挨拶 …… 1

Ⅱ　各専門部会が主催する「全国大会」の競技内容 …… 2
日本学校農業クラブ全国大会　プロジェクト発表会　実施要項（例）

Ⅲ　大会助成事業及びキャリアアップサポート事業

1　農業

（1）日本学校農業クラブ東北大会運営及び全国高等学校フラワーアレンジメント県予選
ア　盛岡農業高等学校 …… 6

（2）日本学校農業クラブ全国大会
ア　花巻農業高等学校 …… 12
イ　水沢農業高等学校 …… 15
ウ　遠野緑峰高等学校 …… 16

（3）全国高等学校フラワーアレンジメントコンテスト
ア　花巻農業高等学校 …… 19
イ　盛岡農業高等学校 …… 20

（4）その他の全国大会
ア　盛岡農業高等学校 …… 21

2　工業

（1）東北工業高校校長会総会自動車部発表・全国高等学校ロボット競技大会予選
ア　盛岡工業高等学校 …… 23
イ　一関工業高等学校 …… 24

（2）ものづくり全国大会・ロボット全国大会
ア　黒沢尻工業高等学校 …… 25
イ　盛岡工業高等学校 …… 26

（3）キャリアップ事業
ア　盛岡工業高等学校 …… 28
イ　黒沢尻工業高等学校 …… 32
ウ　福岡工業高等学校 …… 33
エ　水沢工業高等学校 …… 35

3　商業

（1）簿記競技大会
ア　盛岡商業高等学校 …… 36
イ　水沢商業高等学校 …… 37

（2）ワープロ競技大会
ア　盛岡商業高等学校 …… 38
イ　花北青雲高等学校 …… 39
ウ　大東高等学校 …… 40

（3）ビジネス計算競技大会
ア　盛岡商業高等学校 …… 41
イ　花北青雲高等学校 …… 42
ウ　水沢商業高等学校 …… 43

（4）情報処理競技大会
ア　盛岡商業高等学校 …… 45
イ　水沢商業高等学校 …… 46
ウ　宮古商工高等学校 …… 47

（5）生徒商業研究発表会
ア　盛岡商業高等学校 …… 48

（6）キャリアアップ事業
ア　盛岡商業高等学校 …… 49
イ　宮古商工高等学校 …… 50
ウ　水沢商業高等学校 …… 52

4　家庭
（1）キャリアアップ事業体験教室
ア　平舘高等学校 …… 53

5　総合学科
（1)日本学校農業クラブ全国大会
ア　久慈東高等学校 …… 59

（2)キャリアアップ事業
ア　岩谷堂高等学校 …… 60
イ　紫波総合高等学校 …… 63
ウ　北上翔南高等学校 …… 66
エ　久慈東高等学校 …… 68
オ　一戸高等学校 …… 70

6　福祉
（1）全国高校生介護コンテスト
ア　岩手女子高等学校 …… 71

7　中学校技術･家庭
（1）大会参加
ア　岩手県中学校技術・家庭科教育研究大会釜石大会 …… 73

Ⅳ　全国産業教育フェア　さんフェア福井２０２３
1　大会パンフレット等 …… 74

Ⅴ　研究文・作文コンクール
1　応募要領
（1)公益財団法人産業教育振興中央会・公益社団法人経済同友会募集要領 …… 76
（2）岩手県産業教育振興会募集要領 …… 78

2　研究文の部
（1）岩手県産業教育振興会
ア　最優秀賞　盛岡農業高等学校　植物科学科　…… 80
「銀河のしずくの販売戦略」　～販売拡大を目指して～
イ　優秀賞　　花巻農業高等学校　生物科学科　…… 86
「未来に羽ばたく青孔雀」　～培養ビン内でのリンドウ開花に関する研究～

3　作文の部
（1）産業教育振興中央会
ア　佳作　遠野緑峰高等学校　　生産技術科２年　　菊　池　康　成　さん　…… 93
「新しい遠野の特産品を生み出すために」

（1）岩手県産業教育振興会
ア　最優秀賞　岩手女子高等学校　　看護科３年　長谷川　萌　音 さん　…… 95
「私にきっかけをくれた存在」
イ　優秀賞　　久慈東高等学校　総合学科介護福祉系列３年　廣　﨑　七　海 さん …… 97
「継ぐ・繋ぐ・紡ぐ」

Ⅵ　御下賜金記念優良卒業生表彰
1　表彰規定
（1）公益財団法人産業教育振興中央会選奨規定　…… 99
（2）岩手県産業教育振興会選奨規定　…… 100

2　優良卒業生表彰数一覧　…… 101

Ⅶ　支援対象校一覧　…… 103

岩手県産業教育振興会

会　長　　鎌　田　英　樹

（株式会社ＩＢＣ岩手放送　代表取締役会長）

ご　挨　拶

まずもって会員各位のご支援のもと、令和５年度における「岩手県産業教育振興会」の事業を、ほぼ終了することができたことに心より御礼を申し上げます。

令和５年度は新型コロナウイルスの感染が多少落ち着いた反面、インフルエンザの感染により多くの学校で学級閉鎖や学年閉鎖の措置がとられました。学校の教育活動も影響をうけ、通常通りの教育活動の実践がままならない状況が続いております。

このような中、本会が行っている助成事業は、ほぼ予定通り実施され、学校における新たな教育実践の取り組みが行われました。一戸高校では「二戸地域の伝統工芸である裂織」の実技講習会、盛岡工業高校では「GNSS（衛星測位システム）による測量及びドローンを使った測量」の実技講習会が新たに実施されるなど積極的な取組事例がみられました。

令和６年度には 5,000 名を超える関係者が集まる「日本学校農業クラブ全国大会」が本県８箇所で開催されるあたり、プレ大会として本番さながらの取り組みが行われ、その大会運営費を助成しました。また、本会から支援をうけ全国大会へ出場した高校の活躍は素晴らしい成果を挙げており、農業分野においては花巻農業高校が日本学校農業クラブ全国大会熊本大会「プロジェクト発表Ⅱ類」で優秀賞を、盛岡農業高校は御殿場で行われた酪農家の代表牛を一堂に集め、審査する大会「全日本ブラックアンドホワイトショウ」の学校部門リードマンコンテストで５位に入賞しています。工業分野では黒沢尻工業高校が愛知で行われた「高校生ものづくりコンテスト全国大会溶接部門」で全国５位に入賞しましたし、商業分野では水沢商業高校が「全国高等学校ビジネス計算競技大会」の珠算競技個人総合で７位に入賞しています。
介護分野では、岩手女子高校が「全国高校生介護技術コンテスト」にはじめて東北代表として出場しています。

財政的に厳しく、東北大会出場者への助成の取り止め、キャリアアップサポート推進事業助成額の減額、研究文作文コンクールの佳作表彰状配布の取り止めなど、なんとかやりくりをしていますが、今般の値上げラッシュ等でさらに厳しい事業運営となりますが、本県産業振興及び産業教育の発展を目指し、今後も活動を進めて参ります。
会員の皆様方におかれましては、引き続き、専門教育を学ぶ高校生への貴重な御支援を賜りますよう心よりお願い申し上げますと共に、会員様の関連諸団体の方々に本会の活動を紹介いただき、新規会員として、新たな御支援を賜れれば幸いに存じます。

日本学校農業クラブ全国大会
プロジェクト発表会 実施要項(例)

農業部会では、農業に関する知識・技能を競い合う全国大会として６種類の競技を行う「日本学校農業クラブ全国大会」が開催されています。この中から「プロジェクト発表」についての実施要項の例を紹介します。

【目的】

プロジェクト発表会は、日頃のプロジェクト活動の成果を発表し、クラブ員の３大目標を高めるとともに、専門的な能力や態度を高めることを目的とする。

(１)発表分野と内容

分 野	内 容
Ⅰ類 農業生産 農業経営	1 農業生物の育成や生産性向上に関すること 2 農業生産物の加工・流通・消費に関すること 3 農業の経営や経済活動に関すること
Ⅱ類 国土保全 環境創造	1 国土の保全や環境創造に関すること 2 森林資源の活用に関すること
Ⅲ類 資源活用 地域振興	1 園芸作物や社会動物の活用に関すること 2 地域資源の活用や地域の振興に関すること

(２)出場資格

発表に参加するクラブ員は発表分野ごとに、ブロック連盟で審査の結果、最優秀に選ばれたグループと する。

(３)発表方法

①発表は視聴覚機器を使用した演台からの口頭発表とする。必要に応じ標本、模型などを使用した演示をしてもよい。また、発表用スライドには音声、動画が挿入されていてもよい。

②プロジェクターの台数は、１台とする。

③会場で使用する視聴覚機器のうち、全国大会事務局で用意するものについては「全国大会実施要項」に掲載する。

④発表終了後に質疑応答を行う。

⑤事前に提出した発表原稿と発表内容が異なることは認められない。ただし、発表の一字一句の違いを判断するものではない。

(４)発表及び準備時間

①発表時間は１０分以内として、超過２分で発表打ち切りとする。

②時間計測は表現開始より表現終了までとする。

③表現開始とは、発声者の第一声、演示の開始のうち早いものとする。

④表現終了とは、演示の終了かつ発表者が「終わります」や「終わりました」など、終わりを

告げるまで とする。
⑤時間表示はベルで行い、８分(１鈴)、１０分(２鈴)、１２分(乱鈴)とする。
⑥発表準備のための時間は３分以内とし、２分(１鈴)、３分(２鈴)、５分(乱鈴)で打ち切りとする。
⑦準備時間の計測は「準備を始めてください」のアナウンスより開始し、発表者が「終わります」や「終わりました」など、終わりを告げるまでとする。

(５)発表者および発表補助者
①個人研究にあっても補助者を含む発表とする。
②発表者および発表補助者は、合わせて１０名以内とし、学科・学年は問わない。
③発表者は口頭発表を行う者とし、３名以内とする。３名の内１名は、発表終了後の質疑に答える。
発表補助者は視聴覚機器の操作、標本・模型の演示など、発表の補助者を行う者とする。

(６)審査および審査会
①審査は発表分野ごとにプレイスナンバー方式で行い、最優秀、優秀を選出する。
②審査員は、文部科学省等指導係官、校長、顧問教師、学校農業クラブに理解の深い学識経験者などから 選出する。
③審査会の構成は、日本学校農業クラブ連盟、開催ブロック連盟及び開催県の協議により決定する。
④審査員は、審査をするとともに、発表に対する質疑応答および指導講評を行う。

(７)表彰
入賞者に対して表彰を行う。

(８)事前資料
審査のための資料として、下記のものを全国大会ＨＰよりダウンロードして作成し、大会事務局が定めた期日までに提出する。
①エントリーシート３０部
様式は(様式全－プ１)とする。
②活動記録簿Ａ４ファイル１冊
ａ)活動期間の記録の中で、発表に直接関係のある資料や写真を精選し、Ａ４ファイル１冊に整理したも の。(後日返却する。)
ｂ)表紙の様式は(様式全－プ２)とする
※表表紙、裏表紙、背表紙に装飾や写真を使用しない。
③発表原稿３０部
ａ)図表、写真、発表に使用する内容を示すものを含めたもの。
ｂ)用紙はＡ４版とし、横書き、片面印刷とする。
ｃ)表紙の様式は(様式全－プ３)とする。
ｄ)原稿の書式は、余白を上下各２０㎜、左右各２５㎜、１行４０字×４０行、ＭＳ明朝体１０.５ポイ ントとすること。
※表紙に装飾や写真を使用しない。

(９)審査基準と配点

項目	事前資料（Profile）			発表（Project　Publication ）					
審査	発表原稿 と 活動記録簿			発表内容 （Contents）			発表方法 （Presentation）		
配点	２０点			５０点			３０点		
審査	1	発表原稿は誤字脱字なく書かれており、図表等を活用しわかりやすくまとめられているか	4点	1	エントリーシートの内容を踏まえ、学びの実態に即した構成であるか	5点	1	発表に関する準備や機器の活用は適切であったか	5点
	2	活動は計画的で、検証・評価に基づき、学びの実態を踏まえた適切な方法を用いているか	4点	2	関係する科目における見方、考え方をいかし、課題の解決に向けて学びに向かう姿勢がみられるか	15点	2	発表方法や態度は適切であり、分かりやすいものであったか （発表中の特殊なパフォーマンスを評価するものではない）	15点
	3	課題解決に向けて実践記録やデータ収集が適切に行われているか	4点	3	自然環境、生活環境や地域創造を考慮した持続可能な取り組み内容となっているか	15点			
	4	記載されている結果には再現性や信頼性があるか	4点	4	発表内容は精選され、成果は論理的・客観的に検討されているか	15点	3	審査員からの質疑に対して、適切な応答ができているか	10点
	5	掲載されている資料は、精選され適切な内容となっているか	4点						

(10)ペナルティー

①発表時間および準備時間超過による減点

超過時間	30秒まで	30秒超過 ～60秒まで	60秒超過 ～90秒まで	90秒超過 ～120秒まで	120秒を経過し、打ち切りとなったもの
減点	２点	４点	６点	８点	１０点

②事前資料(エントリーシート３０部、活動記録簿１冊、発表原稿３０部)の遅延による減点

提出期限に遅れた場合	提出しない場合
事前資料の点数を０点とする	発表についても審査しない

【補足】

	具体的な研究内容(例)
Ⅰ類 農業生産 農業経営	・栽培・飼育に関する研究 ・肥料や薬剤に関する研究 ・農業生産物の加工・流通・保全・管理に関する研究 ・農業経営・農業経済に関する研究 など
Ⅱ類 国土保全 環境創造	・農業土木や造園、林業の事業の計画・実施・管理に関する研究 ・生物多様性の保全に関する研究 ・林産物の利用に関する研究 ・持続可能な環境の創造に関する研究 など
Ⅲ類 資源活用 地域振興	・園芸作物や社会動物を用いた生活の質を向上させる研究 ・療法や交流に必要な技術に関する研究 ・農山村社会や地域社会に根ざした事業の振興に関する研究
	る研究 ・食農教育や農福連携に関する研究 など

農業：大会等助成(農業クラブ東北運営費補助)

岩手県立盛岡農業高等学校

【 大 会 名 】第74回日本学校農業クラブ東北連盟大会「プロジェクト発表会」
【 日　　時 】令和５年８月24日（木)・25日（金）
【 場　　所 】盛岡市民文化ホール、いわて県民情報交流センター
【 大会概要 】
　日本学校農業クラブ東北連盟は、東北６県の農業に関する学科を置く高等学校の農業クラブ活動を基盤とし、東北連盟大会は全国大会につながるクラブ員の合同学習の場である。
（１）競技部門及びその内容
　プロジェクト発表会は、日頃のプロジェクト活動の成果を発表し、クラブ員の３大目標を高めるとともに、専門的な能力や態度を高めることを目的とする。
　［分野Ⅰ類］生産・流通・経営
　［分野Ⅱ類］開発・保全・創造
　［分野Ⅲ類］ヒューマンサービス
（２）参加者数等
　・発表数　　各分野7発表（各県１校、岩手県２校）
　・参加者数　178名
（３）大会結果
　［分野Ⅰ類］　最優秀賞　「＃ＺＥＲＯマイプラ革命」
　　宮城県宮城農業高等学校　河東田 彩花　他9名
　［分野Ⅱ類］　最優秀賞　「我らホップ調査隊～ルプリンの抗菌力とソーセージ開発に関する研究～」
　　岩手県立花巻農業高等学校　千葉 玲那　他９名
　［分野Ⅲ類］　最優秀賞　「津軽の子育て応援します！持続可能な農業高校フードバンクの運営に関する研究」
　　青森県立五所川原農林高等学校　葛西 陽奈子　他８名
【 写　　真 】

第1会場の様子

第2会場の様子

【 感　　想 】
　本大会は、「第75回日本学校農業クラブ全国大会令和６年度岩手大会」のプレ大会として、全国大会の運営に準じて開催した。初めて使用する会場ということもあり、運営に心配な部分はあったが、生徒と職員の運営状況は良好であり、トラブルも対応することができた。東北各県代表の発表であることから、完成度の高い発表が多かった。
　参加校のアンケートでは、運営方法や駅から会場までの誘導方法等について指摘を受け、改善すべき課題を確認することができた。

農業：大会等助成(農業クラブ東北運営費補助)

岩手県立盛岡農業高等学校

【 大 会 名 】第74回日本学校農業クラブ東北連盟大会「意見発表会」
【 日　　時 】令和５年８月24日（木）・25日（金）
【 場　　所 】いわて岩手県民情報交流センター
【 大会概要 】

日本学校農業クラブ東北連盟は、東北６県の農業に関する学科を置く高等学校の農業クラブ活動を基盤とし、東北連盟大会は全国大会につながるクラブ員の合同学習の場である。

（１）競技部門及びその内容

意見発表会は、クラブ員の身近な問題や将来の問題について抱負や意見を交換し、クラブ員の3大目標を高めるとともに、主体的に問題を解決する能力と態度を養うことを目的とする。

［分野Ⅰ類］生産・流通・経営
［分野Ⅱ類］開発・保全・創造
［分野Ⅲ類］ヒューマンサービス

（２）参加者数等

・発表数　　各分野7発表（各県1名、岩手県2名）
・参加者数　37名

（３）大会結果

［分野Ⅰ類］　最優秀賞　「エコフィードの可能性と有効活用」
青森県立三本木農業恵拓高等学校　森崎 裕世
［分野Ⅱ類］　最優秀賞　「ベンケイロボ焼きから学んだ価値の創造」
福島県立相馬農業高等学校　佐々木 海渡
［分野Ⅲ類］　最優秀賞　「備えることの大切さを次の世代へ」
宮城県農業高等学校　鈴木 幸

【 写　　真 】

発表前説明

発表及び審査

【 感　　想 】

遠野緑峰高校と千厩高校の２校110名（生徒84名、職員26名）が運営を担当した。選手及び引率者、視察者等の控室を発表会場である小田島組☆ほーるに設定し、多数の観客の中で発表会を開催することができた。運営を担当した生徒たちも、係の合間に表現力が豊かでレベルの高い選手たちの発表を間近で聴くことができ、次年度の岩手大会に向けて一層士気を高めることができた。

農業：大会等助成(農業クラブ東北運営費補助)

岩手県立盛岡農業高等学校

【 大 会 名 】第74回日本学校農業クラブ東北連盟大会「農業情報処理競技会」

【 日　　時 】令和５年８月24日（木）

【 場　　所 】岩手県立盛岡農業高等学校

【 大会概要 】

日本学校農業クラブ東北連盟は、東北6県の農業に関する学科を置く高等学校の農業クラブ活動を基盤とし、東北連盟大会は全国大会につながるクラブ員の合同学習の場である。

（１）競技部門及びその内容

農業情報処理競技は、教科の学習や学校農業クラブ活動をとおして得た情報処理に関する知識、技術を競い合い、専門的な能力を高め、農業クラブ員としての資質や、技術の向上を図ることを目的とする。

（２）参加者数等

・参加者数　35名（各県３名、岩手県４名）

（３）大会結果

最優秀賞　岩手県立遠野緑峰高等学校　千田 乙華

【 写　　真 】

競技前説明

競技の様子

【 感　　想 】

競技中に選手の作成データが消えるトラブルがあったが、審査員と速やかな協議を行い、選手及び引率者への説明対応をして適切に運営することができた。東北ブロックの代表選手が全国大会で入賞を果たすなど、一定のレベルで運営できたことは、作題や運営、そして審査に協力いただいた審査員の先生方によるものと感謝している。

ご多用のところ、審査長を務めていただいた富士大学経済学部 教授 鈴木智香先生のご協力に感謝する。

農業：大会等助成(農業クラブ東北運営費補助)

岩手県立盛岡農業高等学校

【 大 会 名 】第74回日本学校農業クラブ東北連盟大会「平板測量競技会」

【 日　　時 】令和５年８月24日（木）

【 場　　所 】花巻市総合体育館・日居城野運動公園

【 大会概要 】

日本学校農業クラブ東北連盟は、東北6県の農業に関する学科を置く高等学校の農業クラブ活動を基盤とし、東北連盟大会は全国大会につながるクラブ員の合同学習の場である。

（１）競技部門及びその内容

平板測量競技会は、教科の学習や学校農業クラブ活動をとおして得た測量技術の成果を発表し、その実力を競い合い、職業能力を高めることを目的とする。

（２）参加者数等

・参加チーム　13チーム（各県２チーム、岩手県３チーム）

・参加者数　　59名

（３）大会結果

最優秀賞　岩手県立盛岡農業高等学校

阿部 空牙、泉澤 櫂、齊藤 輝、阿部 清正

【 写　　真 】

外業の様子

内業の様子

【 感　　想 】

令和６年度に開催する全国大会のプレ大会に位置付け、全国大会と同じ会場で実施した。大会当日まで生徒・職員の打合せやリハーサルの時間が十分に確保できなかったが、当日の実際の運営では臨機応変に対応することができた。

また、準備から大会当日まで猛暑の中であったが体調を崩す生徒はなく、大会は大きな混乱やミスもない運営で無事に開催することができた。

農業：大会等助成(農業クラブ東北運営費補助)

岩手県立盛岡農業高等学校

【 大 会 名 】第74回日本学校農業クラブ東北連盟大会「家畜審査競技会」
【 日　　時 】令和５年８月24日（木）
【 場　　所 】くずまき高原牧場
【 大会概要 】

日本学校農業クラブ東北連盟は、東北6県の農業に関する学科を置く高等学校の農業クラブ活動を基盤とし、東北連盟大会は全国大会につながるクラブ員の合同学習の場である。

（１）競技部門及びその内容

家畜審査競技会は、教科の学習や学校農業クラブ活動をとおして得た家畜審査技術の成果を発表するとともに、優秀な後継者を育成し畜産業界の振興に資することを目的とする。

（２）参加者数等

・参加者数　41名（各県４名、岩手県５名）

（３）大会結果

最優秀賞　岩手県立盛岡農業高等学校　大上 大地

【 写　　真 】

競技の様子①

競技の様子②

【 感　　想 】

東北各地から25名の選手が参加し、くずまき高原で「乳用牛の部」が開催された。関係各所の協力をいただき、大きなトラブルもなく無事に運営することができた。

運営生徒や職員の運営人数は十分とは言えない状態であったものの、各自が大会当日にやるべきことをしっかり理解していたことで、競技は滞りなくスムーズに進めることができた。

8月下旬とはいえ気温が高く、暑さが厳しい中で競技が開催されたが、選手は丁寧に牛の各部を見比べて、今までの学習成果を発揮していた。

来年度は、いよいよ全国大会岩手大会の運営となるため、生徒・職員は総出で選手をお迎えし、参加して良かったと言っていただける大会となるよう、しっかりと準備を進めていきたい。

農業：大会運営(フラワーアレンジメント県予選)

岩手県立盛岡農業高等学校

【大 会 名】第22回岩手県フラワーアレンジメントコンテスト兼第33回全国産業教育フェア福井大会（さんフェア福井2023）岩手県予選
【期　　日】令和５年７月28日（金）
【場　　所】岩手県立盛岡農業高等学校　作物実習棟
【大会概要】第22岩手県フラワーアレンジメントコンテストを実施し、「第33回全国産業教育フェア福井大会（さんフェア福井2023)」に出場する岩手県代表を２名選出します。

（１）岩手県予選出場者

番号	学　　校	学科名	学年	生徒氏名
1	花巻農業高等学校	生物科学科	3	菊　池　紗　樺
2	花巻農業高等学校	生物科学科	2	伊　藤　愛　生
3	遠野緑峰高等学校	生産技術科	3	菊　池　蘭　菜
4	遠野緑峰高等学校	生産技術科	2	佐々木　唯　佳
5	北上翔南高等学校	総 合 学 科	3	齋　藤　菜々美
6	北上翔南高等学校	総 合 学 科	3	下　舘　紗英来
7	大船渡東高等学校	農芸科学科	2	田　中　愛　子
8	大船渡東高等学校	農芸科学科	1	出　羽　涼　夏
9	盛岡農業高等学校	植物科学科	2	岩　穴　　凛
１０	盛岡農業高等学校	植物科学科	2	茅　橋　　結

（２）審査員　　目時　泰子 氏　（盛岡市）　フラワー装飾一級技能士
　　煙山　　誠 氏　（雫石町）　フラワー装飾一級技能士

（３）結　果　　金　賞　　花巻農業高等学校　菊　池　紗　樺
　　銀　賞　　盛岡農業高等学校　岩　穴　　凛
　　銅　賞　　花巻農業高等学校　伊　藤　愛　生
　　※金賞・銀賞受賞者が全国大会へ出場します。

【写　　真】

開会行事

競技風景

【感　　想】

夏季休業中に開催、猛暑の中の大会となりました。その中でも参加生徒は集中して競技を行っており、レベルの高い技術を競い合いました。金賞及び銀賞の２名は、10月に開催される全国大会（福井県）に岩手県代表として出場することになり、全国大会での活躍を期待いたします。

農業：大会等助成(農業クラブ全国プロジェクト発表)

岩手県立花巻農業高等学校

【大　会　名】第74回日本学校農業クラブ全国大会　令和5年度熊本大会
【日　　時】10月25日(水)　～　10月26日（木）
【場　　所】玉名市民会館
【大会概要】研究を通して農業クラブ員の資質や技術の向上を図るものである。
（１）競技部門及びその内容
　　プロジェクト発表分野Ⅱ類（環境・保全・創造）に関する研究発表
（２）参加者数・氏名
　　食農科学科３年５名　千田　玲那・熊谷　幸乃・佐々木　玲実
　　久保　星空・杉山　美藍
　　食農科学科２年４名　菊池　柚南・福士　華花・畠山　美優・佐藤　穂希華
（３）入賞者数・氏名　　ソーセージ研究班９名受賞
　　プロジェクト発表会分野Ⅱ類　優秀賞
【写　　真】

【発表本番前の記念写真】

【本番での発表の様子】

【引率者の感想等】
　生徒は、練習以上の素晴らしい発表を９分４８秒、ノーミスでやり通すことができた。質疑では、「このルプリンを入れたソーセージの味はどのような味か？」という質問だったが、質疑担当の佐々木玲実は、笑顔で毅然と次のように答えてい。た「製造から３日目まではルプリン特有の苦みがあるが、それ以降は普通のソーセージと変わりありません」と回答していた。研究班は、全国の皆さんに発表を伝えることができたことで大きな喜びと達成感で満ち溢れていた。この全国までの道のりは簡単ではなかった。この大会を通して、班員の連携による思いやりなど人として必要なスキルを身につけたことも大変喜ばしいことである。
　研究班として全国入賞は２０２０年度より３年連続で優秀賞となり、このプロジェクト研究を通して志を高く持つことで、努力を惜しまず、失敗を恐れず、果敢にホップの抗菌力を見つけ出すことにつながったのである。令和６年度の全国大会は岩手が開催県である。日本一という偉業を目指していきたい。

農業：大会等助成(農業クラブ全国農業鑑定)

岩手県立花巻農業高等学校

【大会名】　第７４回日本学校農業クラブ全国盟大会　令和５年度熊本大会
【日時】　１０月２５日(水)　～　１０月２６日（木）
【場所】　熊本農業高等学校
【大会概要】　専門の学習で習得した農業に関する知識や技術の成果として、実物を見て鑑定・判断」する能力を競い合い、その知識や技術の更なる向上を図るものである。

(1) 競技部門及びその内容
○競技部門　農業鑑定競技
○競技内容　農業・園芸・畜産・食品・森林・農業土木・造園・生活の８分野で各分野40問、出題形式は20秒の択一問題と記述問題、40秒問題があり、名称や使用方法等を問う競技である。

(2) 参加者数・氏名　（本校より５名出場）
【農業】生物科学科１年　久保　真敏
【造園】環境科学科３年　髙橋　茄奈
【土木】環境科学科３年　岩間　勇斗
【食品】食農科学科３年　志田藤　陸斗
【生活】食農科学科３年　菊池　萌香

(3) 入賞者数・氏名
なし

【写真】

マスコットキャラクターの前にて

競技終了後、記念撮影

【生徒または引率者の感想等】
農業鑑定競技会は、学校農業クラブ全国大会の競技の中で、最も出場者が多く、全国各地からおおよそ１０００人もの学生が集まる盛大な競技会です。競技後は、キッチンカーでの販売や熊本農業クラブ員との交流も行われ、和気あいあいとした競技会でした。来年度は本校が全国大会会場となります。おもてなしの精神を持ち、来客者への親切な対応も心がけ、選手としても入賞を目指し、取り組んでいきたいと思います。

農業：大会等助成(農業クラブ全国平板測量)

岩手県立花巻農業高等学校

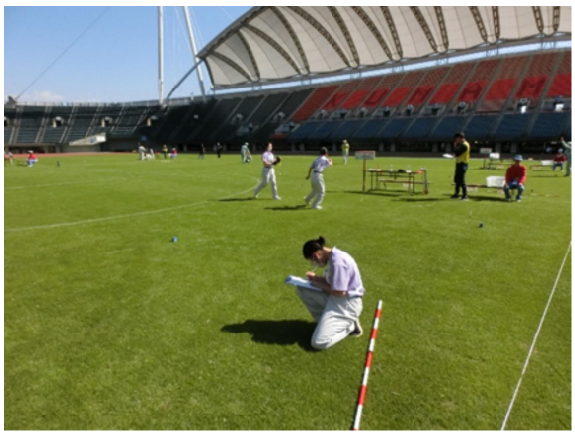
【大　会　名】第74回日本学校農業クラブ全国盟大会　令和5年度熊本大会
【日　　時】１０月２５日(水)　～　１０月２６日（木）
【場　　所】えがお健康スタジアム
【大会概要】教科の学習や学校農業クラブ活動を通して得た測量技術の成果を発表し、その実力を競い合い、職業的能力を高めることを目的とする。

（１）競技部門及びその内容
競技部門：平板測量競技
競技内容：平板による境界線測量および三斜法･三辺法による面積計算
第１次作業は平板測器による境界線測量、第２次作業は面積測定のための距離測定作業、第３次作業は、平板測器による境界線測量の閉合誤差の図解法による補正および三斜法による面積測定ならびに図面仕上げとオフセット野帳よりの三辺法による面積測定を行う。

（２）参加者数・氏名
環境科学科２年４名　伊藤雅姫　菅原もえ　北舘寿莉　小野寺胡珀

（３）入賞者数・氏名　なし

【写真】



（競技の様子）

（競技終了後）

【生徒または引率者の感想等】
競技前は緊張も見られましたが、普段通りの実力を発揮できたと思います。一次作業・二次作業とも普段通りの力を発揮できましたが、三次作業において計算ミス（おそらく距離の読み間違え）により入賞を逃しました。
来年度は、様々な状況にも対応し、誤差等最小限に抑えられる実力を身につけ、目標である全国制覇に臨みたいと思います。

農業：大会等助成(農業クラブ全国農業鑑定)

岩手県立水沢農業高等学校

【大 会 名】第74回日本学校農業クラブ全国大会　熊本大会　農業鑑定競技

【日　　時】10月25日（水）
（10月24日（火）移動、25日（水）本競技、10月26日（木）式典・移動）

【場　　所】熊本県立熊本農業高等学校

【大会概要】
日頃の学習で得た農業に関する知識・技術の成果を、鑑定・判定・診断・審査技術にわたり、その実力を競い合う競技である。

（1）競技部門及びその内容
実施分野「農業」、「食品」に参加。出題数は40問で、各分野の実物について鑑定・判定・診断・審査を行い、１問20秒または40秒という時間で解き、正答率を競う内容である。

（2）参加者数・氏名（東北・全国及び本校）
全国大会参加人数　約4,000人（うち　農業鑑定競技　約1,000人）
自校参加者　分野「農業」農業科学科　１年　藤井　笑那
分野「食品」食品科学科　３年　菅原　舞桜

（3）入賞者数・氏名（本校）
農業鑑定競技　分野「農業」　　優秀賞　　藤井　笑那

【写　　真】

（本校　参加者）

（式典の様子）

【引率者の感想等】
１年生と３年生の参加であった。放課後、毎日のように学習に取り組み、指導者のもと、コツコツと意欲的に取り組んだ。大会会場でも全力で取り組み、優秀賞を獲得することができた。今まで勉強した成果を発揮することができた。１年生も参加していることから、来年の岩手大会にも期待が持てる。次年度の大会に向けた指導を充実させたい。

農業：大会等助成(農業クラブ全国農業鑑定)

岩手県立遠野緑峰高等学校

【大 会 名】　第74回日本学校農業クラブ全国大会令和５年度熊本大会　農業鑑定競技会

【日　　時】　令和５年１０月２５日（水）～１０月２６日（木）

【場　　所】　熊本県立熊本農業高等学校

【大会概要】
教科の学習や学校農業クラブ活動で得た農業に関する知識・技術の成果を鑑定・判定・診断・審査競技にわたり、その実力を競い合い、職業的能力を高めることを目的とした競技である。
（１）競技部門出場分野：生活・畜産
（２）全国参加者数：1002名（全分野）　分野別(生活:79名、畜産:100名)
　　本校参加者　：　2名（生活：佐藤亜胡、畜産：鴨谷結里花）
（３）大会結果　入賞ならず

【写　　真】

会場：マスコット

会場：熊本農業高校正門前

【引率者の感想等】
代表者決定以降の代表者は、今大会に参加にあたり、入賞を目指して学習を重ねた。特にも、来年度は本県が開催県ということもあり、今年度入賞することで来年度への弾みを付ける糧としたい思いがあった。残念ながら入賞には至らなかったものの、参加した2年生の生徒は、来年度入賞へ向けて、今後学習に対して真摯に向かうことを誓った。来年度の本県開催にあたり、出場分野を増やして、多数の入賞者を輩出できるように指導にあたりたい。

農業：大会等助成(農業クラブ全国農業情報処理)

岩手県立遠野緑峰高等学校

【大 会 名】第74回日本学校農業クラブ全国大会令和５年度熊本大会　農業情報処理競技会

【日　　時】令和５年１０月２４日（火）～１０月２６日（木）

【場　　所】東海大学　熊本キャンパス

【大会概要】教科の学習や学校農業クラブ活動をとおして得た情報処理に関する知識・技術を競い合い、専門的な能力を高め、農業クラブ員としての資質や資質や技術の向上を図ることを目的とする。
（１）第７４回日本学校農業クラブ全国大会　農業情報処理競技会
（２）全国参加者数１９名　本校参加者１名　千田　乙華
（３）大会結果　優秀賞

【写　　真】

大会式典での様子

競技会場入口にて

【感　　想】
令和５年１０月２５日（水）に行われました、第７４回日本学校農業クラブ全国大会（熊本大会）の農業情報処理競技会が１０年ぶりに開催され、東北連盟大会で最優秀賞を受賞し、東北ブロック代表として本校生産技術科２年千田乙華が、出場することができました。
農業情報処理競技は「農業と情報」の教科で学習したものを基本とし、インターネット上に掲載されている様々な情報を収集、選択し、パーソナルコンピューターの基本的な技術である表計算処理・グラフ作成を行い、そのデータを基に考察文書処理を行い、データを効果的に表現するプレゼンテーションの作成を行います。データの収集と的確な判断と素早い処理能力と自身の考えを表現することなど、高度な技術が試される競技会です。
岩手県連盟大会で最優秀賞を受賞し、東北連盟大会でも最優秀賞を受賞し、全国大会出場が決まってから、生徒は毎日のように農業情報処理における専門的な技術や能力を高めるよう努力した結果、優秀賞を受賞することができました。全国から参加した生徒さん方の技術の高さに圧倒されましたが、全国大会に参加することによりクラブ員としての資質や技術の向上を図ることができ生徒も成長できた良い大会でした。

農業：大会等助成(農業クラブ全国家畜審査)

岩手県立遠野緑峰高等学校

【大 会 名】第74回日本学校農業クラブ全国大会令和５年度熊本大会　家畜審査競技会

【日　　時】令和５年１０月２５日（水）

【場　　所】熊本県立菊池農業高等学校

【大会概要】教科の学習や学校農業クラブ活動をとおして得た家畜審査技術の成果を発表するとともに、優秀な後継者を育成し畜産業界の振興に資する。

（１）競技部門　家畜審査競技会（肉牛用牛の部）全国44名出場
内容　雌育成牛および雌子牛各４頭を比較審査し点数を競う

（２）参加者数　生産技術科２年　菊池憲士

（３）大会結果　入賞ならず

【 写　　真 】

競技の様子

会場入口にて

【 引率者の感想等 】

令和５年１０月２５日（水）、第７４回日本学校農業クラブ全国大会、令和５年度熊本大会の家畜審査競技大会が熊本県立菊池農業高等学校を会場に開催され、生産技術科２年菊池憲士が出場しました。

家畜審査競技は、雌育成牛と雌子牛の２部構成で、実際に牛を見て牛体毎に長所・短所を見極め、さらに各部位の測定値を参考にして４頭の牛を比較しながら優位を審査する観察力や判断力が試される競技です。

岩手県連盟大会では、学習成果を発揮して最優秀賞を獲得し、全国大会出場の機会を得ることができました。その後も、全国大会入賞と更なる審査技術の向上を目指して、日々、牛との係わりを深めながら家畜共進会や子牛市場、基本登録審査などに足を運び関係機関の指導を頂きながら学習を深め、専門的な技術や能力を高めるよう努力しました。

しかし、結果は残念ながら入賞することはできませんでした。他県の生徒さん方の意欲や技術の高さに圧倒された面もありましたが、最後までベストを尽くし頑張ってくれました。全国大会に参加することにより、クラブ員としての資質や技術の向上を図ることができ生徒も成長できた良い大会でした。

農業：大会等助成(全国フラワーアレンジメント)

岩手県立花巻農業高等学校

【大　会　名】第33回全国産業教育フェア福井大会・
　　第22回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト
【日　　時】１０月２８日(土)　～　１０月２９日（日）
【場　　所】福井県中小企業産業大学校
【大会概要】出場選手６８名
　　28日（土）　10:00～11:10　開会式、競技説明、花材確認
　　11:40～12:40　競技
　　12:40～13:50　審査、昼食
　　13:50～14:50　デモンストレーション見学
　　15:00～15:30　閉会式、表彰式
　　29日（日）　 9:30～14:30　一般公開

【開会式の様子】

【競技終了直後】

【完成作品】

【参加生徒感想：生物科学科３年菊池紗樺】
　岩手県大会で金賞を受賞し、全国大会に出場する機会をいただきました。全国大会では、競技がライブ中継され、運よく私の正面に定点カメラが設置され、帰校後には制作の様子を見ていた先生方から声をかけていただきました。本大会の出場前には、市内の生花店の方から何度もご指導いただき、花の配置やデザインなど一生懸命勉強してきました。作品は緊張しながらも自分の思いを込めイメージどおりに出来上がりましたが入賞はできませんでした。大会レベルは想像以上でプロ作品のように圧倒され、一昨年本校の先輩が入賞した実績があり、そのすごさを知ることができました。来年私は社会人となります。高校生活の良き思い出として一生残る経験をすることができました。本当にありがとうございました。

【顧問感想】
　地域の生花店から、花材とアレンジメント指導者の両面からご協力をいただき、全国大会まで出場することができたことは、出場した生徒にとって大きな財産となりました。農業高校で切り花生産は少なく、指導する機会も多くはありません。生徒にも苦労させたと思いますが精一杯頑張ってくれました。最後に本大会参加にあたり、ご支援をいただき深く感謝申し上げます。

農業：大会等助成(全国フラワーアレンジメント)

岩手県立盛岡農業高等学校

【大 会 名】　第３３回全国産業教育フェア福井大会さんフェア福井２０２３
第２２回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト

【日　　時】　令和５年１０月２８日（土）

【場　　所】　福井県中小企業産業大学校

【本校選手】　植物科学科２年　岩穴　凛

【概　　要】　全国の専門高校生で学ぶ高校生が、フラワーデザインに関する知識と技術を活用し自らの考えを表現する力や創造性・芸術性を高め合い、新たな未来を切り拓く職業人と咲いての資質をはぐくむものである。

（１）競技内容
「未来の輝石」のテーマに基づいて、与えられた花材のうち越前和紙、根つき水仙を必ず使用し６０分以内にアレンジし、創造性、芸術性を競技する。

（２）参加人数　６８名（各都道府県から２名以内の選手）

（３）入 賞 者　本校なし

【写　　真】

〈　競技会場にて岩手県選手２名　〉

〈　作　　品　〉

【感　　想】

岩手県予選までの期間に基本的な技術を習得するための練習を重ね、岩手県予選本番では基本に忠実にアレンジすることができた。さらに、本人のセンスが光り銀賞に入賞し全国大会への出場が決まった。

岩手県予選後はテーマや花材が決定してから使用が必須とされていた和紙や球根の扱いを中心に、アレンジメントの練習を重ねた。「未来の輝石」というテーマを表現するために工夫を凝らした。輝石は地層の中に潜んでいることをイメージした作品に仕上げることにした。和紙は編み込んで立体感を出し、地層にメリハリを与えるような配置にした。

全国大会本番では、追加された花材を含め、花のボリュームが想像以上に少なく、苦心したようだが、時間内に作品を仕上げるために最後まであきらめずに取り組んだ。全国大会のレベルは高く入賞には届かなかったが、選手にとっては、貴重な経験を積むことができた。

農業：大会等助成(Ｂ＆Ｗショウ)

岩手県立盛岡農業高等学校

【 大 会 名 】第10回全日本ブラックアンドホワイトショウ
並びに2023セントラルジャパンホルスタインショウ

【 日　　時 】令和５年４月14日（金）・15日（土）

【 場　　所 】静岡県御殿場市馬術・スポーツセンター

【 大会概要 】

全国ホルスタイン改良協議会並びにセントラルジャパンホルスタイン改良協議会傘下の酪農家の代表牛を一堂に集め、その体系、資質の改良水準を比較検討して今後の改良に資するとともに、酪農家の健全な発展を期し、併せて会員相互の親睦と交流、後継者の育成を図ることを目的とする。

（１）競技部門及びその内容

月齢により未経産牛５部門、経産牛6部門それぞれで審査し、チャンピオン牛を決定する。また、学校の出品牛についても審査し、学校部門のチャンピオンも決定するとともに、高校生のリードマン対象の講習会も開催され、その順位も決定する。

（２）参加者数等

・全出品頭数　182頭（うち高校等23校、32頭）

（３）本校参加者

・動物科学科　向川原 大和、矢野 空向
・出品牛　　未経産牛１頭（モリノウ ライフ ゴーズ オン号）

（４）本校成績

・リードマンコンテスト　５位（49人中）　矢野 空向
・未経産の部（第４部）　９位（20頭中）

【 写　　真 】

第４部審査の様子

リードマンコンテスト

【 感　　想 】

本共進会はコロナ禍の影響により２年ぶりに開催された。その間、本校の先輩たちは自分たちが調教した牛を披露できず悔しい思いをしており、私たちはこのような場に出場することができて本当に嬉しかった。

チーム岩手として県内の酪農家にも協力していただき、９位の成績を収めることができた。この経験をいかし、今後の共進会でも上位入賞を目指していきたい。

農業：大会等助成(そば打ち)

岩手県立盛岡農業高等学校

【 大 会 名 】第13回全国高校生そば打ち選手権大会

【 日　　時 】令和５年８月２日（水）

【 場　　所 】東京都立産業貿易センター浜松町館４Ｆ北川（東京都港区）

【 大会概要 】

そば打ちに取り組む高校生が、日頃の練習の成果を発表し、そばを通じて全国の仲間と交流するものである。

（１）競技部門及びその内容

［団体競技の部］

・そば粉800ｇ、つなぎ粉200ｇ、計1,000ｇの原料で40分以内でそば打ちを行う。

・チームは４人１組で、水回し・ねり・のし・切りの全工程を４分毎に交代して行う。

（２）参加者数等

食品科学科３年　そば研究班６名

・選手　大信田 源、関口 景、野崎 健太、藤原 拓人

・補欠　阿部 大和、畑山 樹月

【 写　　真 】

本校選手の集合写真

そば打ち競技の様子

【 感　　想 】

私たちは、そば打ち選手権大会に向けて、２年生からそば打ち活動をスタートし、上位入賞を目指して日々技術向上に励みました。先生や先輩方から指導していただき、２年生の６月に全麺協そば打ち認定会で初段位を取得し、３年生の６月には二段位を取得することができました。段位取得により、自分たちの技術が向上していることを実感し、自信を持つことができました。その後は、本番に向けて放課後や夏休みを活用して団体戦に向けた練習を重ね、大会本番では、自分たちのそば打ちをすることができました。

結果は入賞できず悔しい結果でしたが､そば打ちを通して成長できたことは良かったです。今後も岩手県のそば文化を広げる活動を行っていきたいと思います。

工業：大会等助成(東北校長会自動車部発表)

岩手県立盛岡工業高等学校

【事 業 名】令和５年度東北地区工業高等学校長会総会・研究協議会

【期　　日】令和５年９月７日（木）～８日（金）

【場　　所】ホテルニューカリーナ

【概　　要】東北地区の工業科設置高等学校の校長が一堂に会し、当面する高等学校における諸問題について研究協議を行い、東北地区高等学校における工業教育の充実・改善を図る。

（1）生徒研究発表

東北６県52名の工業高等学校長や、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官、全国工業高等学校長協会理事長等の来賓が出席する場において、「電気自動車エコランに向けた取り組み」と題して、代表生徒２名が研究発表を行い、盛岡工業高校自動車部の活動を紹介しました。

（2）発表者

吉岡和生（電子機械科３年)、小玉悠人（電子情報科２年）

（3）参加者の様子

このような場での研究発表は貴重な経験であり、参加者からも好評を得ました。

【写真（発表の様子)】

【引率者の感想等】

発表前は緊張した様子でしたが、多くの先生方を前に堂々と発表することができ自動車部の活動の様子を伝えることができました。今後の活躍にも大いに期待できる内容でした。

工業：大会等助成(ロボット全国大会予選)

岩手県立一関工業高等学校

【大会名】　令和５年度全国高等学校ロボット競技大会岩手県選考会
【日　時】　令和５年９月１６日（土）
【場　所】　岩手県立大船渡東高等学校
【大会概要】

ロボット競技をとおして、仲間とともに「ものを作り、完成させる」喜びを体験する機会を与え、技術への関心と夢を育み、自発的な学習態度を育成する。

また、この選考会において「第３１回全国高等学校ロボット競技大会」岩手県代表を決定する。

1　競技内容

さんフェア福井2023が開催された福井県は、近年では、恐竜王国ふくいとしても有名であり、勝山市北谷町は日本で最も多くの恐竜化石が発掘されている。

（１）本競技は恐竜化石をロボットで発掘し、福井県の自然豊かな「九頭竜川」「足羽川」「東尋坊」を突破して、「恐竜博物館」「東尋坊タワー」「福井駅前恐竜広場」にモニュメントとして設置する内容であり、いかにしてより数多くの恐竜化石を設置できるかを競うルールである。

（２）競技時間は３分間。競技は「ラプト」（リモコン型ロボット）が恐竜化石を発掘し、各エリアを通って運搬を行う。「ティッチー」（自立型ロボット）は九頭竜川･足羽川･東尋坊の各エリアを往き来する役割を果たし、「ラプト」が、福井駅前恐竜広場や恐竜博物館など、指定された場所へ恐竜化石モニュメントを設置することで得点を競うものである。

2　参加チーム　６校７チーム

3　競技結果

第１位　盛岡工業高等学校　電子機械科　盛工ＭＥ２０２３　（全国大会出場）
第２位　盛岡工業高等学校　機　械　科　Ｍ３戦隊キカイジャー（全国大会出場）
第３位　水沢工業高等学校　機械工作部　すいこう麒麟

【写　真】

競技の様子①

競技の様子②

競技の様子③

【大会の所感】

ロボットには、メカニズムのノウハウと完成度の高さが求められている。製作に相当苦労したと思われる。選手たちには貴重な体験であった。努力を称する。

この場をお借りし、岩手県産業教育振興会の多大なる御支援と、会場校の大船渡東高等学校の教職員の皆様に感謝申し上げます。

工業：大会等助成(全国ものづくり:溶接部門)

岩手県立黒沢尻工業高等学校

【大 会 名】第２３回高校生ものづくりコンテスト全国大会

【日　　時】令和５年１１月１２日（日）

【場　　所】愛知県立愛知総合工科高等学校

【大会概要】

（１）溶接部門（公開競技）

協議課題：溶接技能審査N-2F

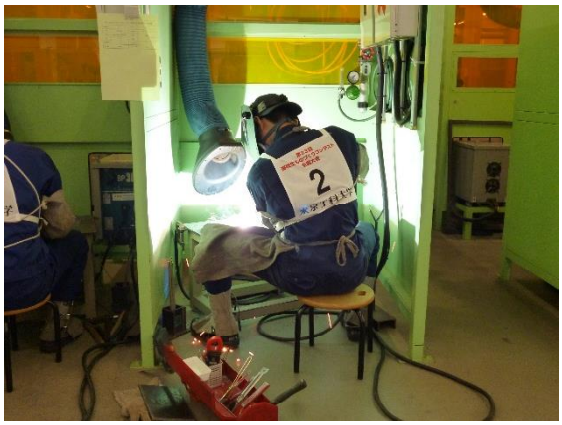
（２）参加者数：１０名

参加生徒氏名：機械科２年　岡沢　瑛斗

（３）大会結果

敢闘賞　６／１０位（１７８／２００点）

【写　　真】



【感　　想】

まずは大会参加に際し貴会の援助に対して感謝申し上げます。大会では、選手が普段の練習成果を発揮して悔いのない作業ができたと述べております。作業内容の中で細かい減点があり、優勝した選手と17点差という結果でした。修正できる内容も複数あったことから今後の練習の中で改善し、更なる向上を目指したいと考えております。学校内外から多大なる支援をいただき、また、大会関係者にお世話になり今回の出場に至りました。指導者としても勉強させられることも多く貴重な機会をいただいたと思っています。ありがとうございました。

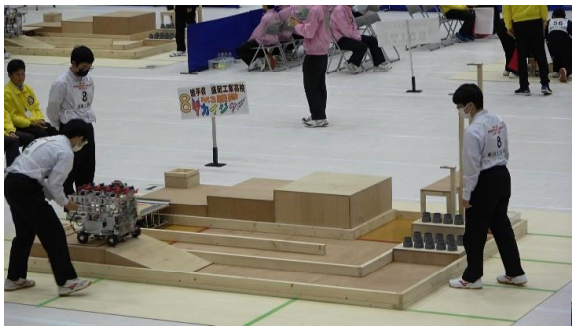
工業：大会等助成(全国大会ロボット)

岩手県立盛岡工業高等学校
機械科

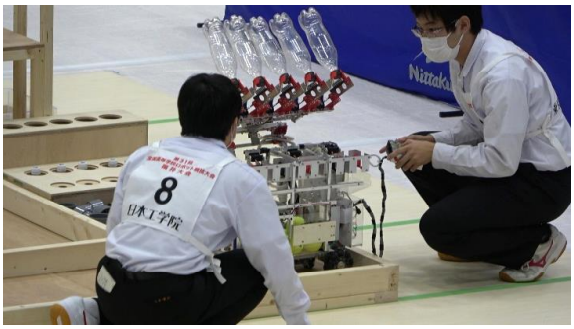
【事 業 名】第33回全国産業教育フェア福井大会
第31回全国高等学校ロボット競技大会福井大会
【日　　時】令和5年10月28日(土)、29日(日)
【場　　所】福井県営体育館
【大会概要】　全国の専門高校等で学ぶ生徒が、ロボット競技大会への参加を目指し、仲間と協力しながら新鮮な発想で工夫を凝らし、創造力を発揮してロボットを製作する。
　また、その取組の過程を通して、ものづくりの技術・技能を習得し、次世代を担う技術者としての資質を向上させる。
（１）参加チーム　９６チーム
（２）機械科参加者　３年　齋藤　歩、白戸　康祐、藤澤　篤、山口　翔
（３）大会結果　優勝　大分県立佐伯豊南高校
機械科　準決勝１７位

【写　　真】

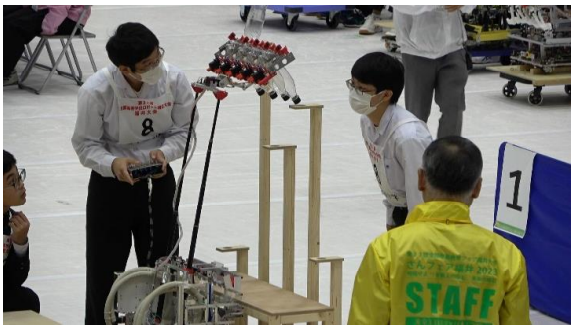
会場入口



競技中　1



競技中　2



競技中　3

【生徒感想】
　公式練習は、緊張感からミスをしてしまい無得点で終わってしまいました。しかし、チームメイトからのアドバイスのおかげで冷静になることができ、予選、準決勝と練習の成果を発揮することができました。
　また、競技の待機時間に、他のチームの人と意見交換をする事ができました。ロボットの機構の事だけでなく、製作で苦労したことや、共感できることなどがあり、とても楽しい体験でした。全国大会に参加して、難しい課題に対してそれぞれのアイデアと創意工夫をこらし、解決することの大切さや面白さを実感しました。

工業：大会等助成(全国大会ロボット)

岩手県立盛岡工業高等学校
電子機械科

【事 業 名】第33回全国産業教育フェア福井大会
第31回全国高等学校ロボット競技大会福井大会

【日　　時】令和5年10月28日(土)、29日(日)

【場　　所】福井県営体育館

【大会概要】　全国の専門高校等で学ぶ生徒が、ロボット競技大会への参加を目指し、仲間と協力しながら新鮮な発想で工夫を凝らし、創造力を発揮してロボットを製作する。
　また、その取組の過程を通して、ものづくりの技術・技能を習得し、次世代を担う技術者としての資質を向上させる。

（１）参加チーム　９６チーム
（２）電子機械科参加者　廣田悠斗(３年)、今津天杜(2年)、　高橋希空（２年)、藤村和輝(１年)
（３）大会結果　優勝　大分県立佐伯豊南高校
　　電子機械科　準決勝２４位

【写　　真】

会場入口

試合風景

【報告】
　今年も全国から９６チームの出場があり、コロナ開け１２年連続全国大会出場を達成することができました。結果はベスト３２で昨年度の結果を上回ることができました。
　生徒達にとっては、全国の大きな舞台に出場できたことは素晴らしい成果と経験になり、来年度に繋がることと思われます。毎年、色々な方々に支えられ、援助していただき大変ありがとうございました。

工業：キャリアアップ(実技講習会：GNSS測量講習会)

岩手県立盛岡工業高等学校

【 事 業 名 】土木科１年生　GNSS測量講習会
【 日　　時 】 １０月１１日（水）
【 場　　所 】 盛岡工業高等学校　ラグビー場、陸上競技場、測量実習室
【 事業概要 】 GNSS（衛星測位システム）による測量について、実際に現場で使用されている測量器械に触れることにより、GNSS測量の仕組みを理解し、「測量士・測量士補」の資格取得に向けた知識理解の向上を図る。
また、ドローンを使った測量について学び、現場に即した測量の理解を深める。

（１） 講習会の内容
測量用人工衛星から送信されるデータを受信して、観測点の緯度経度を測定する。本実習では、VRキネマテック法として仮想基準点をダウンロードして精度を高めた。ドローンの操縦や活用方法について実技と座学をとおして、ICT技術を習得した。

（２）参加者数　土木科1年生２７名と土木科職員８名

（３）参加者の様子・感想等
北日本測機株式会社様からのご協力を得て、土木科１年生はGNSS測量の実習を行いました。生徒の皆さんは、臆することなく手際よく観測を実施することができました。VRキネマテッィク法は観測時間も5分以内と短く、生徒たちはその速さと精度の高さに驚いていました。最新の人工衛星を利用した実習は今年で１０年目を迎えます。実習後は、座学の中でドローンの空撮やドローンを活用した測量技術などを学びました。
本講習会の実施にあたりましては、岩手県産業教育振興会キャリアアップサポート推進事業から支援をいただきました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

【 写 真 】

（事業風景等１）受信機の設営と観測

（事業風景等２）ドローン操縦の説明

岩手県立盛岡工業高等学校

【事 業 名】工業化学科出前授業

【日時・場所】令和５年10月20日(金) 矢巾東小学校 科学クラブ（４・５・６年生）
11月２日(木) 飯岡小学校 以下同上
11月10日(金) 煙山小学校
11月21日(火) 盛岡土淵小学校

【事業内容】液体窒素を使った実験の体験
小学生に実験の指導をする高校３年生(４名)に対し、材料と器具等の確認および予備実験を行うことでスムーズかつ安全に実験が進むように準備した。
当日は各テーブルに実験器具を配置し、小学生を４～５人を１グループとし、５班に分けて実施した。高校３年生と職員を各テーブルに配置し、液体窒素の説明をして全体に演示実験をした後、それぞれ説明をしながらライデンフロスト効果などの液体窒素に触れる実験や、空気から液体になった酸素を取り出す実験を各テーブルごとに行った。また、３回目の実施では来年のためにいままでの３年生４人に加えて、２年生３人も実験に参加した。
液体窒素は取り扱いに注意が必要なため、安全や取り扱いには十分に配慮した。液体窒素を使い酸素を取り出す実験で、酸素が線香を激しく燃焼させる様子を見て小学生から大きな歓声があがっていた。

【写 真】

【感 想 等】
新型コロナが五類になったため、去年より一校増やし実施したが予定していた土淵小学校ではインフルエンザの蔓延のため実施することができなかった。小学生は普段テレビや教科書でしか教わらない液体窒素の実験を、直接触ったり目の前で自分たちの手で実験することができ、化学の面白さに興味を持ってくれたと感じた。今回説明をした高校３年生は普段の「教わる側」から、「教える側」になることで教えることの難しさを実感しながらもコミュニケーションスキルを養う絶好の機会だったと思う。

工業：キャリアアップ(ＩＢＣまつり)

岩手県立盛岡工業高等学校
岩手県立黒沢尻工業高等学校専攻科

【事 業 名】ＩＢＣまつりinアピオへの参加

【期　　日】令和５年９月16日（土）～17日（日）

【場　　所】ツガワ未来館Apio　岩手産業文化センター

【概　　要】

(1)内容

盛岡工業高等学校及び黒沢尻工業高等学校専攻科が参加し、工業系学科の学びや取組について情報発信することにより、来場者の興味関心を高めるとともに理解を深めました。

(2)参加者

○盛岡工業高等学校

電子情報科１年２名，土木科２年１名

工業化学科２年２名，建築・デザイン科１年５名

○黒沢尻工業高等学校専攻科

機械コース1年４名・２年５名

電気コース１年１名・２年５名

【取組の様子】

〔実験の様子〕

〔会場の様子〕

〔装置の説明〕

工業：キャリアアップ(ＩＢＣまつり)

【参加生徒の感想】

○盛岡工業高等学校

・今回のＩＢＣまつりは、とても良い経験になりました。普段はあまり接する機会の少ない小さな子供や御年配の方など、様々な人達に盛岡工業高校の事をアピールすることが出来ました。小さな子供でも分かりやすいような説明の仕方や、どの様な人でも聞き取りやすいような声の大きさや、はっきりした話し方をする事でしっかりと盛岡工業高校の魅力を伝えることが出来たのではないかと思っています。盛岡工業高校を様々な人にアピールできる貴重な機会を頂けて本当に良かったと思います。大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

・ＩＢＣまつりでの展示を通して更に地域の方々との関わりが密接になったと思います。なぜならば、今まで盛岡工業高校の事を知らなかったという人達にも興味を持って貰えたと思うからです。お客さんの中には昨年度、生まれたマスコットキャラクターであるコウタ君を「かわいい、ぬいぐるみがあったら欲しい。」と言って下さる方がいました。他にも「卒業する高校を盛工にすればよかった。」と盛工に対して前向きなイメージを持って貰えた方も多かったと思います。また他の出店や展示をしている方々も液体窒素の体験に来て頂き普段関わることの無い企業さんとも小さな繋がりが出来てとても良い機会となりました。

○黒沢尻工業高等学校専攻科

・他の祭りやイベントに比べて規模が大きく､多数の来場者で盛り上がって　おり、私たちも楽しく専攻科について説明、紹介することができました。小さな子供達も多数参加して楽しんでくれて、ものづくりのやりがいなどを感じることができる良い体験となりました。

・出展した研究作品をたくさんの方に見学・体験していただき、少しでも黒工専攻科について発信することができたと感じ、とても満足しています。多くの企業の出展に合わせて、学校や研究の紹介ができる機会が多くはないので、貴重な体験であったと感じました。

工業：キャリアアップ(出前授業)

岩手県立黒沢尻工業高等学校

【 事 業 名 】北上市内小中学校への出前授業【和賀東中】【飯豊中】
【 日　　時 】①令和５年10月６日(金)　②令和５年11月８日(水)
【 場　　所 】①北上市立和賀東中学校　②北上市立飯豊中学校
【 事業概要 】高校生が実験を指導することにより、中学生の工業高校に対する興味関心を高める。

（１）出前授業の内容

授業テーマ、機械科「機械ってなに？」、電気科「電気は生活で欠かせない」、電子科「電子制御」、電子機械科「機械の制御とは」、土木科「水質浄化と液状化の実験」、材料技術科「化学の不思議」とし、実験を行った。和賀東中は４学科、飯豊中は３学科を選択しそれぞれ体験した。

（２）参加者数

和賀東中学校：２年生75名、黒沢尻工業高校：３年生38名
飯豊中学校：２年生95名、黒沢尻工業高校：３年生39名

（３）参加者の様子・感想等（中学生の感想）

・黒工の人たちが分かりやすく学校の説明や実験内容を教えてくれたおかげで、楽しく実験できました。
・液状化と水質浄化の実験が分かりやすく楽しかったです。
・燃焼実験や静電気の実験など面白かったです。黒工に行ってみたくなりました。

【 写　　真 】

【 感　　想 】(指導者の感想)

・出前授業は、準備等で本校生徒(３年生)のスキルアップに繋がり、また、生徒のコミュニケーション能力が高められた。対象中学校生には本校を知ってもらう良い機会になった。
・出前授業を通して、生徒は発表内容に対して真摯に取り組み、試行錯誤しながらも、中学生にとって分かりやすい授業を展開することにより、主体性や協調性が身に付いた。

工業：キャリアアップ(出前授業)

岩手県立福岡工業高等学校

【事 業 名】
令和５年度中学校出前授業

【日　　時】
令和５年６月21日（水)、28日（水）

【場　　所】
二戸市立浄法寺中学校、一戸町立一戸中学校

【事業概要】
（１）目的
キャリア教育の一環として、出前授業を実施することで、福工生が自らの知識理解を深め、表現力を高めるとともに、中学生が体験的活動を通じて工業の専門教科を学ぶことにより、地元にある工業高校の魅力について理解を深めていただく。

（２）内容
中学生のクラスをテーブルごとに数班に分け、福工生が原理・作業手順などの説明を行い、中学生に作品の製作をしてもらう。
ア　機械システム科生徒による文鎮の製作（20分）
真ちゅう材料の六角棒にタップによるねじ切りを施し、つまみ（市販のねじ）を組み立てる。下穴はあらかじめ加工しておく。ねじ切り加工の前後にピカールによる研磨を施し、ものづくりの基本を学習する。
イ　電気情報システム科生徒による手作りモータの製作（20分）
電線を巻くことによってコイル（モータ）を製作し、電池を使ってコイル（モータ）を回転させる。モータの原理をわかりやすく学習する。

【写　　真】

〈文鎮製作〉

〈モータ製作〉

【感 想 等】
自分では作れても、人に教えるとなると自分が思うように伝えることができず難しかった。人に教えるという体験は滅多にできないので、今回行うことができて良かった。
（電気情報システム科３年　釜石）

工業：キャリアアップ(出前授業)

岩手県立福岡工業高等学校

【事 業 名】
令和５年度中学校出前授業

【日　　時】
令和５年６月30日（金)、７月12日（水）

【場　　所】
二戸市立金田一中学校、二戸市立福岡中学校

【事業概要】
（１）目的
キャリア教育の一環として、出前授業を実施することで、福工生が自らの知識理解を深め、表現力を高めるとともに、中学生が体験的活動を通じて工業の専門教科を学ぶことにより、地元にある工業高校の魅力について理解を深めていただく。
（２）内容
中学生のクラスをテーブルごとに数班に分け、福工生が原理・作業手順などの説明を行い、中学生に作品の製作をしてもらう。
ア　機械システム科生徒による文鎮の製作（20分）
真ちゅう材料の六角棒にタップによるねじ切りを施し、つまみ（市販のねじ）を組み立てる。下穴はあらかじめ加工しておく。ねじ切り加工の前後にピカールによる研磨を施し、ものづくりの基本を学習する。
イ　電気情報システム科生徒による手作りモータの製作（20分）
電線を巻くことによってコイル（モータ）を製作し、電池を使ってコイル（モータ）を回転させる。モータの原理をわかりやすく学習する。

【写　　真】

〈文鎮製作〉

〈モータ製作〉

【感 想 等】
最初に出前授業を行った中学校では、ねじ切りしている途中に万力が動いてしまったり、うまく説明することができなかったところもがありましたが、２回目以降は、万力の下に滑り止めを敷いて動かなくしたり、スムーズに説明することができたので良かったです。
（機械システム科３年　泉山）

工業：キャリアアップ(職場見学会)

岩手県立水沢工業高等学校

【事 業 名】　令和５年度インテリア科２年施設見学会

【日　　時】　令和５年１２月１１日（月）　１０：００～１４：３０

【場　　所】　①ＩＢＣハウジングメッセ北上，②こども本の森遠野

【実施概要】　①ＩＢＣハウジングメッセ北上
建設産業の社会的役割、貢献度及び魅力を実感することにより、建設業に対する意識と理解の深化を図る。
②こども本の森遠野
古商家を改築した建築物を見学することにより、建築構法並びに空間の活用方法について理解の深化を図る。

【写　　真】

（IBCﾊｳｼﾞﾝｸﾞﾒｯｾ北上見学風景）

（こども本の森遠野見学風景）

【感 想 等】　①ＩＢＣハウジングメッセ北上
各ハウスメーカー担当者様の熱心な説明により、ハウスメーカーごとの建築物の構法や特徴、建築に対する意欲を伺うことができた。生徒もこちらが予測していたよりも熱心に聞き入っており、内容の理解に意欲的であった。また、一部メーカーの担当者様より、高卒の就職希望者に対して、理想とする社会人としての資質などをお聞きすることができ、次年度の進路活動へ大変参考となった。
②こども本の森遠野
著名な建築家である安藤忠雄氏が市に寄贈し、改修に携わった建築物とのことで、生徒は終始、建築物の外観・内部ともに醸し出す独特な雰囲気に魅了されていた。改修前の構造がある程度把握できるようにするためか、梁や柱にはほぞ穴やほぞがそのまま残されている箇所が多く、生徒は元々の間取りや柱・壁の配置など、現在との違いを想像しながら建築物自体の構造などを考察していた。

商業：大会等助成(全国簿記)

岩手県立盛岡商業高等学校

【大 会 名】令和５年度　第39回全国高等学校簿記競技大会

【日　　時】令和５年７月16日（日）

【場　　所】東京都　日本大学法学部本館

【大会概要】(1) 競技
第１部（45分）　第２部（45分）
(2) 参加者　団体47校　個人233名
(3) 大会成績
団体の部　第29位
個人の部　津嶋　梨瑚（３年）101点　第　92 位
宍戸　花南（２年）　79点　第 144 位
津嶋　優奈（３年）　77点　第 150 位

【写　　真】

【生徒または引率者、大会運営主務者の感想等】
商業研究部の活動を通して、簿記と電卓競技の二つの活動を両立して取り組むことができ、４年ぶりに全国大会の団体の部に出場することができました。全国大会の問題の難易度は高く、時間内に全ての範囲を終わらせることができず課題を残しました。また、今年度から改訂になった１部の帳簿記入についても様々な問題を解くことで、解答までの時間短縮に取り組みたいと考えています。次年度は団体での全国大会入賞を目指し、基礎・基本の見直しから取り組みたいと考えています。この度は大会出場に関わる助成をしていただきありがとうございました。

商業：大会等助成(全国簿記)

岩手県立水沢商業高等学校

【大 会 名】　令和５年度　第39回全国高等学校簿記競技大会

【期　　日】　令和５年７月16日（日）

【場　　所】　日本大学法学部本館

【大会概要】

（１）内容

・競技は前半(第１部)、後半(第２部)それぞれ45分で行われ、第１部は仕訳と帳簿の問題、第２部は計算と決算の問題となっている。

・出題範囲は「簿記」「財務会計Ⅰ」「原価計算」に関するすべての内容とされ、正確に、迅速に、整然と記帳・処理されているかを審査基準に従って審査し総合得点で成績が決定される。

（２）参加者数

・団体代表は各都道府県１校
　出場団体総数47校

・個人代表は各都道府県の団体代表校以外の会員校から２名以内、
　出場選手総数233名

（３）結果

個人（２名出場）　57位／233名　　67位／233名

【写　　真】

開会式

会場入り口

【所感（引率者）】

県大会とは違う会場の広さ、選手の多さなど、全国大会独特な雰囲気の中、本校の選手は緊張しながらもお互い声を掛け合いながら、普段の実力を発揮できるよう冷静さを保ちながら最後まで臨むことができた。何よりも体調管理を徹底して、感染症にかかることなく大会に出場することができ、貴重な経験を積み大きく成長することができたと感じる。

商業：大会等助成(全国ワープロ)

岩手県立盛岡商業高等学校

【大 会 名】令和５年度第70回全国高等学校ワープロ競技大会
【日　　時】令和５年８月３日（木）
【場　　所】東京都立産業貿易センター台東館・台東区民会館
【大会概要】(1) 競技
　　速度競技　制限時間10分
(2) 参加者
　　団体47校　個人281名
(3) 大会成績
　　個人成績　第91位　佐藤　洋人　1,442字
【写　　真】

全国大会の様子

【生徒または引率者、大会運営主務者の感想等】
　団体での全国大会出場を目指しておりましたが、２年生１名が個人代表として参加してきました。昨年先輩が全国大会で入賞し、本人は目標をもって練習に励んできました。入賞は出来ませんでしたが、２年生ながら頑張ってくれたと思います。
　上位者の速さや正確さに触れ、来年こそは団体で出場をしたいという思いを強くしてきたようです。これから仲間とともに更なる練習を重ね、来年の大会に向けまた頑張っていきたいと思います。

商業：大会等助成(全国ワープロ)

岩手県立花北青雲高等学校

【大 会 名】令和５年度第70回全国高等学校ワープロ競技大会

【日　　時】令和５年８月３日（木）

【場　　所】東京都立産業貿易センター台東館・台東区民会館

【大会概要】商業に関する知識や技術・技能を高める。
（１）競技部門及びその内容
速度競技（制限時間10分間）
（２）参加者数・氏名
出場校（団体）　47校　　出場選手（団体＋個人）235名
花北青雲高校　ビジネス情報科　平澤寧々花、藤瀬日陽莉、松本涼花
（３）入賞者数・氏名
団体　第 27位　4,092字
個人　第 92位　松　本　涼　花　1,438字
第126位　藤　瀬　日陽莉　1,340字
第134位　平　澤　寧々花　1,314字

【写　　真】

【感　　想】
コロナ禍において大会や練習会が少なく練習不足の部分もありましたが、気持ちを切らすことなく地道に練習を重ねたことで技術を高めることができました。
大会前日での練習では、トップレベル選手の技術を目の当たりにして気持ちが落ち込んでしまうこともありましたが、本番では機械トラブルもなく落ち着いて競技に臨むことができました。結果は誤字が多く、満足した成績とはなりませんでしたが、選手は力を出し切りました。これらのことが後輩たちの刺激になり、先輩を超えようという目標にもなったようです。全国大会出場にあたり、多くの方々の御支援と御協力を頂いたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

商業：大会等助成(全国ワープロ)

岩手県立大東高等学校

【大 会 名】令和５年度第７０回全国高等学校ワープロ競技大会

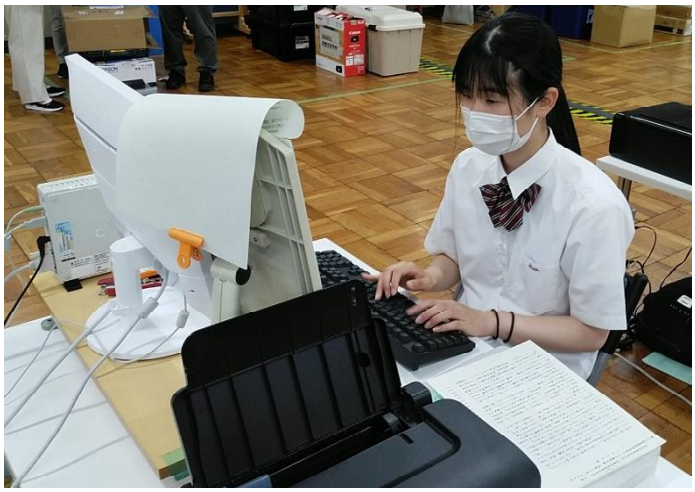
【日　　時】令和５年８月３日（木）

【場　　所】東京都立産業貿易センター台東館

【大会概要】いかに速く正確に入力するか、ワープロ技術の向上を図るものである。
（１）競技部門及びその内容
　　速度競技　制限時間１０分間
（２）参加者数・氏名
　　団体数　４７校　　選手数（団体＋個人）　２３５名
　　個人の部　岩手県立大東高等学校３年　青柳すずな
（３）大会結果
　　青柳すずな　1,４３１字（９３／２３５位）

【写　　真】

会場にて


練習風景

【生徒又は引率者の感想】
　今回の大会に向けて、他の３年生が引退した後１人で地道に練習を重ねてきました。進路活動や行事などで思うように時間が取れませんでしたが、それでも正確賞をめざして一生懸命練習をし、当日を迎えました。
　全国から集まってきた選手たちの一斉に叩くキーボードの音に圧倒されながらも、時間一杯練習を行いました。練習では正確賞への手ごたえを感じたものの、本番では原稿が苦手分野だったため打数を伸ばすことができませんでした。また、エラーも一つあったということで、少し悔いが残る結果となりました。ただ、これまで一生懸命取り組んできたことは決して無駄にはなりませんので、これからの進路に向けて生かしていきたいと思います。全国大会出場にあたって助成をいただき、心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

商業：大会等助成(全国ビジネス計算)

岩手県立盛岡商業高等学校

【大 会 名】令和５年度　第70回全国高等学校ビジネス計算競技大会

【日　　時】令和５年７月25日（火）

【場　　所】神奈川県　横浜武道館

【大会概要】１　競技
(1) 団体および個人総合競技（普通計算・応用計算）
(2) 種目別競技
ア　応用計算競技
イ　読上算競技
２　参加者　団体47校　個人234名
３　大会成績
団体総合競技　第10位
個人総合競技　津嶋　梨瑚（３年）　第　７位（優良賞）
宍戸　花南（２年）　第 22位（佳良賞）
菊地　陽南（３年）　第162位

【写　　真】

【集合写真】

【競技の様子】

【生徒または引率者、大会運営主務者の感想等】
団体総合競技10位に入賞となり、目標にしていた本県初の団体総合競技入賞を果たすことができました。個人総合においても優良賞と佳良賞を受賞することができ、日頃の努力の成果を十分に発揮することができたと思います。次年度は、今年度を上回る成績を残せるよう継続して練習に取り組みたいです。全国大会出場を通じて、成果と次年度に向けての課題を見つけることができ、大変貴重な機会となりました。この度は大会出場に関わる助成をしていただきありがとうございました。

商業：大会等助成(全国ビジネス計算)

岩手県立花北青雲高等学校

【大 会 名】令和５年度第70回全国高等学校ビジネス計算競技大会

【日　　時】令和５年７月２５日（火）

【場　　所】横浜武道館

【大会概要】商業に関する知識や技術・技能を高める。
（１）競技部門及びその内容
　　個人総合競技（珠算競技）
　　普通計算　乗算・除算・見取算　12分
　　応用計算　15題　15分間
　　種目別競技（珠算）
　　読上算・読上暗算（勝ち残り方式）
（２）参加者数・氏名
　　出場校　113校（団体＋個人）　　出場選手（団体＋個人）225名
　　花北青雲高校　ビジネス情報科　　和野内　奏詩　　工　藤　　晴
（３）入賞者数・氏名
　　個人
　　第144位　和野内　奏詩
　　第183位　工　藤　　晴

【写　　真】

【感　　想】
昨年参加できなかった全国大会に参加することができ、部全体のモチベーションにつながる大会となりました。個人総合競技では、緊張もあり思うように成績が残すことができませんでしたが、種目別では決勝まで残り、最後まで精いっぱい取り組むことができました。先輩が全国大会に出場したことは、後輩にとっても良い刺激となり、部活動も以前より意欲的に取り組むようになりました。全国大会出場にあたり、御支援と御協力を頂いたことに感謝申し上げます。

商業：大会等助成(全国ビジネス計算)

岩手県立水沢商業高等学校

【大 会 名】　令和５年度　第70回全国高等学校ビジネス計算競技大会

【期　　日】　令和５年７月25日（火）

【場　　所】　横浜武道館

【大会概要】

（１）競技の種類

団体総合競技（珠算競技・電卓競技）
個人総合競技（珠算競技・電卓競技）
種目別競技（応用計算・読上暗算・読上算）

（２）内容

・普通計算(制限時間は乗算･除算･見取算合わせて珠算競技12分、電卓競技６分)
・応用計算（文章形式で出題し制限時間は珠算競技・電卓競技ともに15分）
　売買・損益の計算、単利計算、手形割引の計算、複利計算、複利年金の計算、証券投資の計算、減価償却費の計算合わせて15題
・種目別競技
　各種目を勝ち残りの方法で行う

（３）参加者数

・団体代表は珠算と電卓競技で各都道府県１校ずつ
　岩手県は珠算競技が水沢商業高校、電卓競技が盛岡商業高校
・個人代表は珠算と電卓競技で各都道府県の団体代表校以外の会員校から２名以内
　岩手県は珠算競技が花北青雲高校２名、電卓競技は水沢商業高校２名

（４）結果

珠算競技	○総合競技	個人総合の部	優良賞（第７位／225名）	
			第110位／225名	
			第110位／225名	
	○種目別競技	・応用計算競技	佳良賞	
		・読上算競技	佳良賞	
電卓競技	○総合競技	個人総合の部	第88位／234名	
			第119位／234名	
	○種目別競技	・応用計算競技	佳良賞	

商業：大会等助成(全国ビジネス計算)

【写　　真】

開会式

本校の出場選手

【所感（引率者】

珠算の団体は、１問差で10位入賞を逃し惜敗したが、個人成績において４つの入賞を得ることができ、これまでの努力の成果を発揮することができたと思われる。生徒達は、大会終了後、達成感と充実感で満たされていた様子が見られ有意義な大会となった。

商業：大会等助成(全国情報処理)

岩手県立盛岡商業高等学校

【大 会 名】令和５年度　第35回全国高等学校情報処理競技大会

【日　　時】令和５年７月23日（日）

【場　　所】東京都　日本大学法学部本館

【大会概要】(1) 競技
第１部（40分）　第２部（40分）
(2) 参加者　団体47校141名　個人90名　計231名
(3) 大会成績
団体の部　第36位

【写　　真】

【生徒または引率者、大会運営主務者の感想等】

本県の団体代表校として正選手３名､補欠１名の生徒を引率し大会に出場してきました。結果は団体の部で36位と、全国大会での入賞はできませんでした。例年よりも問題の難易度が圧倒的に高く、特にもⅡ部の問題に苦戦していました。問題演習を数多くこなし、来年度は入賞できるように、また生徒とともに頑張っていきたいと思います。

この度は、助成いただき大変ありがとうございました。

商業：大会等助成(全国情報処理)

岩手県立水沢商業高等学校

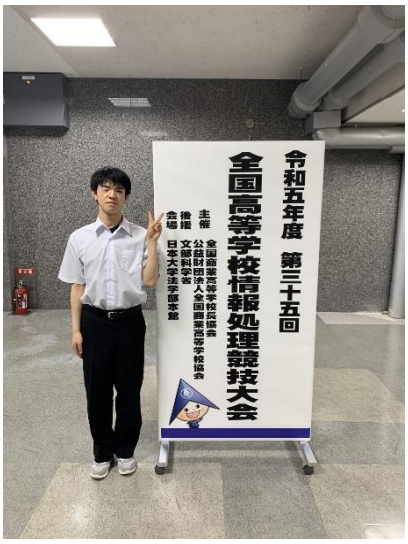
【大 会 名】　令和５年度第３５回全国高等学校情報処理競技大会

【日　　時】　令和５年７月２３日（日）

【場　　所】　日本大学法学部本館

【事業内容】　情報処理教育の振興を図る事業の一環として実施するものである。
（１）競技部門　個人の部　出場
（２）参加者（２３１名出場）
本校参加者　情報システム科３年　川口　颯大（１名）
（３）成績　第１３６位
第１部４６点　第２部　９点　合計５５点

【写　　真】



（会場立て看板前）
※競技会場内には入室できないため、看板前の写真となりました。

【感想等】
昨年度に引き続き、個人の部での参加となった。今年度の問題は例年と比べ大きく傾向が変更されたようであり難易度も上がっていた。閉会式の講評によると、出場者全体の平均点は昨年度と比べ第Ⅱ部は10点近く下がったとのことだった。本校の生徒は、全国大会まで過去問題演習を中心に進めてきたが、大会当日の問題の傾向が変わったことに対応しきれず、普段よりも点数が取れずに終わってしまった。

しかし、出場した生徒はこれまで全国大会に向け、個人で不断の努力を継続してくれた。該当生徒は本校においては簿記選抜と情報処理選抜を掛け持ちし、さらに進路活動とも並行しながら、少ない時間を工夫しながら並々ならぬ努力を重ねてくれたことに感謝したい。この先輩の姿を追い、後輩が来年に続いてくれることを期待したい。

商業：大会等助成(全国情報処理)

岩手県立宮古商工高等学校

【大 会 名】令和５年度第３５回全国高等学校情報処理競技大会
【日　　時】令和５年７月２３日（日）
【場　　所】日本大学法学部本館
【大会概要】情報処理教育振興のため
　　岩手県大会で上位入賞し、岩手県代表として参加
　（１）第１部　関連用語とデータベース（40分）
　　第２部　表計算とアルゴリズム（40分）
　（２）団体の部４７校
　　団体の部を含む個人２３１名参加
　（３）１４８位　岩手県立宮古商工高等学校　五十嵐　達　也
【写　　真】

「令和５年度　第３５回　全国高等学校情報処理競技大会会場の様子」

【感 想 等】

私は情報処理に関する知識や技能について自分の力を試そうと同好会に所属し、放課後や休みの日に努力を続けてきました。しかし、本校からは、ここしばらく情報処理競技大会では全国大会に出場することがなかったため、県大会での結果発表で全国大会に出場できると聞き、私は何かの間違いではないかと思い、とても驚きました。当初は驚きの方が強かったのですが、段々と全国大会が近づいてくるにつれて、「ああ、本当に全国大会に参加できるのだな」と実感がわいてきました。

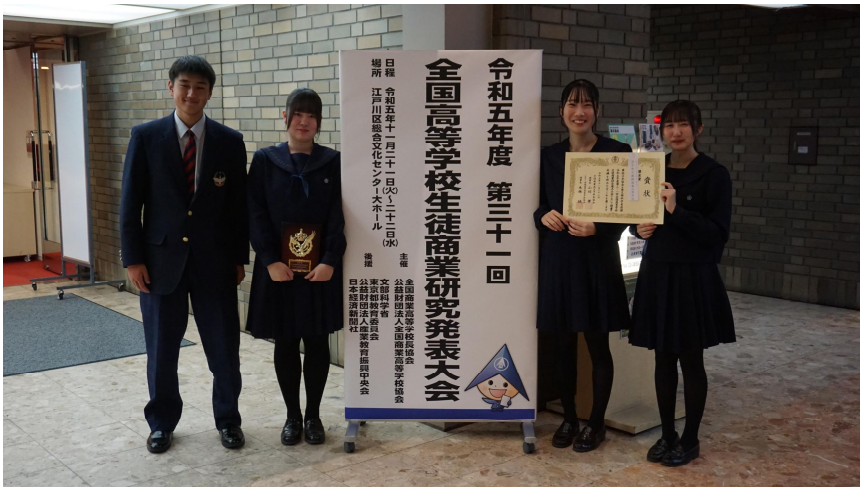
県大会では自分たちの学校で仲間たちと一緒に競技したことから、特に感じませんでしたが、全国大会の競技本番では見慣れない場所と孤独感でとても緊張しました。また、たくさんの選手が参加していて、その数にも圧倒されました。そこで改めて自分が「学校の代表」だけでなく、「岩手県の代表」というプレッシャーを感じることとなりました。自分の中では対策を立ててきたつもりでしたが、問題の難易度が高く、結果はあまり良いものではありませんでした。しかし、そのような環境下でも自分が持てる力を最大限発揮しようと試みることが出来たので、とても有意義な機会になりました。世の中には上には上がいること、県大会では決して感じることが出来なかった緊張感、そしてまだまだ勉強が足りないということを実感できました。今回の結果を踏まえ、これからも情報処理の学習を続け、今後の進路決定に向け、精進したいと思います。

商業：大会等助成(生徒商業研究発表会)

岩手県立盛岡商業高等学校

【大 会 名】令和５年度第31回全国高等学校生徒商業研究発表大会
【日　　時】令和５年11月21日～令和５年11月22日
【場　　所】東京都江戸川区総合文化センター大ホール
【大会概要】(1) 審査観点
研究報告書に記載されている研究内容を通して、生徒の問題解決能力や創造的研究の成果について審査する。
研究成果の発表を通して、生徒のプレゼンテーション能力や「伝える力」について審査する。
(2) 参加校20校
(3) 大会成績
優良賞（石崎　寛人、小田　凛生、鈴木　奏帆、吉田　亜美）

【写　　真】



【生徒または引率者、大会運営主務者の感想等】
商業研究選抜は、約半年に渡り盛岡市に根付くコーヒー文化について研究を行ってきた。盛岡商業高等学校としては、初の全国大会出場であったが、全国の舞台でも堂々と日々の取り組みや研究の成果を発表することができ、優良賞をいただくことができた。
この度は大会出場に関わる助成をしていただきありがとうございました。

商業：キャリアアップ(ＩＢＣまつり)

岩手県立盛岡商業高等学校

【事 業 名】IBCまつり2023
【日　　時】令和５年９月16日（土）～17日（日）
【場　　所】ツガワ未来館アピオ（岩手産業文化センター）
【事業概要】
(1) 地元地域での販売集実習を行っている盛岡商業高等学校、水沢商業高等学校、宮古商工高等学校の３校の生徒が地元の特産品や加工品、自校で開発した商品の販売を行った。
(2) 「マーケティング」や「商品開発」の学習の一環として、販売商品の企画・選定から業者との交渉、仕入れ、販売活動、会計処理に至る一連の業務を体験した。

【写　　真】

（開店の挨拶）

（販売活動の様子）【盛岡商業】

（取材の様子）【水沢商業】

（販売活動の様子）【宮古商工】

【引率者の感想】
開店当初は緊張感や不慣れな部分があったが、お客様との関わりを通じて販売員の表情やお客様への呼びかけ、商品PRの声量など変化が見られるようになった。今回の販売会に参加することで、接客を通じて生徒の成長が見られ、商業の学びの一端を広く発信することができたと感じた。また、他校との交流を通じて多くの刺激を受け、お互いにコミュニケーションを図りながら協力して活動する姿が見受けられた。貴協会からの助成金で保冷車を借用し、各校の品揃を幅広く展開することで充実した販売活動を行うことができた。このたびは助成いただきありがとうございました。

商業：キャリアアップ(ＩＢＣまつり)

岩手県立宮古商工高等学校

【事 業 名】担い手育成支援事業（IBCまつり２０２３参加）

【日　　時】令和５年９月１６日（土）～１７日（日）

【場　　所】ツガワ未来館アピオ

【事業概要】

地域の特産品の販売実習を通して地域理解を深め、経済等の活性化を目指す。

校内生徒や県内の商業高校生と交流を深めながら切磋琢磨し、販売技術の向上と商業教育の振興を図る。

（１）他校が選定する商品と重複しないように地元企業が生産する商品を選定し、仕入れた。事前活動として魅力を伝えるよう商品ポップを作成したり、商品知識の学習を行った。当日は顧客に応じた商品説明などの販売促進活動、レジ操作や接客を行い、事後には棚卸、利益計算など一連の商業活動を実践的に学んだ。

（２）参加生徒　２学年生徒６名

【写　　真】

打ち合わせの様子

ラジオ取材の様子

販売の様子１

販売の様子２

商業：キャリアアップ(ＩＢＣまつり)

【参加生徒の感想】

（1）準備段階で考えたこと

・普段はあまり一緒に活動するメンバーではなかったのですが、自己紹介などを行い、すぐに協力できる体制を組めてよかったです。たくさんの意見を出し合いながら目立つポップが作成できました。
・アルバイトやボランティアの経験を活かし、接客や声がけはできるだろうと思っていましたが、お客様が本当に購入してくれるのかについては不安でした。
・どのようなポップにすればお客様は立ち止まってくれるのか、商品の魅力は伝わっているのか、文字や色遣いは適切なのかについて様々なことについて考えました。

（2）販売実習中に考えたこと、意識したこと

・実習の当初は緊張と恥ずかしさで声が控えめになってしまいましたが、徐々に慣れてきて離れた人にも届くような声がけができました。
・商品の魅力を伝えられるように言葉を変えたり、強調したいことをゆっくりと話したりすることでお客様に購買意欲を喚起することができました。本校開発商品の説明をするとほとんどの方が購入してくれました。
・積極的に大きな声で声をかけたり、やさしく接しているとお客様が関心を示して購買につながることがありました。

（3）販売実習の前後で成長した・変化したと感じたこと。

・実習前はお客様への話し方などが良くわからず、知らない人へ話しかけることが少し怖く感じていましたが、勇気を出して話しかけてみると優しい人たちが多く話しかけることが楽しくなりました。
・もともと挨拶は行っていましたが、自ら率先して挨拶をすることができるようになりました。
・コミュニケーション能力が高まりました。一緒に販売実習に参加した人たちや先生方、お客様とも会話をして意を汲めるようにもなりましたし、周りが良く見えるようになりました。

（4）全体を通しての反省点や今後の活動に生かしたいこと

・計画的に物事を進めることが重要であることを学びました。
・以前アルバイトの反省の時に指摘された周りをよく見て動くこと、些細なことに気を配ることの意味に気づけました。
・販売の厳しさと楽しさの両面を知ることができました。販売活動のすべての活動が重要でどれも疎かにしてはいけないということが分かりました。特にも金銭管理は大切でした。
・挨拶や笑顔が大切であることを学びました。どちらも当たり前のことですが、好印象を持ってもらうことが大事な場面では必要なことでした。そういう意味では普段の学校生活ではあまり感じることができない感覚でした。
・力の配分も大事なことだと思いました。前半は元気があり、声も笑顔も大丈夫でしたが、時間が経つにつれて疲れてきたのでそれを見せないように加減をすることも必要でした。商品について関しては知識だけでなく、味見などをしてどのような味なのか具体的に説明ができるようになりたかったです。
・今回の販売実習を通じて身につけた接客などの技術を文化祭などの行事で発揮したいです。

商業：キャリア(ラッピング講習会)

岩手県立水沢商業高等学校

【事 業 名】ラッピング講習会

【日　　時】令和６年１月18日（木）

【場　　所】水沢商業高等学校被服室

【事業概要】２年商業科の生徒にラッピングの基礎的基本的な技能を習得させる。
（１）実技講習会の内容
(株)川徳様より講師を招聘して、のし紙のマナーや包装の意味を学び、「回転式（デパート包み)」という方法のラッピングを練習しました。「家庭総合」の授業で製作したボックスティッシュケースを、心を込めて丁寧に包装し、家族にプレゼントしました。この講習会を通して、学校生活を支えてくれる家族へ感謝の気持ちを形に表すことができました。
（２）対象生徒数　３５名

【写　　真】

【生徒の感想等】
・アルバイト先での包装がうまくできなかったので不安でしたが、一からゆっくり丁寧に教えていただき、きれいにラッピングすることができました。包み方を復習する良い機会になりました。のし紙や水引にも種類があること、いずれも意味があることを再確認することができました。
・のし紙の種類とその意味を学ぶことができました。また、のし紙の表書きの言葉にも贈る側の様々な想いが込められていることがわかりました。今日学んだことを今後の生活に活かしていきたいです。ラッピングでは、端を合わせることが難しかったが、練習より本番が一番上手に出来たので良かったです。今後も練習を重ねて、今以上に綺麗に包装できるようになりたいです。

家庭：キャリアアップ(出前授業)

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】「紫根染（絞り模様入り）の体験教室」
【日　　時】令和５年１０月４日（水）　１３：３０～１５：３０
【場　　所】本校調理実習室
【事業内容】体験教室　参加者　平舘小学校６年９名　本校生徒１２名
　　１３：３０～１３：５０　　紫根染に関する説明、研究内容の紹介
　　（歴史や紫根の活用方法、染め方など）
　　１３：５０～１５：３０　　絞り模様、媒染作業、紫根染、後媒染、仕上げ
【写　　真】

媒染をする

紫根の染液で染めている小学生

紫根染についての説明を聞く

自分の作品を持って満足気

【本校生徒の感想】
◆染色作業中に黙々と作業を続ける児童の姿があった。世代関係なく、紫根染のことを伝えることができたと思う。(高校３年女子)
◆楽しそうに作業をしていたので良かったと思う。人前で話す力をつけることができた。(高校３年男子)

【参加者の感想】
◆紙芝居を見て、自分たちの所に来るまでのことが分かってよかった。(６年生)
◆初めて紫根染をして、使うものがちがうともようがちがったものになることがわかりました。(６年生)
◆紫根染をしてみて媒染して染めるの繰り返しで大変なことがわかりました。(６年生)
◆できる前､どのような模様になるか楽しみにしながら楽しんで作れたので良かったです。(６年生)
◆紫根染をやってみて、優しく教えてもらいながら、きれいに染めることができたので良かったです。またわりばしなどでもやってみたいです。(６年生)

家庭：キャリアアップ(出前授業)

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】「紫根染（絞り模様入り）の体験教室」
【日　　時】令和５年１０月２５日（水）　１３：３０～１５：３０
【場　　所】本校調理実習室
【事業内容】体験教室　参加者　寺田小学校５・６年１３名、本校生１２名
　　１３：３０～１３：５０　　紫根染に関する説明、研究内容の紹介
　　（歴史や紫根の活用方法、染め方など）
　　１３：５０～１５：３０　　絞り模様、媒染作業、紫根染、後媒染、仕上げ
【写　　真】

絞り模様を相談

絞り模様を入れる

紙芝居「ムラサキ」を観ている小学生

自分の作品を持って

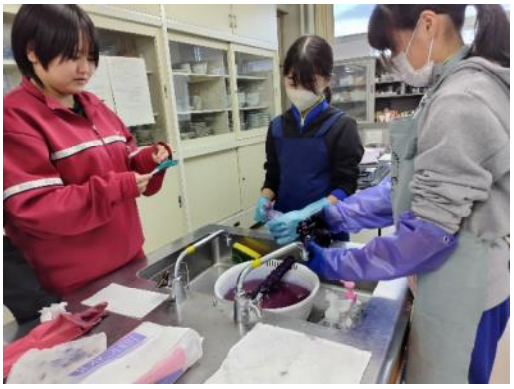
【本校生徒の感想】
◆紙芝居の話し方をもう少し工夫すればよかったと感じました。下の世代にも紫根染に興味を持ってほしいという思いで行った出前授業では、うなづいて聞いてくれたし、自分から行動してくれて意義はあったと思います。(高校３年女子)
◆紫根染を知らなかった小学生達が楽しそうに染物をし、ムラサキについて知ってくれたから意義はあった。(高校３年男子)

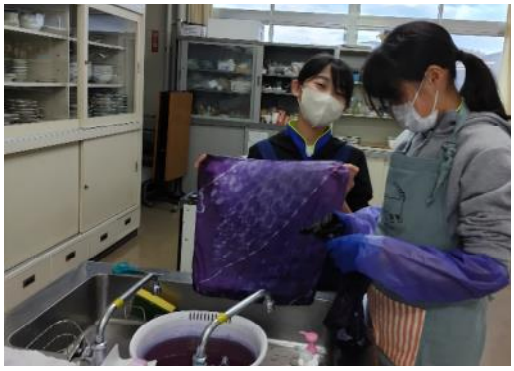
【参加者の感想】
◆さいしょは、なにをすればいいかわからなかったけどこうこう生がおしえてくれたのでよかったです。(５年生)
◆紫根染というきちょうな体験ができたのでよかったです。(６年生)
◆楽しく布をそめることができました。(６年生)
◆ムラサキのことがよくわかってよかったです。(６年生)

家庭：キャリアアップ(出前授業)

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】「紫根染（絞り模様入り）の体験教室」
【日　　時】令和５年１１月１５日（水）　１３：３０～１５：３０
【場　　所】本校調理実習室
【事業内容】体験教室　参加者　平笠小５・６年生１２名、本校生１２名
　　１３：３０～１３：５０　　紫根染に関する説明、研究内容の紹介
　　（歴史や紫根の活用方法、染め方など）
　　１３：５０～１５：３０　　絞り模様、媒染作業、紫根染、後媒染、仕上げ
【写　　真】


はじめの挨拶


絞り模様をほどき出来上がり

自分の作品を持って

感想を発表する様子

【本校生徒の感想】原文のまま
◆布を染めるたびに表情が明るくなっていっていいと思った。布を広げた時に「すげー！」と声が上がっていてかわいかった。（高校３年女子）
◆意義はあったと思う。伝統活動は下の世代に伝えていくことで伝わっていくし、何度も行うことで印象に残りやすい。（高校３年男子）

【参加者の感想】
◆しっかり説明してくれたので、分かりやすかったし、楽しかった。いろいろな模様があることがわかりました。（５年生）
◆もようが思っていたのとぜんぜんちがっていておもしろかった。（５年生）
◆紫根染でもようを入れたり、染めたりするのがとても楽しかったです。また、やりたいです。（６年生）
◆紫根染をするときに臭いがけっこうしたけど、きれいにもようがついてよかったです。楽しかったです。（６年生）

家庭：キャリアアップ(調理講習会)

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】家政科学科調理技術講習会

【日　　時】令和５年６月１４日（水）　１１：００～１２：５０

【場　　所】本校調理実習室

【事業概要】家政科学科２年　１１名参加
講師　いこいの村岩手支配人待遇総料理長　藤村　裕士　氏
家庭科食物調理技術検定に向けて、地元のホテルで活躍している総料理長を講師に迎え、調理の基礎・心得・調理技術を学習し、習得する機会とする。

【写　　真】

【生徒の感想】

◆調理技術講習会では､ハンバーグの作り方と牛乳寒天の作り方をご指導いただきました。包丁の使い方かうまくいかず、たまねぎのみじん切りが上手にできず苦戦しました。藤村講師からご指導いただいたみじん切りのコツをしっかり覚え、日頃の料理で活かしていきたいです。

◆寒天の扱い方が普段の実習では、うまくできず固まらなかったのですが、今回の講習会で藤村講師からていねいに教えてもらったので、いつもより牛乳寒天が上手に固まることができました。検定本番では、先生のアドバイスを思いだし合格を目指し頑張りたいです。

◆プロの料理人である藤村講師の包丁さばきの素晴らしさに感動しました。料理の技術だけでなく､働く上での心構えや､料理の楽しさなど大切なことを学ぶことができました。食べる人に喜んで食べてもらえるよう丁寧に作ることを心掛けて料理を作っていきたいです。

家庭：キャリアアップ(そば打ち)

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】家政科学科「そば打ち」伝承学習

【日　　時】令和５年９月20日（水）　１０：５０～１２：３０

【場　　所】本校調理実習室

【事業概要】家政科学科２年　１１名参加
講師　八幡平市食生活改善推進連絡協議会　中軽米こう子氏
日本の伝統料理であり、地域の郷土食でもある「そば打ち」を体験的に学習し、地域の観光資源や郷土の文化伝承について考え、日本の伝統文化の理解を深める。また、培った技術を次の世代へ伝える意義を理解する機会とする。

【写　　真】

【生徒の感想】

◆小学６年生以来のそば打ちでした。そばは、その日の気温、天気、湿度、手の温度や加える水の量でそばの食感が変わることが分かりました。手際よくこねないと、そばが乾燥しすぎてしまうので、素早くこねて、切り、ゆでることを心がけようと思いました。久々に打ってみてやはり難しかったですが、講師に丁寧に教えていただいたおかげでうまく作ることができました。

◆初めてそば打ちをして、こねる作業まではスムーズにできましたが、切る作業にとても苦戦しました。うまく行かないところもありましたが、講師に教えていただきながら進め、同じ太さになるよう心がけて切りました。次は、自分たちでできるように、練習を重ね今回よりも良いそばを作ることができるようがんばりたいです。そば打ちは、とても関心があったので今回の体験はとても良い経験となりました。

◆そば打ちは初めてだったので、どのようにそばができるのかを体験しながら理解することができました。麺棒で生地を伸ばすとき、上手に伸ばすことができずとても苦戦しましたが、講師が丁寧に教えて下さりうまくそばを作ることができました。家にある簡単な道具でそばを作ることができると知り、そばが地域の郷土食になった由来がわかりました。そば打ちは、とても興味をもっていたので、家でも作ってみようと思います。

家庭：キャリアアップ(ホテル実習)

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】「生活産業基礎」第３回職場見学・実習
【日　　時】令和5年12月4日（月）　9：00～15:00
【場　　所】ＡＮＡクラウンプラザリゾート安比高原
【事業内容】家政科学科１年　　11名参加
　　接遇について　客室清掃　フロント業務体験　ショップ業務体験実習
　　館内見学
【写　　真】

客室清掃実践

お辞儀の練習

【生徒の感想】

◆今回の実習で印象に残ったことは、客室清掃とショップ業務体験です。お客様が気持ち良く過ごすために、寝具のシーツのしわを何度も伸ばし綺麗なベットを作ることの大変さを学びました。ショップ業務では、自分のお気に入り商品のポップ書き体験をしました。お客様が興味を持ってくれるような絵や文書を考えとても貴重な体験ができました。勉強になったことは、お客様への立ち振る舞いや接遇マナーについてです。言葉遣いや態度、５つの基本の「挨拶、表情、態度、身だしなみ、言葉づかい」などお客様に対する接し方を多く学ぶことができました。挨拶や表情、動作は、普段から意識してできそうなことばかりなので、これからの生活で挑戦してみようと思いました。

◆今回の実習でとても勉強になったことは、身だしなみと挨拶の大切さです。挨拶や身だしなみは、その人の印象を決めてしまうものだと知り驚きました。身だしなみと挨拶は、これからの生活においてとても意識したいです。ほかにもお辞儀の仕方やクッション言葉の大切さもとても勉強になりました。
接遇マナーやフロント業務についてお話して下さった方々の話し方や身だしなみや姿勢が、とても素晴らしく見ていて気持ちが良く自分もできるようになりたいと思いました。今回学んだことを活かして、人との関わり方を改善し上手にコミュニケーションがとれるように生活していきたいです。

総合学科：大会等助成(農業クラブ全国農業鑑定)

岩手県立久慈東高等学校

【大 会 名】第７４回日本学校農業クラブ全国大会　令和５年度熊本大会

【日　　時】 令和５年10月25日(水)～26日(木)

【場　　所】 熊本県立熊本農業高等学校・熊本城ホール

【大会概要】

専門の学習で習得した農業に関する知識や技術の成果として、実物を見て鑑定・判断する能力を競い合い、その知識や技術の更なる向上を図るものである。研究活動を通して農業クラブ員の資質や技術向上を図る。

（１）競技部門及びその内容

○全国大会参加人数　約３８００名

○競技部門　農業鑑定競技会（参加人数　990名）

○競技内容

農業・園芸・畜産・食品・森林・農業土木・造園・生活の８分野で各分野40問、出題形式は20秒の択一問題と記述問題、40秒問題があり、名称や使用方法等を問う競技である。

(2) 参加者数・氏名　（本校より２名出場）

【農業】環境緑化系列生物生産科目群３年 蒲野　和

【森林】環境緑化系列森林生態科目群３年 前野　塁

(3) 入賞者数・氏名　本校からの入賞者はなし

【写 真】

大会会場 競技前受付風景

大会式典会場

【引率者所感】

農業鑑定競技会は、学校農業クラブ全国大会の競技の中で、最も出場者が多く、全国各地から約１０００人もの学生が集まる盛大な競技会である。全国大会は規模が大きく、参加した生徒たちも圧倒されたようである。入賞することはできなかったが、結果への悔しさなどを口にし、生徒自身の成長に繋がったと実感している。

次年度は、岩手県が全国大会で開催される。来年度こそ入賞へ向けて、一層の努力を生徒たちと重ねていきたい。

総合学科：キャリアアップ(中学校交流学習)

岩手県立岩谷堂高等学校

【事 業 名】奥州市立江刺第一中学校との交流学習
【日　　時】令和５年５月～１０月
【場　　所】岩谷堂高等学校実習田
【事業概要】
　岩谷堂高校の水田を活用し、江刺第一中学校の３年生とイネの栽培をとおして高校と中学生の交流学習を行い、達成感や有用感を育むことを目的として実施します。
（１）イネの栽培
（２）参加者
　ア　総合学科（生物生産系列）２・３年次　４０名
　イ　奥州市立江刺第一中学校３年生　　２１９名
（３）〔田植え〕５月の田植えでは本校生徒は苗の植え方について中学生に技術指導し、中学生はその後、一人ずつ苗を植え付ける体験をしました。
　〔稲刈り〕１０月の稲刈りでは本校生徒は稲刈り鎌の使い方や稲刈りの方法について中学生に技術指導し、中学生はその後一人ずつ稲刈りを体験しました。
【 写 真 】

田植え説明

田植え体験

クラスごと集合

稲刈り説明

稲刈り

くいがけ

【事業運営者感想】
　令和元年度より今回で５年目の交流学習を実施しました。地域の特産でもある「ひとめぼれ」を江刺金札米の製法で栽培していることを知り、地元に根差した教育活動の位置づけとして実施しています。中学校の教科「技術・家庭」技術分野における「生物育成に関する技術」の単元で、イネの栽培について体験をとおして学習を深めることを目的としました。本校生徒は学んだことを活かし、中学生にわかりやすく伝える方法について考え実践することによって、自分の学習について達成感や有用感を育むことができました。

総合学科：キャリアアップ(交流学習)

岩手県立岩谷堂高等学校

【事 業 名】産業技術短期大学校水沢校との交流学習

【日　　時】令和５年７月24（月）～25日（火）（２日間）

【場　　所】岩手県立産業技術短期大学校水沢校

【事業概要】

（１）講習の内容　産業技術短期大学校水沢校に出向いて本校２年次の産業工学科の生徒が本校で学べない実習を学ぶ。実習内容は、電気回路実験の体験等、建築設備の概要、配管課題演習、課題作成等などを中心に指導していただく。

（２）参加者　総合学科（産業工学系列）２年次１４名

【 写 真 】

講習の様子①

講習の様子②

講習の様子③

講習の様子④

【引率者感想】

７月24日、25日の２日間をかけて産業技術短期大学校水沢校にて、本校の産業工学系列の２年生14名の生徒が交流学習を行いました。初日は電気技術科の電気回路実験の体験等を行い、２日目は建築設備科の建築設備の概要、配管課題演習、課題作成等を教わりました。

産技短の先生方が生徒一人一人に丁寧に教えてもらいながらの実習だったため、生徒にとって分かりやすく順調に作業が進みました。特にも配管の作業は生徒も初めての実習で､失敗もしていましたが先生方に補助してもらいどうにか完成した生徒もいました。

今回の交流学習は、校内では実施できない実習や工作機械に生徒が直接触れることができ多くの知識を習得でき、これからの進路選択の上で収穫となる交流学習となりました。

総合学科：キャリアアップ(出前授業)

岩手県立岩谷堂高等学校

【事 業 名】出前講座「わくわく農業サイエンス」として地域小学校との交流学習

【日　　時】令和６年１月～２月

【場　　所】江刺地域小学校

【事業概要】

身近な存在の農業や食べ物を使った体験活動を通し、小学生が農業・食品に関心を持つきっかけとしたい。また高校生が日頃の学習をいかして小学生と交流をすることにより、地域に目を向け、将来地域を支える人材育成の一助とする。

（１）開催場所等

ア　令和６年１月26日（金）江刺愛宕小学校　４年生２クラス

イ　令和６年２月９日（金）稲瀬小学校　３・４年生

（２）事業内容　※下記より小学校の希望する内容を実施

ア　アグリカルチャークイズ（導入）

イ　アグリカルチャーサイエンス

①色変わり水　②人口いくらを作ろう　③果物の皮で風船が割れる？

ウ　食品製造体験

①アイシングクッキー作り　②簡単餅つき（お椀とツキ棒）を各自で体験

③簡単バター製造（ジャム瓶使用）各自またはペアで体験

【 写 真 】

○江刺愛宕小学校での様子

○稲瀬小学校での様子

【事業運営者感想】

今年度、初めての試みとして地域小学校との交流授業を提案した。

本校の生物生産系列（農業）を学ぶ生徒たちが地域の小学校へ出向き、授業をとおして農業や食品の魅力や楽しさを共有できたことは嬉しい限りである。配付した振り返りシートを見て児童も学ぶことの楽しさを実感したようである。児童が新しい発見や高校生の優しさなど具体的に感想文に書かれていたことで本校生徒も達成感を感じたようである。

総合学科：キャリアアップ(特別講演会)

岩手県立紫波総合高等学校

【事 業 名】「子ども文化」特別講習会
【日　　時】令和５年10月31日（火）　10：00～11：50
【場　　所】紫波総合高等学校　保育実習室
【事業概要】紙芝居の演じ方や絵本の読み聞かせについて、先生から指導していただき、その後、グループごとに分かれた生徒が紙芝居を演じる練習をして、発表する。最後に先生のお話し会を見る。
【写　　真】

（先生の読み聞かせの様子）

（生徒がグループで紙芝居を演じる様子）

【生徒感想】
○聞いている人にも楽しんでもらうために舞台の位置や声色、間をとる、抜き方などを工夫していくことが大事だとわかりました。
○先生が言っていた「演じ手も読み手も楽しむこと」という言葉を聞いて、「正しく読む」ことに全集中するという考えを変えようと思いました。
○先生が最後に読んでくれた紙芝居の演じ方でキャラクターの性格、心境、雰囲気が伝わってきてすごい！と感じました。私も嬉しいシーンや楽しいシーンの違いを分けたりして耳で聞いただけでも場面が分かるようにしていきたいです。
○性別の問題や年齢の目線から見ると、重厚な、強めの声質は出せないと思うが、その点を踏まえて保育検定に臨んでいけたらなと思う。
○声の抑揚、話すスピード、間の取り方など普段の演劇部でやっていることと同じだと思いました。ただ、同じ役が続くわけではなく、別のキャラクターをやったりするので、練習が必要だと思いました。保育検定言語表現技術に合格できるよう頑張りたい。
○拍子木や鈴の音、タンバリンを用いる方法もあるんだとわかった。声の高さ、大きさの調節のほかに練習の仕方を知ることができた。保育検定に合格できるようにこれからの活動を頑張りたい。
○始まる前のワクワク感、見ている人が注目するような方法を知りました。自分で読むのも楽しいけれど、読み聞かせを見る方がワクワクして、とても楽しかったです。
○先生の読み聞かせを見て、迫力の違いに驚きました。一人で演じているとは思えないほど、声や話し方が変化していました。私も堂々と読めるように、練習をして物語の世界に入ってもらえるようにしたいです。

総合学科：キャリアアップ(実技講習会)

岩手県立紫波総合高等学校

【 事 業 名 】 令和５年度　福祉講話・体験学習

【 日　　時 】 令和５年５月30日(火)１～３校時（9:00～12:00）

【 場　　所 】 福祉総合実習室、ＪＲ東日本「紫波中央駅」付近

【 事業概要 】 講話や体験活動をとおして、視覚に障がいを持つ方々の生活の理解を図ると共にガイドヘルパーとしての技術や心構えを身につける。

（１）体験学習の内容
紫波町在住の　村上　晃　氏（あけぼの治療院院長）による講話とアイマスク体験及び視覚障がい者の介助の実際

（２）参加者数
福祉・健康系列３年次生11名

（３）参加者の様子・感想等
視覚障がい者の方から直接日常生活の実際に係わる講話や体験活動の指導を受けることはなかなか得ることのできない機会で、参加生徒は興味深く、かつ真剣に本学習に臨んでいた。

【 写　　真 】(事業の様子がわかる写真)

①

②

③

④

総合学科：キャリアアップ(実技講習会)

⑤

⑥　　⑦　　⑧

※①②講話（福祉総合実習室)、③④⑤ガイドヘルプ実習(オガール付近)、
⑥⑦⑧ガイドヘルプ実習(紫波中央駅)

【 引率者の感想等 】

まさに生きた知識と技術を指導していただくことができ、参加生徒のみならず指導者である教員にとっても希有な機会とすることができた。

総合学科：キャリアアップ(フラワー講習会)

岩手県立北上翔南高等学校

【事 業 名】フラワーアレンジメント講習会

【日　　時】令和５年９月４日（月）

【場　　所】北上翔南高等学校　保育技術室

【事業概要】

学校設定科目「生活教養」を選択している生徒を対象に、ドライフラワーを使ったスワッグの基本的な制作技能を習得させる。

（１）実技講習会の内容

(有)パルテールより講師を招聘して、ドライフラワーを使ったスワッグ(壁飾り)の制作技術を学びました。花材の組み合わせや配置により作品の雰囲気が変わることから、難しさと楽しさを感じながら制作しました。初めて制作する生徒たちは、自分好みの色合いに仕上がったスワッグに達成感を感じていました。作品は持ち帰り、各家庭で飾る場所を考えることで、生活空間をデザインする学びにつながりました。

（２）対象生徒数　32名

【写　　真】

【生徒の感想等】

・どの花をどこに配置すれば、メインの花をつぶすことなく、全体がきれいに見えるかを考えるのが少し大変でしたが、それも楽しかったです。
・花材の組み合わせ方や配置によって、スタイリッシュな見た目になったり、かわいらしい見た目になったりすることがわかり、イメージを考えるのが楽しかったです。
・花の色の系統をそろえて作ったので落ち着きのある作品にすることができました。
・色々な花材を使い過ぎたのか、思っていたよりも豪快になってしまい、バランスが良いとは言えないがいい経験になりました。
・ドライフラワーはすべて独特のにおいをもっていて、いい香りだと思いました。
・見ても作っても楽しい気持ちになるものを作ることができました。
・みんな個性豊かに出来上がり、見ていて癒されました。
・ドライフラワーは生の花と違い大人っぽい雰囲気になるのでとても楽しかったです。

総合学科：キャリアアップ(フランス料理講習会)

岩手県立北上翔南高等学校

【事 業 名】フランス料理講習会

【日　　時】令和６年１月31日（水）

【場　　所】北上翔南高等学校調理実習室

【事業概要】

「フードデザイン」を選択している生徒を対象に、フランス料理の献立構成や調理の基礎基本を習得させる。

（１）実技講習会の内容

ザ・ジャポナイズリサージュ様から講師を招聘し、きのこのシチューパンと北上四元豚のロースト時季野菜のグリル添えの２品を調理しました。

（２）参加者数　　環境系列２年次　9名

【写　　真】

【生徒の感想等】

・塩をかけるタイミングで食材の水分量が変化することや豚肉の扱い方など、初めて知ることが多く、フランス料理について楽しみながら勉強することができました。
・初めてパンを作り、パン作りの大変さと楽しさを知ることができました。家で作って家族に食べさせたいです。
・私は将来洋食関係の仕事に就きたいと思っていて、この講習会で肉の部位の違いやパンの発酵について勉強できて嬉しかったです。将来の道の第一歩になりました。

総合学科：キャリアアップ(西洋料理講習会)

岩手県立久慈東高等学校

【事　業　名】　食物系列３年　西洋料理実技講習会

【日　　時】　令和５年１１月２２日（水）

【場　　所】　久慈東高等学校　専門調理室

【事 業 概 要】　地域の食材を生かした西洋料理を展開し、地方の活性化に貢献されているシェフの生き方や料理の感性に身近に触れ、技術向上と自身の将来の展望を探る。

（１）講習会日程・内容

１０：００～

講師紹介、講話及びデモンストレーション

講師：伊 藤 勝 康 氏（ロレオール田野畑オーナーシェフ）

１１：００～１２：３０

実習、試食

〈献立〉①「鮭のムニエル」

付け合わせ：ほうれん草・椎茸・はやとうり・カブのソテー

②「短角牛のサーロインステーキ　山葡萄ソース添え」

付け合わせ：ブロッコリーソテー、マッシュポテト、フライドポテト

③「鮭のアラとわかめのスープ」

④「カブと鮭の魚醤の炊き込みご飯」

⑤「リンゴのキャラメリゼ」

（２）参加者数　　食物系列３年　１５名

（３）参加者の様子

講師紹介の後、伊藤シェフから地域の食材との向き合い方や調理師としての志などの貴重なお話をしていただき、とても興味深く聞き入る生徒たちの姿がありました。食材を見ながら、どれを何の料理に使うのか、調理法はどうするのか、伊藤シェフの問いかけから、全員で献立を考えました。生徒たちは問いかけに対し楽しそうに答える姿が印象的で、最初の緊張した雰囲気から一転、楽しんで調理を行っていました。

素材を生かした調理を教えるため、口頭説明のみの実習で、普段の実習とは真逆の指導方法に生徒達は、指示を聞き逃さない様に真剣にメモをとっていました。

伊藤シェフは各班を回りながら調理技術を指導すると共にコミュニケーションをとっていたので、生徒達が積極的に質問をする姿も見られました。食材の音を聞くことや、味見の重要性、上手な人からいかに技術を盗むかなど、これから調理に携わっていくうえで必要なスキルを教えていただきました。

普段は使わない南部鉄器を使用し､地元食材の素材を生かした調理に刺激を受け、地域の良さも改めて感じる事が出来た実技講習会となりました。

（４）生徒の感想

○今回の講習会を受けて、改めて食材それぞれに個性があり、その構成を生かして調理することが大切だと思いました。また、いつもの調理実習では、レシピに頼り過ぎていたので、レシピは目安に過ぎないということや、味見や音など五感の大切さを学ぶことができました。一番信じるのは自分の舌だということも学びました。シェフの料理に対する考え方や感性に直接触れることができ、食が人にどのように関連しているのかなど、シェフの考えを参考にしながら、今回教わった調理のコツやポイントをこれからの調理の道に生かしていきたいです。（３年男子）

○今回の講習を受けて、食材そのものの味を最大限に生かす調理法を学ぶことができました。７０℃程度のお湯でサッとゆで、南部鉄器で焼いたほうれん草は甘味と香りを強く感じました。シェフがおっしゃった「五感を生かして食材の焼き加減は食材に聞く」という言葉がとても印象に残りました。これまでは決められたレシピ通り時間を計って調理していたので、音の違いがよくわかりませんでしたが、これからは音を意識しながら調理したいです。（３年女子）

○伊藤シェフのお話から、人との繋がりやその地域でしかとれない食材・素材と向き合うことなど、大切なことを知ることができました。岩手には色々な野菜、海の幸、山の幸が溢れていて、この岩手でしか作れない料理を考え、素材を生かして作り上げていくことがすごいと思いました。また、調理中は音に耳を傾け、五感を働かせることが大切なことを知りました。最初はあまり話せないかと思いましたが、だんだん緊張もなくなり楽しむことができました。知識や技術を聴いたり見たりして、本当に「プロはすごい」と感じました。これからも人とのつながりを大事にして、失敗を恐れず、色々なことに挑戦していきたいと思います。（３年女子）

○今回の講習を受けて、これまで和食や中華料理に興味があり、あまり西洋料理について知らなかったが、今回の料理がとてもおいしく、自分でも色々なものを作ってみたいと思いました。西洋料理ではいろいろなソースが使われているので、色々なものを自分の舌で味わって、将来自分の料理に生かしていきたいと思いました。
シェフのお話はすべて勉強になることばかりだったが、特にも加熱具合を音で判断することは、すぐにでも取り組んでいこうと思いました。今後、五感で料理できるように、美味しい料理を作れるように頑張っていきたいです。（３年男子）

○今回、西洋料理について知識・技術を高めるとてもいい機会になりました。レシピは目安的に考え、食材の成分・特徴を生かすということが、すごく勉強になりました。私は将来医療・福祉系の仕事に就きたいと考えていますが、伊藤シェフがおっしゃっていた「食が一番大切」という言葉を聞き、ますます『介護食士』を目指したい気持ちが強くなりました。食材を生かした美味しい料理はもちろん、体に良い料理を作っていきたいと思いました。「一度や二度の失敗は大丈夫」という言葉を励みに、何事にも積極的に挑戦して行きたいと思います（３年女子）

総合学科：キャリアアップ(裂織講習会)

岩手県立一戸高等学校

【 事 業 名 】　生活・文化系列　家庭　伝統工芸「裂織」実技講習会

【 日　　時 】　令和６年１月３０日（火）

【 場　　所 】　いちのへ手技工芸館

【 事業概要 】

　二戸地域の伝統工芸である「裂織」を体験することで織物について学ぶとともに技能継承の意義を考えさせる機会につなげる。

（１）実技講習の内容　地域に伝わる「裂織」の体験

（２）参加者数　　総合学科生活・文化系列（家庭）　服飾手芸選択者　１０名

【 写　　真 】

裂織体験１

裂織制作物

【 生徒の感想 】

○初めて「裂織」を体験してみて、お手本の先生のやり方と説明を聞いている分には簡単だと思っていたけど、実際にやってみると手足を同時に動かしたり、織る以外にも布の準備など思った以上に大変だった。後半からは折り方も理解して楽しく織ることができてよかった。「裂織」は織る以外にも多くの工程があって想像以上に難しくて苦戦した所も何度かあったけれど、先生が優しく丁寧に教えてくれたので分かりやすかった。またいつか「裂織り」をやりたいなと思ったし、私の周りの人に「裂織」の魅力を知って欲しいと思いました。

○体験するまで「裂織」は知らなかった。しかし実際にやってみたら意外とできたし楽しかった。初めて織機を見たときは複雑そうで難しいと思ったけれど、手本通りにやったら普通にできた。真っ直ぐに糸を通すことができたので、初めての人でもできると思った。模様もいろいろなものがあって見ていていいなと感じた。全て手作業というところに歴史や伝統があるとも感じた。誰でも楽しくできると思うので全国にＰＲできるかもしれないと感じた。

福祉科：大会等助成(全国介護コンテスト)

岩手女子高等学校

【 大 会 名 】第３３回全国産業教育フェア福井大会 さんフェア福井２０２３
第１０回全国高校生介護技術コンテスト

【 日 時 】令和５年１０月２９日（日）

【 場 所 】福井県立奥越明成高等学校

【 大会概要 】
福祉を学ぶ生徒が、介護技術を競い合うことにより、高校生の介護技術を高めるとともに、様々な介護場面において、適切かつ安全に支援できる能力を育成するものである。
（1）競技概要：課題に対する介護技術及び説明を競う。
ア 競技時間：課題検討２５分、競技７分、説明２分
イ 競技内容：「A 移動の介護・B 排泄の介護・C 身じたくの介護・D 食事の介護」のうち、A～DまたはA～Dを組み合わせたものとする。
（2）参加校：全国より各地域の予選通過した１２校（各３名ずつ）
本校福祉教養科３年生 西田喜泉・藤原ななみ・向井愛美
（3）大会結果：奨励賞

【 写 真 】

競技中の様子 1

競技中の様子 2

大会会場にて

閉会式・表彰式後の写真撮影

福祉科：大会等助成(全国介護コンテスト)

【生徒の感想】

全国高校生介護技術コンテストに臨むため、最後の施設実習が終わってから毎日自分たちの介護を磨いてきました。利用者の基本情報をもとに、ご本人に合わせた支援方法を見出し、根拠に基づく介助の展開と共に、安心感のあるコミュニケーションを目指し、放課後の練習を重ねました。

本番では、多くのギャラリーに囲まれ、２校同時に競技を行うという慣れない状況の中で、他校の選手の声やテンポに飲み込まれそうになりましたが、自分たちが取り組んできた「思いやり溢れる寄り添う介助」を提供できるよう、丁寧な介護を心がけました。結果は奨励賞でしたが、他の高校生の介護技術、創意工夫を凝らした声掛け等を後輩たちにも還元していきたいと思います。そして、貴重な全国の舞台での経験を活かし、近い将来、岩手の福祉現場に貢献していきたいです。

これまで応援してくださった多くの方々と、大会参加にあたってご支援くださった岩手県産業教育振興会の皆様に心より感謝いたします。

大会等助成（中学校技術家庭部会）

岩手県中学校教育研究会技術・家庭科部会

【大会名】実践交流会2023

【日　時】令和５年８月２日（水）

【場　所】釜石市民ホールTETTO

【事業内容】

未来社会の創り手となる資質・能力を育成する技術・家庭科教育

～ 問題を見いだし、解決する題材開発とその評価 ～

①実践交流（技術領域４分科会　家庭領域３分科会　計７分科会）

②体験活動（希望者のみ）

A バイオディーゼルカーと取り組みについて見学・講義

B 魚の加工食品製造工場見学

【写　真】

実践交流会の様子

体験活動で見学した小野食品株式会社様

【事業紹介】

「実践交流会2023」を釜石市民ホール TETTOで開催しました。参加者数は58名で、午前中は７分科会に分かれ実践交流会を行いました。実践交流では、技術領域４分科会と家庭領域３分科会に分かれて、日頃の授業実践や研究推進に向けて意見交換を行いました。また午後の体験活動では、技術・家庭分野に分かれ有意義な研修を行うことができました。

今回の交流会では、釜石地区の技術・家庭科の先生方が様々なアイディアを持ち寄り、会場の選定や講師手配等の準備をして下さいました。参加者の評判も上々で、有意義な交流会になりました。これからも、県研究部・県事務局と各地区の研究会との繋がりを大切にしながら、子どもたちのために研究を更に深めてまいりたいと思います。

さんフェア福井2023

職業系高校ならではの興味深い発表や展示、体験コーナー、コンテストが盛りだくさんです。どなたでもお気軽にお越しください！

さんフェア福井2023

入場無料

令和5年
10.28(土)29(日)

福井県生活学習館 10:00～16:00(28日) 9:30～16:00(29日)
福井県産業会館 11:00～16:00(28日) 9:30～14:30(29日)
福井県営体育館 9:00～16:00(29日)
※その他の会場については別チラシをご覧ください
福井駅より無料シャトルバス運行！

作品展示
産業会館1、2号館

全国のいろんな学科の取り組みを知って将来に生かそう！

作品展示の**集中説明会**
28日 12:00～13:00
29日 12:30～13:30
※説明は随時行なっています

話を聞いて、スマホで「イイね！」投票お願いします！

映えスポット
産業会館1、2号館

各専門部ごとに映えスポットを作ったよ！コンプリートしてSNSにUPしよう！

祝 新幹線開業
産業会館1、2号館の間

高校生考案のおみやげ先行販売！

企業さんと開発した駅弁やおみやげを限定販売します

各専門学科の体験コーナー

無料

産業会館1、2号館
材料が無くなり次第終了します

農業部

- トマトの糖度を測定してみよう
  高糖度トマトの甘さにびっくり?!
- まつぼっくりツリーを作ろう
  かわいいオリジナルツリーを作ろう
- 多肉植物の寄せ植え
  素敵なインテリアに！
- 恐竜コースターの絵付け
  はびりゅうのコースターを作るよ
- フラワーアレンジメント
  フラワーアレンジメントを作ってみよう

商業部

- 越前和紙でカード入れを作ろう
  和紙の風合いがおしゃれ！
- メガネわくでスマホ立てを作ろう
  好きなメガネ枠を使って簡単に作れるよ

水産部

- VRで水中散歩
  小浜の海の中を歩いてみよう！
- ロープワーク体験
  船乗りのロープの結び方をマスターしよう
- ダイビング体験
  ダイビング機材のセッテイング体験と動画放映

工業・情報部

- ドローン操縦
  ミニドローンを飛ばしてみよう
- 燃料電池カーの製作
  マグネシウムと塩と酸素で発電して走る車を作ろう
- 県産の杉で時計の製作
  木のオリジナル置き時計を作ろう
- 県産の杉でペンダントの製作
  木のオリジナルペンダントを作ろう
- オリジナル缶バッジの製作
- しおりの製作

看護部

- 看護の仕事を体験しよう
  シュミレーター使って肺音、腸の蠕動音を聞いてみよう
- 赤ちゃんのからだを知ろう
  抱っこの仕方や赤ちゃんの体のしくみを体験で学ぼう
- AEDを体験しよう
  いざという時に使えるようにしよう！

特別支援部

特別支援学校の取組みの紹介や作品の展示、実演、販売をします

- さおり織りの体験、販売
- リボントレイ製作等体験
- クイックマッサージ
- 喫茶サービス
- 園芸製品、製菓、木工、窯業、多肉植物の展示販売

ファッションショー

生活学習館 多目的ホール
28日 11:15～12:00

テーマ
[Magical Moments]

記念講演

29日 13:30～14:30
生活学習館 多目的ホール

鈴木雅剛氏
(株)ボーダレス・ジャパン
代表取締役副社長

「何のために働くか。誰のための仕事か。」

ボーダレスジャパンは社会問題をビジネスで解決するソーシャルビジネス専門の会社です。
若者の起業も応援しています。

全国高校生ビジネスアイデアコンテスト

生活学習館　29 日
9:30~13:00

全国さんフェア初開催！
予選を勝ち抜いた
10 アイデアの
決勝大会です

全国高等学校ロボット競技大会

県営体育館　29 日 9:00~16:00

各県の予選を勝ち抜いた 96 チームが出場します
恐竜化石に見立てたアイテムを発掘して、福井駅前恐竜広場等に、いかにたくさん設置できるかを競います

全国高校生 フラワーアレンジメントコンテスト

中小企業産業大学校
28 日 10:00~15:30
○プロによるデモンストレーション
　13:50~14:50
○作品展示　29 日

全国から68名が出場
福井県らしい花材をアレンジします

全国高校生 クッキングコンテスト

奥越明成高校　29 日 9:00~14:30

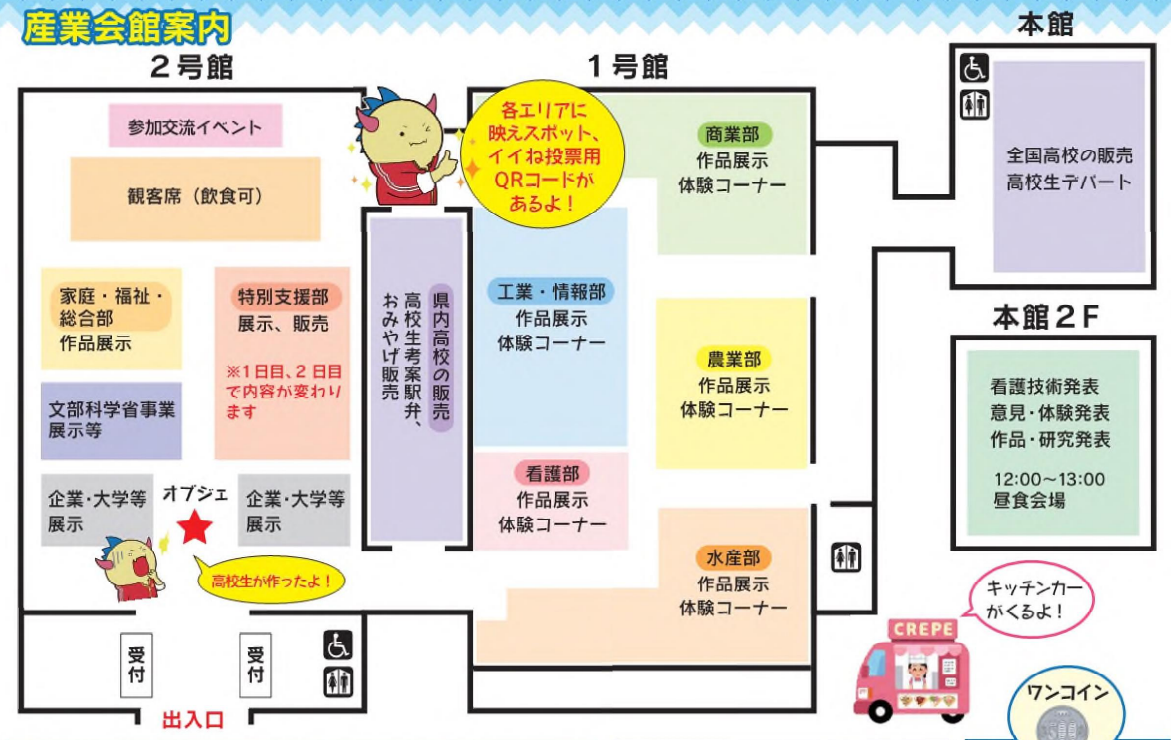
「幸福をよぶ丼ランチ」をテーマに 50 分で 3 食分作ります

全国高校生 介護技術コンテスト

奥越明成高校　29 日 9:15~15:00

直前に出される課題をもとに介護をします

産業会館案内



意見・体験、作品・研究発表

産業会館本館2F　28 日、29 日
福井県は福井高校、福井南高校、若狭高校、若狭東高校が発表します

文部科学省事業発表会

生活学習館　28 日
マイスター・ハイスクール指定校の発表
福井県は坂井高校、若狭高校が発表します

看護技術発表会

産業会館本館2F　28 日　福井高校が発表！

農業、工業、商業、水産、家庭、福祉、看護、情報、総合学科の代表校が発表します。
また、意見交換会を行います。

販売

- 全国、福井県の高校の生産物の販売
- 武生商工デパートの支店開店
- 高校生が企業とコラボした商品の販売
- 新幹線開業に向けて開発した駅弁、おみやげの販売

ミニツアー

ワンコイン

29 日　8:45~12:20
(福井駅発 産業会館着)

永平寺、一乗谷朝倉氏遺跡博物館を高校生がご案内します！

公式HPよりお申し込みください！

令和５年度「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」募集要項

公益財団法人産業教育振興中央会
公益社団法人経済同友会

１．趣旨

今日、我が国では、ＡＩやIoT などの急速な技術発展により産業構造も大きく変わり、グローバルな競争も激化している。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、オンラインによる授業や会議も定着してきた。さらには、ＳＮＳの普及により、自ら情報発信できる一方、情報を取捨選択する社会になってきている。このように急速に変わる社会において、今後とも我が国がさらに活力を増し、発展して行くためには、未来を支える若い世代の力が必要であり、とりわけ、将来の自己の仕事に明確な目的意識を持ち「しごと」に直結する知識や技術を学んでいる専門高校の生徒には大きな期待が寄せられている。

このため、将来の日本の産業・企業を支える専門高校の生徒の学習意欲の高揚を図るとともに専門教育に対する社会からの関心を高め、専門高校の活性化を図るため、専門高校の生徒を対象に、公益財団法人産業教育振興中央会及び公益社団法人経済同友会の共催により「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」を実施する。

２．応募資格

専門教育を主とする学科（専攻科を除く。総合学科を含む）に在籍する高等学校生徒

３．作品募集内容

(1)研究文の部

・個人またはグループによる専門教育に関する研究・実験・調査等の研究の成果をまとめたものであること。
・未発表のものであること。
・A4判縦型（1ページは、22字×38行×２段）８ページ以内（写真・図表等を含む）とし、電子データで作成すること。
・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に、横２段に通して10行分（左段10、右段10計20行分）に入れること（原稿１枚目のみ）。
・写真･図表等がある場合は、その分の余白（標準１段８行分）を取り、挿入個所をご指定するか、原稿に直接貼り付けること。

(2)作文の部

・個人が現に学んでいる専門教育での体験について、感想・決意・抱負・将来の仕事などを述べたものであること。
・未発表のものであること。
・A4判縦型（1ページは、22字×38行×２段）２ページ以内とし、電子データで作成すること。
・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に、横２段に通して10行分（左段10、右段10計20行分）に入れること（原稿１枚目のみ）。

4．応募方法

(1)応募作品は、学校所在地、学校名、学科名、学年、氏名を明記した表紙（A4判）を添付し、学校長を経由して、学校所在の各都道府県産業教育振興会宛（振興会の定める必要部数を期日まで）に提出すること。

(2)各都道府県産業教育振興会においては、応募作品を取りまとめ、９月11日(月)までに作品1部と電子データを産業教育振興中央会宛に送付すること。

5．審査

農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉の各専門高校校長協会及び経済同友会より推薦された者を審査委員として、10月下旬～11月上旬までに応募作品を審査し、「研究文」及び「作文」のそれぞれについて、産業教育振興中央会から最優秀賞、優秀賞、佳作を決定する。経済同友会賞は、12月中旬～翌1月初旬に決定する。

6．審査結果の発表等

審査結果については、産業教育振興中央会より各振興会長宛に通知し、学校長及び本人に伝達を依頼するほか、月刊誌「産業と教育」の誌上で発表する。また、併せて、経済同友会HP に掲載する。なお、入選作品（最優秀賞、優秀賞等）については、本会の文集「‘翔, 」第33 集（令和５年度版）として刊行し、教育諸機関へ頒布する。また、経済同友会HP に掲載する。

(1)入選作品の掲載に際し、その本質を損なわない範囲で、字句の削除、修正をすることがある。

(2)応募作品は返却しない。

(3)今回の募集で得た個人情報は、受賞者への連絡及び受賞作品の出版、web サイトへの掲載以外には使用しない。

7．表彰

(1)産業教育振興中央会より「研究文」及び「作文」ごとに次の表彰を行うものとし、賞状と副賞（図書カード）は、所属学校長を経由して本人に伝達する。

			「研究文の部」	「作文の部」
最優秀賞	研究文・作文	各１編	15,000円	10,000円
優 秀 賞	研究文・作文	各２編	10,000円	5,000円
佳　　作	研究文・作文	各５編	3,000円	2,000円

(2)経済同友会における表彰については、賞状と盾を授与する。

経済同友会賞　研究文・作文　　各３編程度

令和５年度　岩手県産業教育振興会主催

「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」募集要項

1　主　　催　　岩手県産業教育振興会（公益財団法人産業教育振興中央会）

2　趣　　旨　　産業の各分野における急速な技術革新の進展に伴い、専門教育の充実に新たな期待が寄せられている。このため、専門高校に学ぶ生徒の自覚と学習意欲の高揚を図るとともに、専門教育に対する社会的な関心を高めることに役立てるよう、研究文・作文を募集し、表彰を行う。

3　応募資格　　専門教育に関する学科・コース(専攻科を除く)に学ぶ高等学校の生徒であること。

4　内　　容

(1) 研究文の部

・個人またはグループによる専門教育に関する研究・実験・調査等の研究の成果をまとめたものであること。
・未発表のものであること。
・Ａ４判縦型（1ページ22字×38行×２段・フォントサイズ10.5ポイント）８ページ以内とし、電子データで作成すること。
・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は最初のページの頭に、横２段に通して10行分(左段10、右段10計20行分)に入れること（原稿１枚目のみ)。
・写真･図表等がある場合、その分の余白（標準１段８行分）を取り、挿入個所をご指定するか、原稿に直接貼り付けること。

(2) 作文の部

・個人が現に学んでいる専門教育での体験について、感想・決意・抱負などを述べたものであること。
・未発表のものであること。
・Ａ４判縦型（１ページ22字×38行×２段・フォントサイズ10.5ポイント）２ページ以内とし、電子データで作成すること。
・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に横２段に通して10行分(左段10、右段10 計20行分)に入れること。(原稿１枚目のみ)

※　なお、研究文・作文とも未発表のものに限るが、今年度の県内の研究会等において発表したものについては、未発表として取扱うものとする。ただし、県代表として東北大会以上で発表したものは既発表として扱う。

5　応募方法

・研究文・作文の応募作品の一覧をEXCELファイルで作成すること。
応募作品一覧には学校所在地、学校名、作品ごとにタイトル、学科名、学年、氏名、フリガナを明記すること。

・応募作品一覧と研究文・作文の応募作品は、メールの添付ファイルにより岩手県産業教育振興会あてに送信すること。

6　締切期日

令和５年８月２５日（金）

7　審査・推薦

・応募された作品は全て産業教育振興中央会に推薦する。ただし、産業教育振興中央会未加入校の作品を除く。
・岩手県産業教育振興会では産業教育振興中央会とは別に審査し、最優秀賞、優秀賞を決定し表彰する。
・審査の観点は次のとおりとする。

(1) 主題の設定が適切で高校生にふさわしいか。
(2) 計画が適切で綿密に進められているか。
(3) 記録が正確で資料が適切に使われているか。
(4) 内容が適切で創意工夫が見られるか。
(5) 結果のまとめが適切であるか。

8　審査結果の発表

審査の結果については、令和５年１２月上旬までに、高等学校長あてに通知する。

9　表　彰

(1) 岩手県産業教育振興会では入選作品について、記念品を添えて次のとおり表彰する。

ア　最優秀賞　　研究文・作文各１編
イ　優 秀 賞　　研究文・作文各１編
※　研究文については学校表彰とする。
※　今年度は「佳作」の表彰及び表彰状の送付は予算の関係で行わない。

(2) 産業教育振興中央会における入選作品の表彰は、次のとおりである。

ア　最優秀賞　　研究文・作文各１編
イ　優 秀 賞　　研究文・作文各２編
ウ　佳　　作　　研究文・作文各５編
エ　経済同友会賞　研究文・作文各３編
※　研究文については学校表彰となる。

10　その他

(1) 入選作品については、「事業活動報告書」を掲載する。
(2) 作文については、校内で選考し、各学科(１～３年)ごと３編以内で応募すること。

※　１編目：機械科１年○○　２編目：機械科３年○○　３編目：機械科３年○○
　　１編目：電気科２年○○　２編目：電気科３年○○
　　１編目：土木科３年○○　２編目：土木科３年○○　３編目：土木科３年○○

岩手県産業教育振興会　専門高校生徒の研究文・作文コンクール
研究文の部　最優秀賞　受賞作品

銀河のしずくの販売戦略　～販売拡大を目指して～

岩手県立盛岡農業高等学校
植物科学科　３年
折戸　美優　　加藤　愛佳　　佐々木　琢磨
瀧本　虎獅　　舘石　琳香　　西野　颯
三上　夢翔　　和田　耕之介

１　はじめに

今年で創立144年をむかえる盛岡農業高校は県内で最も歴史のある高校であり、現在は滝沢市に校舎を設置しています。本校の水田は８haであり、実習の際は学校のバスを使用して移動しています。

本校の稲作栽培の歴史も古く、明治21年から脈々と受け継がれてきました。本校作物研究班は、水稲を中心に、普段の授業や実習をとおしてその栽培や管理、商品化や販売、生育の特性について学んでいます。

また、合鴨農法やイモ類、トウモロコシ、豆類など、複数の栽培品目にも挑戦しています。

２　研究の動機

岩手県では毎年、水稲品種「銀河のしずく」の栽培拡大が続いており、令和４年度は前年度比で135%が作付けされました。本校ではあきたこまちが主軸商品になっていましたが、私たちも、岩手県の農業高校として岩手のブランド米を生産したいと思い、銀河のしずくの導入を目指すことにしました。本校でも、数年前から銀河のしずくを栽培していましたが、小規模であり試験的なものでした。さらに、収穫した米の成分を調査したところ、タンパク質の基準をクリアできていないという実態がありました。

また、岩手県の銀河のしずく栽培マニュアルには、県公認のロゴマークを使用するために必要な品質基準として、１等米であることと、タンパク質含有量がドライベースで7.3%以下であることとなっています。先輩方が栽培した令和３年度産の銀河のしずくにおいては7.4～7.5%と基準をクリアできていないのが現状でした。

銀河のしずくの販売は、基準値をクリアしていなくとも可能なのですが、県公認のロゴを使えないためブランド力は落ちてしまいます。

事前の学習によりあきたこまち用の肥料は窒素分が高いことが課題として挙げられたため、肥料設計を見直すことを研究の中心としました。

また、昨年度、先輩方は密苗栽培の研究を行っていました。密苗とは播種の密度を上げて育苗をすることです。このことにより労働力の省力化が得られることができ、同時に品質分析においてタンパク質の減少が確認されました。私たちは、この品質の変化について着目し調査を行い、その結果を検証しながら、栽培基準のクリアに向けて活動を進めることにしました。

図１

3　テーマ設定

今回の研究の内容は、銀河のしずく販売戦略であり、大きく２つのテーマを設定しました。

１つ目は、「盛農産銀河のしずく」のタンパク質基準のクリアです。

取り組みとして、①窒素減肥料の使用、②密苗を利用した栽培を設定しました。

２つ目は、銀河のしずくの販売促進です。

取り組みとして、①生産の拡大、②新商品の企画を設定しました。

図２

4　計画

作業計画について、今回は肥料に着目するため、管理方法や作業時期などは慣行栽培に基づき行いました。早生品種の「あきたこまち」に比べ「銀河のしずく」は中生品種のため、早い時期に播種と田植えを行っています。

テーマ１の計画については、銀河のしずくの施肥基準は、元肥の窒素量で10ａあたり６kgです。窒素、リン、カリが15－15－15のコートオール15が従来肥料で、窒素量は10ａあたり4.5kgでした。

これに対し、窒素減肥料として設定したみのり10号では窒素、リン、カリが10―12―15で、10ａあたり4.0kgで設定しました。

次に調査にあたり、通常播種、オール15を使用した20号田を対照区とし、みのり10号を使用した21号田と22号田を調査区としました。また、22号田は密苗としました。

テーマ２の計画については、従来、銀河のしずくは栽培量が少ないため、白米しか販売していませんでしたが、玄米の販売を企画し、あきたこまちと比較することにしました。

また、栽培面積については0.6haから２倍の1.2haを計画しました。

5　仮説

実施に当たって、それぞれに対する仮説を設定しました。

テーマ１では、「窒素減肥料と密苗を組み合わせた栽培で基準をクリアする。」

テーマ２では、「あきたこまちより銀河のしずくに需要がある。」です。

この二つを総合的に判断し、達成されれば経営が改善されることとなります。

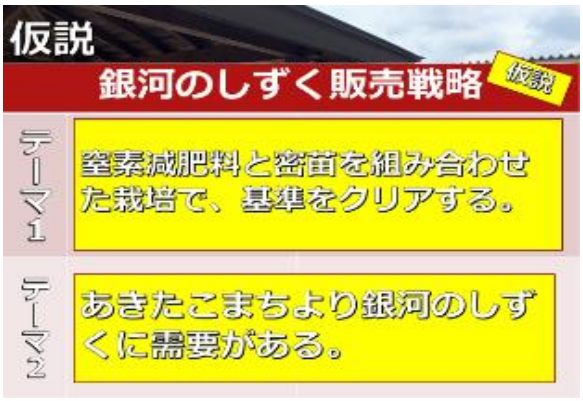


図３

6　検証結果１　タンパク質基準のクリア

テーマ１では、20号田から23号田についてそれぞれ、生育調査と収量調査および品質検査を行いました。

生育については、草丈と茎数を測定しました。草丈は表１のとおりとなりました。

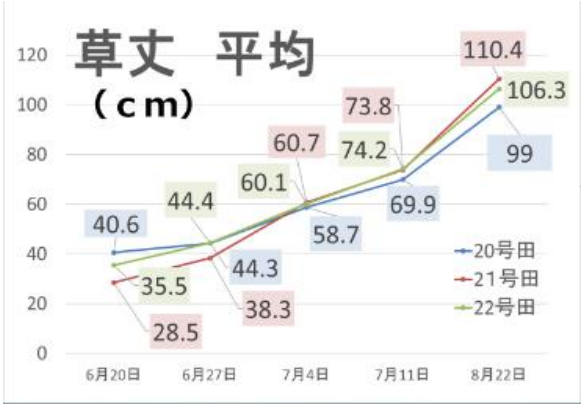


表１

生育初期と後期で草丈が逆転しており、最高分げつ期を過ぎた８月下旬でも伸び続けていました。農業改良普及センターのデータと照合すると、どの苗も20㎝以上徒長していることがわかりました。私たちの調査の方法にもばらつきがあったと思われますが、土壌に蓄積している窒素分も調査をしていく必要があると感じました。

茎数については、表２のとおりとなりました。

表２

最高分げつ期に21号田で茎数が大きく増加しましたが、最終的にはあまり大きな差はみられませんでした。これについてはデータのばらつきがありましたが、こちらについてもどれかが特異的な数値を示すことはありませんでした。

次に、収量についてです。データは表３のようになりました。肥料が減るほど収量は低くなり、肥料量と収量の関係とおりの結果となりました。同じ肥料量でも密苗区は収量が減っていますが、

これは密に育苗をした分の差と分析しました。

表３

次に、品質についてです。等級検査については、株式会社こめやに依頼しました。株式会社こめやの平野さんから、等級検査のポイントについて指導していただきました。結果は、表４のとおりとなりました。あきたこまちでは２等米が発生しました。これは、収穫前の台風により倒伏の被害が発生し収穫を早めたため、青米が多くなってしまったことが原因であると考えられます。

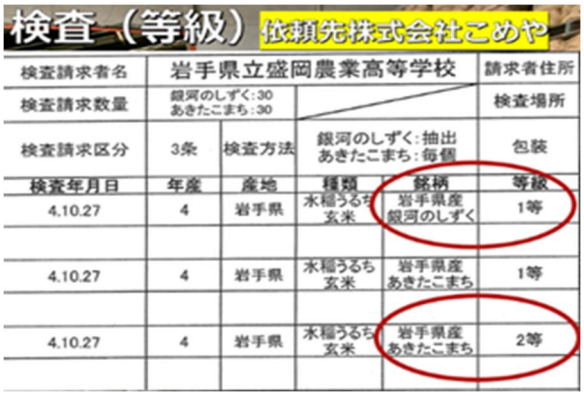
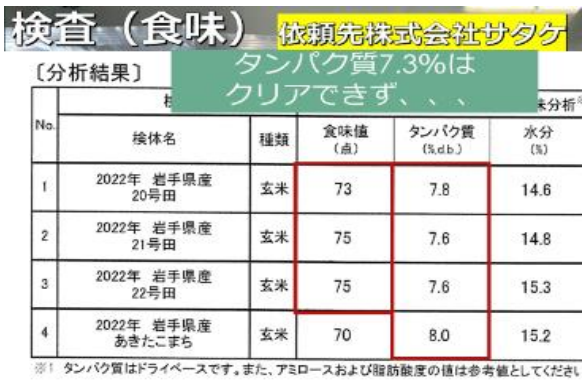


表４

一方、銀河のしずくは全てが１等米となりました。銀河のしずくは倒伏耐性が強い品種であり、通常とおり収穫できたことが理由と考えられます。

食味検査は、株式会社サタケに依頼しました。データは表５のとおりになりました。タンパク質の値は20号田で7.8%、21、22号田で7.6%となり、昨年よりも0.1%高くなってしまいました。したがって本年度も7.3%の基準をクリアできない結果

となりました。しかし、食味値においては、あきたこまちの70点に比べ、銀河のしずくはどの調査



〔分析結果〕

No.	検体名	種類	食味値（点）	タンパク質（%d.b.）	水分（%）
1	2022年 岩手県産 20号田	玄米	73	7.8	14.6
2	2022年 岩手県産 21号田	玄米	75	7.6	14.8
3	2022年 岩手県産 22号田	玄米	75	7.6	15.3
4	2022年 岩手県産 あきたこまち	玄米	70	8.0	15.2

※1 タンパク質はドライベースです。また、アミロースおよび脂肪酸度の値は参考値としてください

区でも食味値が高くなりました。

表５

７　テーマ１の考察

テーマ１について、品質検査の結果から仮説は立証されませんでした。今回の検証では、昨年よりも肥料量を下げたのにも関わらずタンパク質含有量が低下しなかったことから、元肥の影響は低いと考察しました。したがって、別な要因が関与している可能性が高いと考えられます。生育調査のデータから、草丈の徒長と８月下旬にかけての伸びが確認されており、春に投入した土壌改良剤が生育後期から登熟の時期に追肥の効果を与えているものと考察しました。

また、密苗の効果については他の調査区と比べ品質はほとんど変わらなかったものの、収量が減少したため、効果は期待できないと考えました。

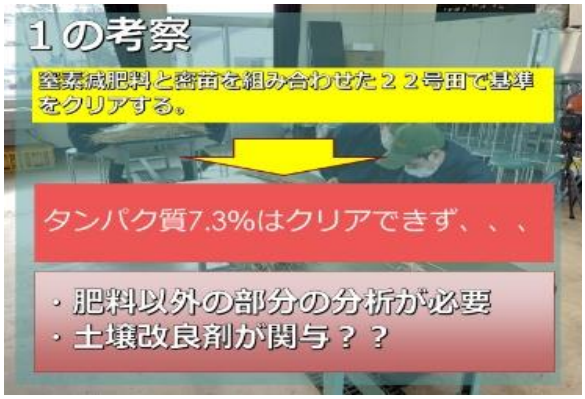


図４

８　検証結果２　販売促進

栽培面積の拡大については、昨年の２倍であり水田全体の８分の１となる1.2haとし、生産を拡大させました。

新商品の企画については、今年度新たに銀河のしずく玄米30kgを商品として追加し、価格についてはあきたこまちよりも500円高い設定としました。

生産量の関係上、販売は、先生と保護者のみを対象とし、あきたこまちと銀河のしずくにおける商品別販売数を調査しました。結果は、表６のとおりとなりました。

玄米においてあきたこまち30kgが38袋に対し、銀河のしずくは74袋、白米10kgでは、あきたこまちが61袋に対し銀河のしずくは115袋とそれぞれほぼ倍の販売数となりました。このことからあきたこまちよりも銀河のしずくの需要が高いと考えました。

表６

また購入者を対象に、QRコードを用いてアンケートを実施しました。結果は、表７のとおりとなりました。購入の際に重視することとして、価格と品質が37%と多く、次いでブランドと安全性となりました。購入者のアンケートには、冷めてもおいしい、粘りや香りがあり、ふっくらとした炊き上がりに感動したなど銀河のしずくの特徴を捉えた声がありました。

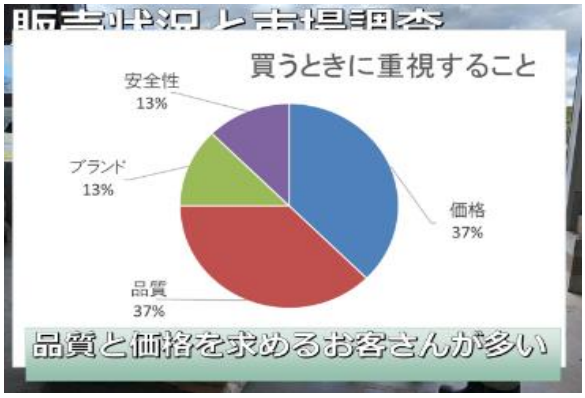


表７

９　テーマ２の考察

テーマ２については、銀河のしずくの方が２倍近く売れていることから、仮説どおり、銀河のしずくの方が需要があると考察しました。また市場調査については、購入時に重視することとして価格と品質が同じ割合であり、あきたこまちよりも銀河のしずくの方が価格が高いため、さらに分析が必要ですが、ブランドを重視する部分も含めるとこちらも銀河のしずくに需要があると考察しました。アンケートの結果からもテーマ１の食味値が高かった銀河のしずくの方がおいしく、評価を得ていることを示していると言えます。販売数、市場調査から仮説を立証する結果となりました。

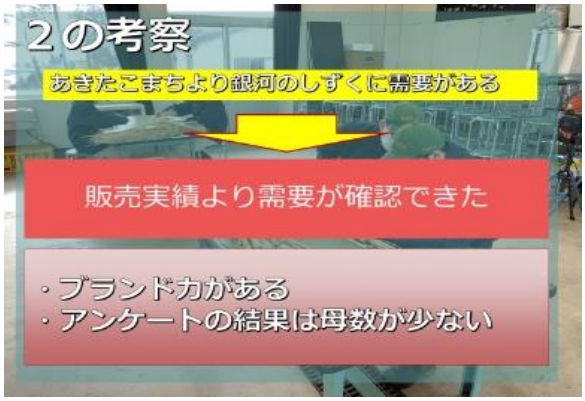


図５

10　総合評価

テーマ１と２の結果に基づき経営について分析しました。

10aあたりの収量はあきたこまちが9.8俵、約588kgになり、玄米１kg単価が250円なので粗収益は147,000円になります。

これに対し、銀河のしずくは9.3俵、558kgになり、玄米１kg単価が267円なので粗収益は148,986円となり、銀河のしずくの方が1,986円の利益向上が見込めます。

また販売個数から市場を分析すると、全体の66%が銀河のしずくを購入していました。全８haの圃場のうち66%は5.28haになり、この分を銀河のしずくへ転換した場合には104,860円の利益向上が見込めることになります。

表８

また銀河のしずくの方が倒伏などのリスクを減らして栽培できることから、経営が安定すると考えます。加えて、岩手県のお米を栽培することでイメージアップやブランドの確立もしやすくなると考えています。

昨年度、作物班の２名がJA新岩手東部地域営農センターで研修をさせていただいた際は、タンパク質基準をクリアし、ロゴをつけることで１kgあたり17円の付加価値を付けることができると教わりました。つまり玄米１kg単価で、284円で販売できることになります。実現したら、さらに倍の209,720円の収益向上になり、経営の向上につながることになりますが、市場調査においては価格を重視する顧客が多くいるため、この通りにはならないと予想されます。農業高校商品の魅力であ

る安全でおいしいとブランド志向の高級化と、経営方針を定めなくてはならないことも課題となりました。

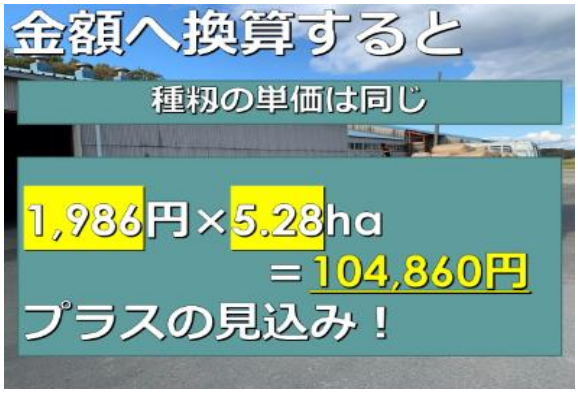


図６

表９

11　今年度の取り組みについて

令和５年度は、銀河のしずくの栽培面積を1.2haから２haへとさらに拡大しました。

また、土壌改良剤イグナールの投入量を前年の100%、50%、０％と変えた３つの調査区を準備し、引き続き調査を行っています。

加えて、窒素量を測定するため、それぞれの区画の耕起前の土壌を回収しており、今後は土壌の調査についても進め、「盛農産銀河のしずく」の確立を目指していきます。

岩手県産業教育振興会主催　専門高校生徒の研究文・作文コンクール
研究文の部　優秀賞　受賞作品

未来に羽ばたく青孔雀～培養ビン内でのリンドウ開花に関する研究～

岩手県立花巻農業高等学校　生物科学科３年
幅野　　鈴　　千葉　夏実　　伊藤　妃奈　　江本　春菜

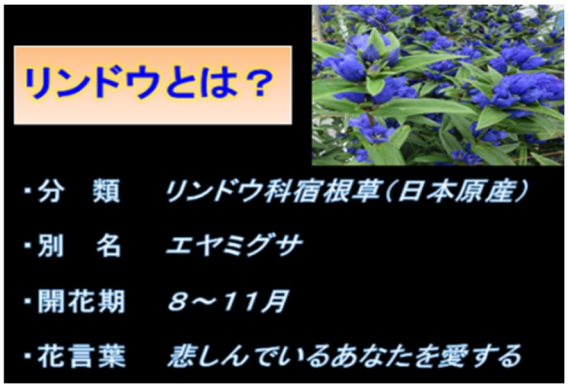
Ⅰ研究動機

リンドウは日本が原産の宿根草で、以前は野山や山道に当たり前のように咲いていた、人々に身近な花でした。開花時期は８月から１１月まで。花色は青や紫を多く見かけます。このことから仏花というイメージが強く、お墓に供える花と感じる人も少なくないと思います。

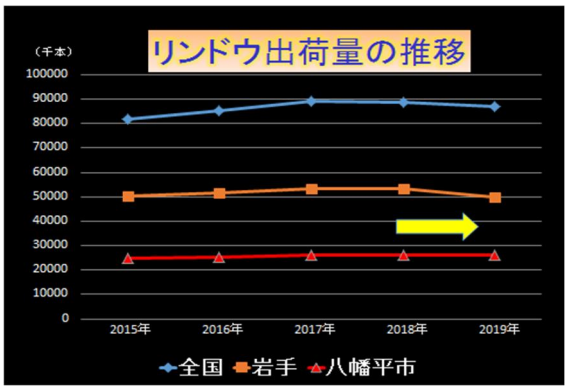
岩手といえばリンドウ！栽培面積・出荷数量とも岩手県が全国トップで、全国シェアの約６０％を担っています。数字だけを見れば岩手がトップですが、１ａ当たりの出荷量をみると決して高い数字とはいえません。それを表すかのように近年、作付面積・出荷量ともに減少傾向にあります。岩手の気候風土はリンドウ栽培に適しています。しっかりとした土壌がある本県の花卉を衰退させてはいけないと考えました。

そこで私たちバイオ班は、岩手が全国に誇るリンドウについて研究することにしました。学習を進めていくと、県内有数の産地である八幡平市の出荷量が現状維持していることに気づきました。これは安代リンドウというオリジナル品種があるからではないかと推測します。今後私たちが花巻市をリンドウ産地として拡大していくために、オリジナル品種の作出は不可欠といえます。

私たちの住む花巻市には、花巻ブルーシリーズといわれるものがあります。ＪＡいわて花巻が打ち出す、リンドウやクレマチスなど宮沢賢治が愛したブルーで花巻をＰＲしようというものです。



	作付面積(a)	出荷量（千本）	１aあたり（本数）
全　国	43,200	86,900	500
岩　手	22,700	49,700	460
秋　田	4,320	12,200	350
山　形	3,240	6,550	490
福　島	3,170	4,540	700
長　野	3,130	3,790	830



中でも令和元年に販売が開始された「青孔雀」は、リンドウでは珍しい八重咲きで、花持ちの良い優良品種です。私たちは先輩たちの研究データをもとに「青孔雀」の品種維持について研究に取り組むことにしました。

Ⅱ研究目的

（1）花巻市をリンドウ産地として活性化させるため未授精胚珠培養による「青孔雀」の品種維持を目指す。

（2）培養ビン内でリンドウを開花させることで年間を通した実験を可能にするだけでなく、新品種作出年限の短縮にもつなげる。

Ⅲ研究計画

研究１年目（２年次）

未授精胚珠培養の技術の向上と培養ビン内での培地の検討

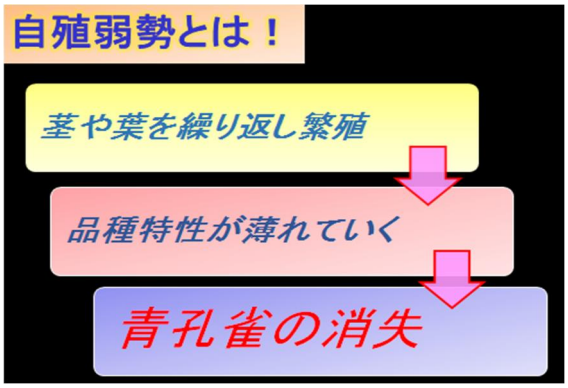
研究２年目（３年次）

培養ビン内でのリンドウの開花技術の向上および他機関と連携した普及活動

Ⅳ研究内容

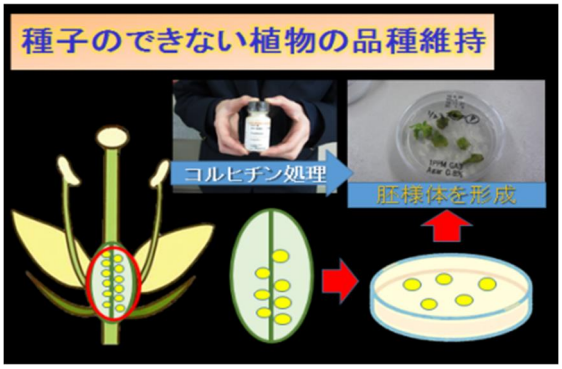
（1）未授精胚珠培養

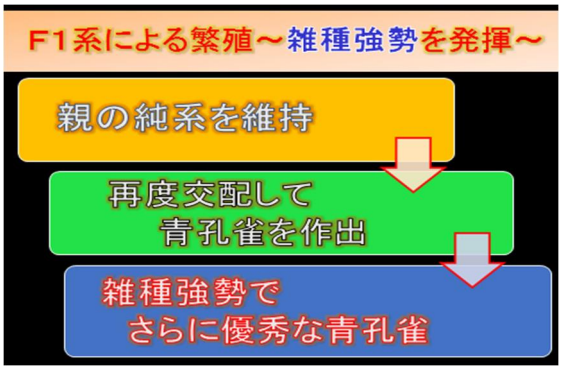
リンドウについての学習を進めていくと、自殖弱勢という言葉にぶつかりました。私たちはこれについて深く知りたいと考え、岩手県農業研究センター花き研究室の小田島さんから講義していただきました。リンドウはほかの花に比べ、葉などの栄養系での繁殖では、次第にその特性が弱く薄れていくことがわかりました。まして青孔雀は花粉がないため、種を作ることがありません。このままでは優秀な品種が数年で失われてしまうことになります。



私たちが農研センターとともに進めている繁殖方法が次の図です。私たちが注目したのは、青孔雀ではなく、その親となる「心美誠」という品種です。この親の蕾を採取し、胚珠という部分の培養を行います。この胚珠をシャーレに置床。種の赤ちゃんとなる胚様体を形成させ、植物体を再生させます。このままでは半数体となりますが、学校にあるコルヒチンという薬品で倍化処理ができることから技術的には可能であるといえます。これを再度交配し、種子のできない青孔雀を長期

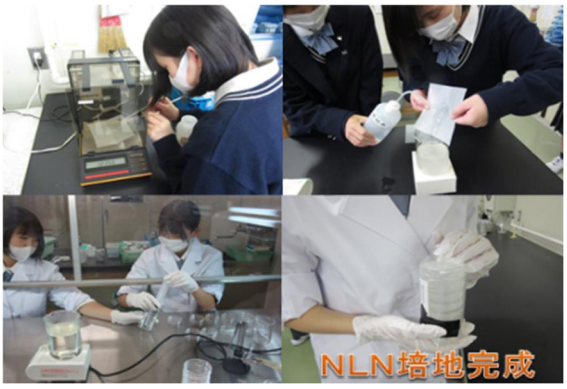
にわたって維持することが可能となります。また、交配された青孔雀は雑種強勢という性質で、より高品質な品種となります。





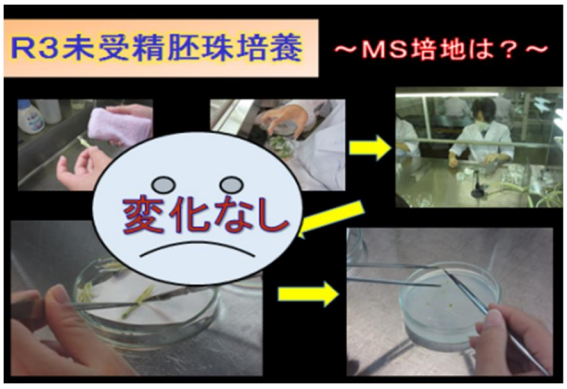
（2）１／２ＮＬＮ培地作製

私たちはさっそく、先輩たちの資料を参考にしながらＮＬＮ培地の作製に取りかかりました。他の培地に比べて、薬品の数が多く、微量であることから、いくつかルールを決めて作製にあたりました。通常の電子天秤ではなく、ガラスで覆われた電子分析天秤を利用し、計量すること。薬包紙についた僅かの薬品を落とすために蒸留水で流すことです。こちらがクリーンベンチでＮＬＮ培地を作製しているところです。私たちは研究機関で使用される培地の作製に成功しました。



（3）ＭＳ培地比較

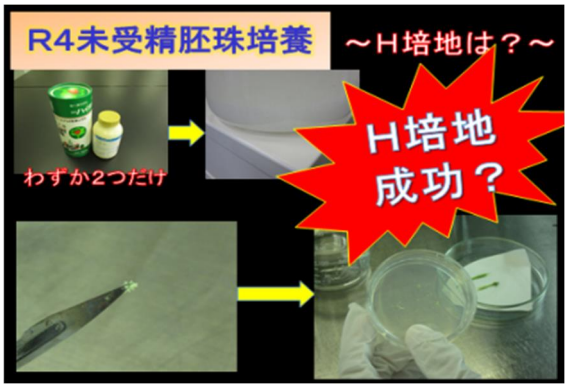
先輩たちは、この未受精胚珠培養の培地の検討を行いました。研究機関で用いられるＮＬＮ培地と、通常の組織培養で用いられるＭＳ培地の比較実験です。しかしＭＳ培地では植物ホルモンを変えても、胚様体を形成することは無かったとのことです。



（4）ハイポネックス培地比較

そして先輩たちから引き継いだ「心美誠」で未授精胚珠培養を行いました。ここで比較に用いた培地は、ＮＬＮ培地とハイポネックス培地です。この培地は、ハイポネックスとショ糖のみを加えるもっとも簡単な培地といえます。農研センターの小田島さんからアドバイスをいただき、ショ糖を通常３倍以上の１００ｇとしました。採取した蕾を殺菌後、子房内の胚珠を、メスの裏で、傷つけないように培地に置床します。すると、数か月後、これに変化が見られたのです。未受精胚珠培養がハイポネックス培地で可能なのであれば、薬品にかかる費用も大幅に減らせるだけでなく、専門性も必要なく、技術として広く普及させることができます。私たちはこの結果を持って、岩手生

物工学研究センターを訪ね、今後の研究に役立ててもらえるようデータを提供しました。



未受精胚珠培養－H培地	
ハイポネックス	３ｇ／Ｌ
スクロース	１００ｇ／Ｌ

（５）培養ビン内でのリンドウの開花

未授精胚珠培養は、リンドウが花芽をつけて受粉するまでの、わずかの期間しか実験を行うことができません。私たちはこの課題解決に向けて、先輩たちの取り組んだインビトロフラワーの研究に注目しました。培養ビン内でリンドウを開花させることができれば、殺菌作業にかかる労力も必要なく、年間を通した実験が可能となります。

①培地作製～花農オリジナル花成培地～

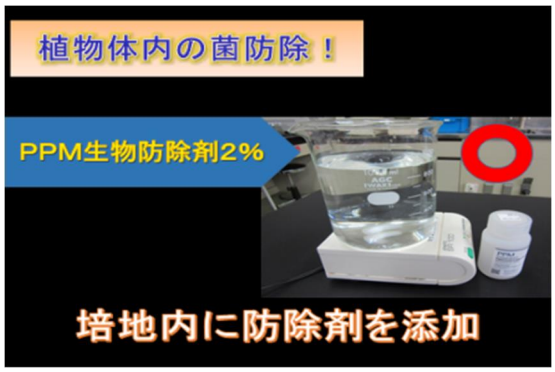
生工研の西原さんからも、意図して咲かせることは難しいだろうとのことで、その場で話し合いを持ちました。いくつか案が出た中で、私たちが注目したのは、花の肥料となるリン酸です。これはＭＳ培地を作製するための溶液１の薬品量ですが、リン酸は、他の窒素、カリウムに比べてわずかです。これを調整することで、リンドウを開花させる培地、花農オリジナルの花成ＭＳ培地を作製しようと考えました。参考としたのは花巻市のリンドウ農家も使用する液肥割合です。ＭＳ培地内のリン酸分であるリン酸二水素カリウムを全体の１６％の割合で溶液１を作製。リン酸を多く入れたことで他の薬品とうまく混ざるか心配でしたが、沈殿もなく完成させることができました。

②植物体内の殺菌方法

ここまで順調に進めてきましたが、リンドウのわき芽をこの培地に置床したところ、そのほとんどにカビが発生しました。

植物体の殺菌は、次亜塩素酸ナトリウムで行なっていますが、この殺菌方法から見直すことにしました。けがの消毒に用いるオキシドール、過酸化水素水の有効性について検討しました。超音波振動機を併用し、植物の表面に付着した微細なほこりや菌まで取り除こうと考えました。しかし、それでもカビの発生を抑えることはできません。

植物体内に菌がいることも考えられます。私たちは発想を変えて、殺菌するのではなく、菌を抑え込もうと考えました。培地内にあらかじめ防除殺菌剤を入れる方法､その濃度を検討したところ、２%濃度で、カビの発生を抑え、リンドウの生育にも影響が出ませんでした。

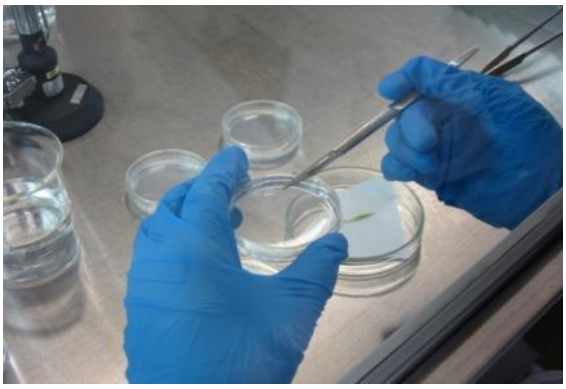


＜リンドウ無菌培養＞（１L）

防 除 剤 （ % ）	生 育	コンタミ
1%	◎	×
2%	○	○
3%	△	◎

私たちは、花農オリジナル花成培地と新たな殺菌方法を用いて、培養ビン内での開花実験を行いました。まだすべてではありませんが、わずか数センチの高さで､リンドウの開花に成功しました。

今年度２度目の未受精胚珠培養は真冬の１月に行いました。この時期に実験がおこなえることは本来は無いことです。培養技術の向上だけでなく、



リンドウ研究における、大きな一歩といえます。現在は、蛍光灯と赤色ＬＥＤについて、以下の環境条件で比較しているところです。蛍光灯の方が生育が良いように感じますが、今後も引き続き観察していきたいと思います。

培養環境
温度２５度
照度１５００～２０００lx
１２時間照明

Ⅴ　結果

（1）未受精胚珠培養について

①品種維持についての理解を深めることができたとともに、ＮＬＮ培地以外での培地の可能性を探ることができた。技術として確立できるように、今後も検討を重ねていきたい。

（2）培養ビン内での開花について

①培養ビン内でリンドウを開花させることができた。現在は３～４割程度であるため、今後開花率の向上に向けて取り組んでいきたい。

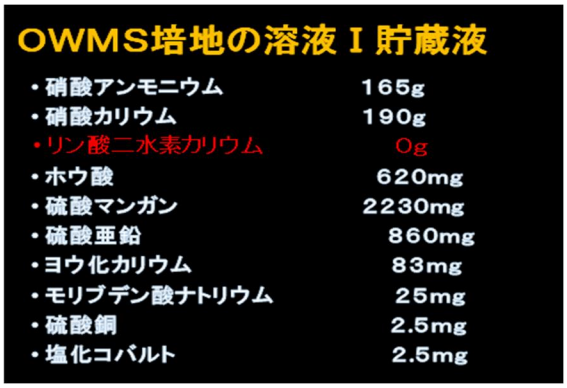
②培養ビン内で開花したリンドウを、未受精胚珠培養に用いることができた。現在でも開花しているものがあるため、年間を通した比較実験が可能となった。

③生物工学研究センターとのつながりから、岩手県種苗センターやリンドウ生産部会と連携できた。今後も協力していきたい。

VI今後の課題と取り組み

（１）培養ビン内での冬至芽の発生

先日、花巻市のリンドウ農家に苗を供給している岩手県種苗センターを訪ねました。担当の佐藤さんから、「花を咲かせることができるなら、冬至芽を発生させることはできないか。」とのお話をいただきました。私たちはさっそく検討を重ね、リン酸を０％・ショ糖を通常より多い６％とした冬至芽培地、オーバーウィンターＭＳ培地を作製しました。（私たちが命名しました。）



	冬至芽増殖	開　花
ＭＳ培地	△	△
＋6%ショ糖	×	×
－Ｐ	△	×
－Ｐ＋6%ショ糖	△	×

実験に用いた品種は「銀河ブルー」です。△は３個体中１～２個増殖したものを表しています。そのうち２個増殖したものを採用しました。実験体が少ないことや品種によっても冬至芽が発生しにくいものがあるとのことで、今後は以下の培養条件で、実験を重ねていきたいと思います。

培養環境（OWMS 培地）
温度２０度
照度１５００～２０００lx
１２時間照明

↓冬至芽発生後

培養環境（OWMS 培地）
温度１７度
照度１５００～２０００lx
１２時間照明

↓１～２週間後

培養環境（MS 培地）
温度２０度
照度１５００～２０００lx
１２時間照明

この技術が確立すれば、安定して種苗センターに冬至芽を供給することができ、ウイルスに感染していない健全な苗を岩手県内各地に届けることにつながります。そのことに私たちの研究が関わるのだと考えると、喜びとともに重大な責任も感じています。

（２）培養ビン内での開花率の向上

培養ビン内での開花率向上では、岩手生物工学研究センターでの研修を重ね、ショ糖の量を調整して実験を継続しています。現在のところショ糖２．５％で良好な結果が得られています。

（３）リンドウＰＲ活動に向けて

先日、リンドウ生産部会の千葉さんから、リンドウ普及のために高校生の力を借りたい、というお話をいただいています。物価高騰と円安により

花卉農家は生産コストがかさみ、大きな打撃を受けているとのことでした。私たちは少しでも力になればと思い、今後は、リンドウのＰＲ活動に積極的に参加したいと思います。またリンドウを取り入れたフラワーアレンジメントやボタニカルキャンドルなど活用方法を模索しているところです。

私たちはこれから普及活動にも取り組み、リンドウの仏花というイメージを変え、年間を通した消費拡大を目指します。そのことが花巻の花卉振興、しいてはリンドウ王国岩手を支えていくことになると信じています。

産業教育振興中央会主催　専門高校生徒の研究文・作文コンクール
作文の部　佳作　受賞作品

新しい遠野の特産品を生み出すために

岩手県立遠野緑峰高等学校

生産技術科２年

菊　池　康　成

みなさんは、『遠野の特産品』といえば何を思い浮かべますか？　「わさび」に「明けがらす」、「どぶろく」などを思い浮かべると思います。緑峰高校を知る人であれば、「ホップ」や「早池峰菜」など、私たちの先輩がプロジェクト研究に供した農産物を思い浮かべるかも知れません。

その中でも私は「ジンギスカン」が有名だと感じています。

私は昨年 10 月に行われた「いわて高校生政策甲子園」の発表会で、「ジビエで地域の活性化」というテーマで発表しました。

そこで岩手県立大学の斉藤俊昭 名誉教授から、思ってもみない質問をされ驚きました。

「遠野市ではジンギスカンが有名だと思うけど、国産と輸入のものヒツジの肉と、どちらの割合が多いのか？」

という質問でした。

私は、今まで全く意識せずに食べていたジンギスカンのヒツジの肉が、どの国のどの地域で育てられたヒツジの肉が使われているのか、考えたこともありませんでしたし、知ろうともしなかったので、早速、調べてみることにしました。

調べてみると、遠野市のジンギスカンを経営している飲食店のほとんどが、ヒツジの肉を海外、特にもオーストラリアから輸入している現状を知りました。遠野が誇る「ジンギスカン」文化の主役であるヒツジの肉が「made in Tono」どころか日本産ですら無い事実に、改めて衝撃と深い悲しみを感じました。

そして同時に、私の頭の中に閃いたのです。

私の家には、私が幼い頃から地元の猟師さんが遊びに来て、猟で取った、シカやクマなどをはじめとする野生動物の肉を食べる機会が多くあり、野生動物の肉「ジビエ」に慣れ親しんで来ました。また、高校時代には、猟に同行させてもらい、私たち人間が他の動物の「命をいただく」現場を、目の前で体験することができました。

私は、思いました。

「『ジビエ』と『ジンギスカン』を結び付けることで、新たな『遠野の特産品』が作れるのではないだろうか、」と。

実は、「made in 地元」のヒツジの肉を生産する試みは、すでに岩手では遠野市や奥州市で始まっているので、私は、あえて「ジビエ」、中でも『シカ肉を用いた新しいジンギスカン』ができるのではないか、と考えました。

シカ肉に思い当たった理由として、岩手県内は勿論、現在、遠野市でも野生のシカの生息数が年々増えており、獣害、特にも農作物などに対する食害が深刻な問題となっています。そこで狩猟で仕留めたシカの命を無駄にしないで有効活用するため、シカ肉を遠野市の特産品であるジンギスカンとコラボレーションさせることを考え付いたのです。

しかし、新しい『ジビエ・ジンギスカン』を遠野の特産品として実現するためには、かなり大きな問題が２つ、私たちの前に立ちはだかっ

ているのです。

１つ目の問題は、「現在、遠野には未だジビエ専門の加工場がない」ということです。

その事実が、どんなに大きな問題であるのか、を私は昨年、初めて知りました。高校１年生の私は、大槌町にある MOMIJI 株式会社のシカ猟の体験をさせていただきました。実際にシカ猟を見るのは３回目でしたが、今回は初めて解体の現場までを見せていただくことができ、感動しました。その体験をえて改めて命の大切さについても実感させられました。

その際に、MOMIJI 株式会社の方にジビエ(特にシカ肉)の「出荷制限」についても、詳しく教えていただきました。

先の震災で発生した、放射性物質汚染の被害が広がらないために制定された「原子力災害対策特別措置法」の影響で、震災から１２年経過した今でも、岩手県で捕獲された野生動物の肉は、県が許可した指定のジビエ処理・加工施設での放射線量検査を合格しないと出荷も販売もできません。MOMIJI 株式会社は、県の許可だけでなく、農林水産省が定めるガイドラインの認証基準を満たした工場のみが認定される「国産ジビエ認証」を 2023 年 9 月に取得する予定です。

遠野市には残念ながら、現在、県や国に認可されたジビエ専門の加工場がありません。だから、悲しい事実として、遠野市で害獣駆除の目的で狩猟の対象となって命を奪われたシカは、「モミジ肉(＝シカ肉)」として食べられないどころか、「産業廃棄物」として、唯々土中にただ埋葬されるだけ、というのが現状なのです。

遠野でジビエを出荷するためには、県や国に認可された加工場を作ることが必要不可欠なので、私は将来、遠野市に「国産ジビエ認証」されたジビエ専用の加工場を作りたいと考えています。「遠野地域に、ジビエ専用の加工場を設けたい」という話は、今年の遠野市議会で話題になった、と市の広報で読んだことがあるので、その提案を行った市議会議員の方や、その案に賛同している地元の企業の方々とお会いし、意見交換を行いながら、「地元の高校生」の代表として「『国産ジビエ認証』されたジビエ専用の加工場」の設立を模索していきたい、と思っています。また、私が学ぶ遠野緑峰高校の先生方や仲間たちを巻き込みながら、岩手から全国の農業高校生へと、発信していきたいと思っています。

２つ目に考えていることは、「ジビエ・ジンギスカン」の『食べ方』で、私は、シカ肉に合うための『タレ』の製造にも取り組みたいと考えています。

適切な処置したジビエは臭みが少ないですが、それでもある程度の独特の臭いは残るので、老若男女、誰でも食べやすいような「専用のタレ」を「遠野緑峰高校で栽培されている農作物」を使って作ろうと思うのです。シカに命があるように、植物たちも命を持った生き物です。実習の中で、味が良くても形が悪いと販売できない物があるのを見てもったいないと感じます。「命の食育」や「フードロス」の観点からも、規格外品を捨てずに「タレの具材」として有効活用しようと思うのです。どのようなタレがジビエに合うのか、研究を続けたいと思います。

遠野市に加工施設ができれば、新たに猟師を目指す人が増えてシカの害獣問題も徐々に解決します。食肉としての利用価値が認められれば、遠野に新たな「働く場」や「産業」が立ち上がり、そこからさらに、ジビエを中心として「特産物の輪」が広がっていきます。シカやクマ、イノシシの肉に合った野菜や果物など、新しい農産物の栽培が、新たに始まるかも知れません。今は、「害獣」でも、ジビエ専用の加工場さえできれば、野生動物は「遠野の宝」になること、間違い無しなのです。私は、今後もジビエについて研究を深め、農作物の利用方法を学び、 地域の猟師さんや飲食店と連携し、新たな「遠野市の特産品」の実現を目指します。

岩手県産業教育振興会主催　専門高校生徒の研究文・作文コンクール
作文の部　最優秀賞　受賞作品

私にきっかけをくれた存在

岩手女子高等学校
看護科　３年
長谷川　萌　音

中学校３年生に、看護科に入学することを自らの意志で選び、岩手女子高等学校に入ることを決めました。看護師になりたいという気持ちが、強くあったというわけではありません。だが、小さい頃からずっと一緒に過ごした亡き曾祖母が、心臓の病気で病院に入院したことをきっかけに、看護師という存在を身近に感じるようになりました。私の曾祖母が病院から自宅に一時帰宅した際に、看護師である私の母がおむつ交換をしたり、足浴をしたりしていました。そんな母の姿を見て、私は母の帰宅が遅い時におむつ交換をしてあげようと思い、やってみました。自分では結構うまくいったなと思っていたのに、曾祖母には、「ありがとう。でも、ちょっと心配だからあとでママにやってもらおうかな。」と言われました。その時、看護師になって私も曾祖母の力になってあげたいという気持ちが湧きました。そして、看護科に入学が決まった私は、看護師になれると、とてもわくわくしていました。

１年生が始まり、授業では聞いたことのない名前や言葉ばかりが出てきて、覚えるだけでも大変でした。テストでは看護の科目もあり、専門用語について理解することに、頭が追いついていきませんでした。

２年生では、病院の実習が始まるのでとても楽しみにしていました。６月に見学実習があり、病院について看護師さんからお話を聞いたり、実際に病院に行く経路を確認したりしました。不安もありましたが、楽しみも大きくありました。

そんな中で迎えた９月の臨地実習は、部活の大会と重なり１日のみの実習となりました。その１日で、患者さんと深く関わることはできませんでした。その時はまだ次があると思っていましたが、11月の臨地実習は新型コロナウィルスの影響で中止になりました。私は、やっと行けると思っていた病院実習が中止となり、とても悔しかったです。クラスメイトの多くが２回の臨地実習を経験しており、１日しか経験していない私は皆より大きく遅れをとってしまったと思い、ネガティブな言葉しか思い浮かびませんでした。１週間学校で校内演習をし、学ぶことは多くあったのだが、病院実習の仲間がとてもうらやましかったです。

３年生になり約２か月が経ち、私にとって初めての病院実習が始まろうとしていました。すでに２回の実習に行っている仲間の話を聞いて、２年生の時はとても楽しみにしていた病院実習が、怖くなり不安でいっぱいでした。受け持ち患者さんを発表されて疾患を見たとき、余計に不安になりました。実習が始まって、初めて患者さんとコミュニケーションをとりました。実際に患者さんを目の前にしてみると、患者さんがとても気さくに話してくれる方でした。緊張と不安でいっぱいだった私の心は少しずつ和らいでいきました。１日の計画を立ててり、患者さんの

情報を収集、援助し振り返りをして、5日間朝から晩まで看護でした。自己学習をしても終わりがなく、何をすればいいのかわからなくなるくらいでした。初めて、患者さんを相手にして援助をさせていただき、イメージと実際は全く違うものでした。皮膚の状態や、体位変換の制限など、校内演習を通して生徒同士で演習していたことをそのままやろうとしても、全くうまくいきませんでした。それでも、患者さんは笑顔で「いいよ、いいよ」と言ってくださり、実習のペアや指導者さんに助けてもらい、周りに支えられて成り立った5日間の実習でした。5日間の最後に、患者さんから、「あなたたちのおかげで、一番辛い時期を乗り超えることができたよ。ありがとう。」という言葉を言っていただきました。この5日間、自分が思っているよりも全く何もできなかったなと思っていたが、この言葉を言っていただけたことで 、少しでも患者さんために看護ができたのかなと、嬉しくなりました。

実習中は、これは意味があるのかな、なんでこんなに記録物を書かないといけないのかと、精神的な面でも落ち込むことも少なからずありました。それでも、患者さんの言葉で、自分のために勉強するのはもちろんだけど、一番は患者さんのためなのだと気づくことができました。

私の曾祖母は、入院生活の話を沢山してくれました。その中で、看護師さんの話はとても楽しそうにしてくれました。辛い入院生活でも、たくさんの看護師さんに支えられていたということが、よく分かりました。これまでの臨地実習や曾祖母からの話を通して、今まで関わってきた看護師さんたちが患者さんに頼られ信頼されているのは、見えないところでの努力があるからなのだろうと思いました。高校 3 年生であり看護学生である今、将来の自分がどうありたいか、理想とする自分になることは決して簡単なことではないと思います。でもその自分により近い自分になるためには、1 日 1 日の積み重ねだなと思いました。

私は、曽祖母という存在のおかげで看護という道を知り、看護師という職を見つけることができました。実際3年過ごしてみて、こんなに勉強や病院実習があり、辛くて大変と思うことがありました。3年過ごして、まだ専門学生に置き換えたら1年生ということを知り、びっくりしました。あと2年の看護学生生活は、今よりもっと大変なことが多いと思います。でも私は、将来看護師になりたいという意志が入学前より強くなりました。将来、看護師になることができたら、大好きな曾祖母の看護に携われると思っていた矢先、曾祖母は今年の1月に亡くなりました。

曾祖母はもう居ないけれど、きっと空から私を一番に応援してくれていると思います。

私は、一人ひとりの患者さんに寄り添い関わった患者さんが少しでも、この看護師さんに出会えて良かった、看護してもらえてよかったと思ってもらえるような看護師になれるように、仲間と共に夢に向かって頑張りたいです。

岩手県産業教育振興会主催　専門高校生徒の研究文・作文コンクール
作文の部　優秀賞　受賞作品

「継ぐ・繋ぐ・紡ぐ」

岩手県立久慈東高等学校

総合学科介護福祉系列３年

廣　﨑　七　海

東日本大震災を経験した私たちが今、できることは何だろう。東日本大震災から今年で１２年が経った。経験をしたといっても大震災当時、私たちはまだ保育園に通っていた。当時の記憶はあまりなく、自分の住んでいる地域や他の地域では実際にどんな被害があったのかは知らなかった。高校生になった今、介護福祉系列に所属し、改めて東日本大震災について学ぶ機会があり、当時の恐ろしさや自分たちができることについて深く考えることができた。

交流学習スクールという、沿岸の高校と内陸の高校で交流を行い、防災や復興について共に学ぶ県の事業があり、久慈東高校は、一戸高校との交流学習を続けてきた。交流学習スクールの一環で、自分たちの地域のことをもっと知るために、東日本大震災の被害を受けた久慈の水族館「もぐらんぴあ」に行き、大震災後の水槽の写真や、震災を生き延びたカメの「かめ吉」に会ってきた。震災を体験した館長さんが、久慈湾を見渡しながら、当時の体験を１つずつ丁寧に話してくださった。こんな被害に遭うと誰も想像していなかっただろう。他の地域で被害に遭った方たちも、こんなに苦しくて辛くて身の回りの人が命を落とすなんて思いもしなかっただろう。そう思うと、とても心が痛かった。一緒に参加した一戸高校の友人も、感慨深げに「もぐらんぴあ」の中を歩いていたことが印象に残っている。

他にも陸前高田市にある東日本大震災津波伝承館にも見学に行った。実際に被災した物、当時を捉えた映像や写真、被災者の声を通して岩手県内で起こった東日本大震災の事実を学んだ。それと同時に二度とあの時の悲しみを繰り返さないために何ができるのか、何をしていくべきなのかを考える貴重な時間になった。特に瓦礫の中から見つかった被災した物を見た時はすごく衝撃を受けた。学校の中から見つかった楽器や消防車の現物は、津波の物凄い力を実感させられるものだった。津波伝承館で１番印象に残ったことは、大槌町にある風の電話という話だ。風の電話とは、電話線の繋がっていないダイヤル式の黒電話で亡くなった人に思いを伝えることができる。きっと大震災後、多くの人がここを訪れ家族や友人に思いを伝えたのだろう。大震災前もここへ訪れて気持ちを伝える人がいたと思うけれど、大震災後はより多くの人の心の支えになり救われた人がいることが復興への第一歩となったと思う。

介護福祉系列では年に２週間、介護福祉施設に現場実習に行く。利用者の方の中には、震災のことを昨日のことのように話してくださる方もいて、沿岸に暮らす私たちの心の中に一生深く刻まれていることを知った。また、私たちが今まで学習した東日本大震災のことを保育園児に伝える機会があった。学校の近くにある保育園の避難訓練に参加させていただき、実際

に防災頭巾を被っての訓練で手を繋いで学校まで避難するという本格的な訓練を行った。その後、介護福祉系列から保育園児のみんなに「おはしも」の意味となぜ危険な行為になってしまうのかをスライドショーとともに実演を行った。保育園の先生の中には自宅が被災してしまった先生もいらっしゃり、大震災当時の自分の状況、家の状況、感じたことを園児と高校生にお話ししていただいた。小さな頃から防災意識を持つこと、互いに助け合うことが大切だと実感した訓練となった。

東日本大震災を経験した私たちが今、できることは何だろう。東日本大震災から１２年、高校生になった私は今までの学習を経て、より深く考えるようになった。特に被災した写真や現物、大震災当時の被災者の声を聞くことが１番印象に残る経験だった。「福祉」は「ふつうのくらしをしあわせに」その頭文字をとってできていると授業で教わったが、震災では毎日の幸せな生活が一瞬で崩れてしまった。当たり前の生活が、当たり前ではなくなる恐怖は、実は本当に身近にあるものなのだと、系列での体験を通して実感した。毎日の幸せな生活が立ち行かなくなる、それは災害に限らず、事故や病気など、様々な場合が考えられる。障害があり、介護が必要になる事も同じなのかもしれない。誰もが困らずに普通に生活することが一番であるが、生活の支援を必要としている方も、できれば介護や支援を必要とせず、自力で生活したいと考えていると思う。何かあった時、一人ひとりが力を出し合い、繋がり、支える。普通の生活を送れるように、一生懸命支援する。「もし自分だったら」と相手の立場に立って考える。私が目指したい「福祉」はここにあったのだと、東日本大震災の学習から学んだ。

高校生の私が、未来を生きていく私ができることは３つある。それは継ぐ・繋ぐ・紡ぐということだと思う。大人から私たちへ思いや経験が継がれていく。生きることで人との繋がりができていく。復興を通して未来へ命が紡がれていく。東日本大震災の悲劇を繰り返さないために恐ろしさを伝え継ぐこと、生きていく中で多くの人とつながり、またそこから人とを繋ぎ、助け合える関係を築くこと、未来へ命を紡いでいくことが私の使命だと思っている。一人の力は微力でも、それが集まれば世界を変える、「福祉」にはそんな力があると信じて、これからも歩み続けたい。

御下賜金記念優良卒業生選奨規程

公益財団法人　産業教育振興中央会

１．趣旨

各専門高校等の卒業時に、学業及び人物とも最も優れた卒業予定者を選奨することにより、我が国産業教育の振興に寄与するとともに、生徒の学業等諸活動の活性化に資することを目的とする。

２．選奨の対象生徒について

（１）農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉などの専門教育を主とする学科及び総合学科を置く高等学校等**（本会会員校）**において、学業及び人物とも最も優れた卒業予定者を対象とする。選奨候補者は、原則として学校ごとに１名とし、分校、定時制及び通信制の課程は、それぞれ１校とみなす。

（２）複数の分野の学科を置く高等学校においては、例えば、農業の園芸科、農業土木科、畜産科、工業の機械科、電気科、建築科などの学科別とせず、農業、工業等の分野ごとに１名に限定する。

（３）総合学科については、専門分野コースの数にかかわらず総合学科として、１名とする。

（４）別科、専攻科については、上記に準じて選奨することができる。

３．表彰状の授与

選定された者に対し、卒業式当日、本会会長名の表彰状を授与する。

岩手県産業教育振興会優良卒業生選奨規定

岩手県産業教育振興会

1　令和５度卒業予定者で人物・学業ともに優秀である者、もしくは専門高校生徒の研究文・作文コンクール、各種競技会、体験発表会等で優秀な成績を収めた者。

2　各学科ごとに１名とする。総合学科にあっては各系列１名（普通科系列を除く）

また､普通科にあっては産業に関するコース選択者を含めてもよいこと。

3　各学科内における○○○コース・○○○班ごとの表彰は行わない。あくまでも、各学科１名の表彰に限る。

※　生産技術科○○コース・生産技術科△△コース

（生産技術科は１名のみの表彰）

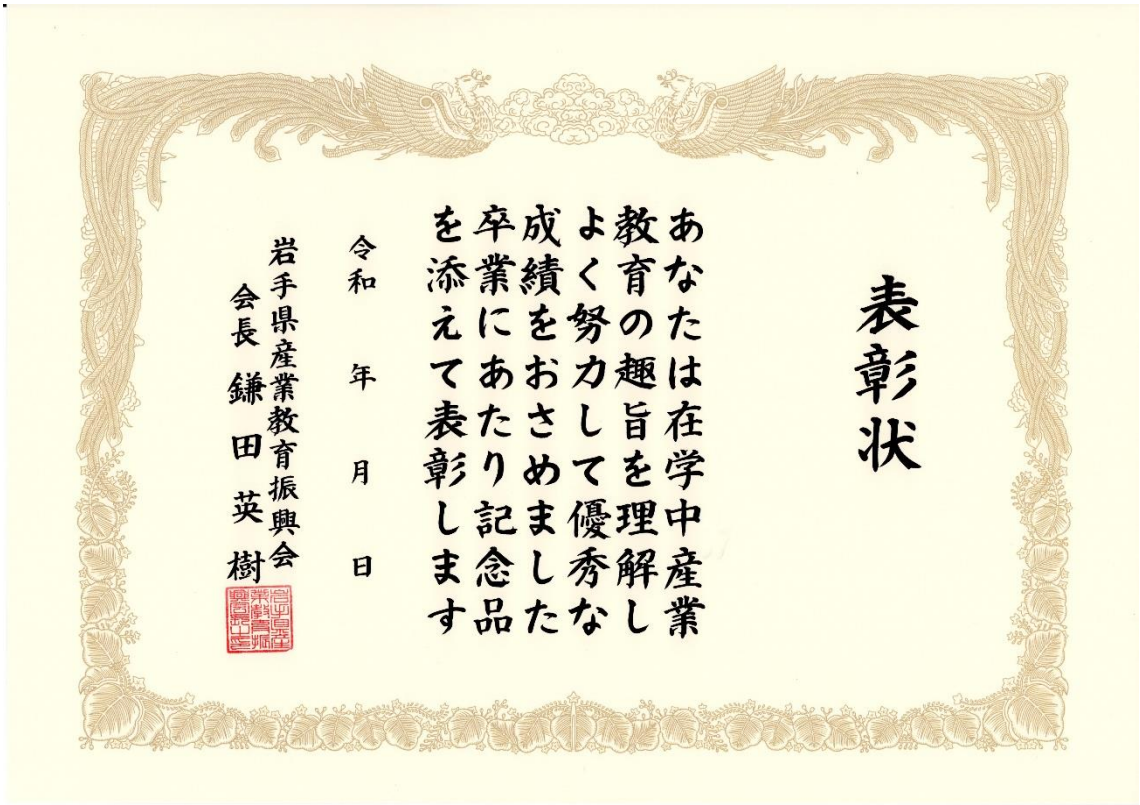
4　専攻科及び定時制も対象とすること。

5　御下賜金記念優良卒業生と重複しないこと。

令和５年度　御下賜金記念優良卒業生選奨　表彰状配布一覧

番号	学校名	中央会表彰		岩手県産業教育振興会表彰								
		大学科各１名	専攻科定時制	各小学科代表１名・総合学科は各系列１名								小学科合計
				農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	看護	普通就職	
1	盛岡農業	1		5								5
	盛岡農業(専)		1	1								1
2	盛岡工業(全)	1			7							7
	盛岡工業(定)		1		1							1
3	盛岡商業	1				3						3
4	平舘	1						1				1
5	紫波総合	1		1		1		1	1			4
6	花巻農業	1		3								3
7	花北青雲	3			1	1		1				3
8	北上翔南	1				1		1				2
9	黒沢尻工業	1			6							6
	黒沢尻工業(専)		1		1							1
10	水沢農業	1		2								2
11	水沢工業	1			4							4
12	水沢商業	1				3						3
13	岩谷堂	1		1	1	1		1				4
14	一関第二	1				1		2	1			4
15	一関工業	1			3							3
16	大東	1				1						1
17	千厩	2		2	1							3
18	高田	1					1					1
19	大船渡東	4		1	3	1		1				6
20	釜石商工	2			2	1						3
21	遠野緑峰	2		1		1						2
22	宮古商工	2			2	3						5
23	宮古水産	2					1	1				2
	宮古水産(専)		1				1					1
24	久慈東	1		1		1	1	1	1			5
25	久慈工業	1			2							2
26	種市	1			1							1
27	福岡工業	1			2							2
28	一戸	1		1		1		1	1			4
29	盛岡市立	1				1						1
30	岩手女子	2							1	1	1	3
31	江南義塾	1				1						1
32	盛岡誠桜	2				1		2			1	4
	盛岡誠桜(専)		1					1				1
33	盛岡スコーレ	1						1				1
34	専大北上	2			1	1						2
35	水沢第一	1						1				1
36	一関学院	※	※								1	1
	合計	48	5	19	38	24	4	16	5	1	3	110

産業教育振興中央会　御下賜金記念優良卒業生表彰



岩手県産業教育振興会　優良卒業生表彰

令和５年度　岩手県産業教育振興会　支援対象校・支援対象生徒一覧

番号	学校名	学科名	１年	２年	３年	４年	合計	総計
1	盛岡農業	動物科学科	41	41	29		111	
		植物科学科	26	22	22		70	
		食品科学科	41	37	29		107	
		人間科学科	22	27	21		70	
		環境科学科	33	30	20		83	
		特別専攻科	5	2			7	448
2	盛岡工業	機械科	34	32	38		104	
		電子機械科	37	33	38		108	
		電気科	29	39	40		108	
		電子情報科	36	40	36		112	
		土木科	27	39	24		90	
		工業化学科	15	15	10		40	
		建築・デザイン科	38	38	33		109	
		工業科(定時制)	9	5	6	4	24	695
3	盛岡商業	流通ビジネス科	75	81	66		222	
		会計ビジネス科	72	82	56		210	
		情報ビジネス科	83	81	76		240	672
4	平舘	家政科学	9	11	12		32	32
5	紫波総合	エコロジーフード系列		17	17		34	
		ライフデザイン系列		16	12		28	
		情報・経済系列		27	18		45	
		福祉・健康系列		9	12		21	128
6	花巻農業	生物科学科	31	32	33		96	
		環境科学科	18	24	29		71	
		食農科学科	32	29	36		97	264
7	花北青雲	情報工学科	39	35	34		108	
		ビジネス情報科	81	69	66		216	
		総合生活科	39	39	26		104	428
8	北上翔南	情報系列		25	35		60	
		環境系列		22	35		57	117

令和５年度　岩手県産業教育振興会　支援対象校・支援対象生徒一覧

番号	学校名	学科名	１年	２年	３年	４年	合計	総計
9	黒沢尻工業	機械科	25	25	37		87	
		電気科	22	32	26		80	
		電子科	21	30	25		76	
		電子機械科	30	23	38		91	
		土木科	17	20	29		66	
		材料技術科	22	11	15		48	
		専攻科工業技術科	7	10			17	465
10	水沢農業	農業科学科	30	25	24		79	
		食品科学科	14	16	15		45	124
11	水沢工業	機械科	40	37	30		107	
		電気科	24	27	23		74	
		設備システム科	28	37	25		90	
		インテリア科	40	17	33		90	361
12	水沢商業	商業科	32	35	26		93	
		会計ビジネス科	25	31	10		66	
		情報システム科	41	38	30		109	268
13	岩谷堂	生物生産系列		19	21		40	
		産業工学		14	12		26	
		流通情報		18	17		35	
		生活・福祉系列		20	19		39	140
14	一関第二	ビジネス系列		19	24		43	
		環境・生活系列		24	26		50	
		福祉系列		9	3		12	105
15	一関工業	電気電子科	36	39	33		108	
		電子機械科	41	39	37		117	
		土木科	23	39	40		102	327
16	大東	情報ビジネス科	13	12	18		43	43

令和５年度　岩手県産業教育振興会　支援対象校・支援対象生徒一覧

番号	学校名	学科名	１年	２年	３年	４年	合計	総計
17	千厩	生産技術科	18	40	29		87	
		産業技術科	25	22	23		70	157
18	高田	海洋システム科	11	9	15		35	35
19	大船渡東	農芸科学科	13	20	7		40	
		機械電気科	20	22	18		60	
		情報処理科	23	22	19		64	
		食物文化科	23	19	21		63	227
20	釜石商工	機械科	34	22	15		71	
		電気電子科	4	10	13		27	
		総合情報科	30	26	22		78	176
21	遠野緑峰	生産技術科	36	31	19		86	
		情報処理科	8	11	11		30	116
22	宮古商工	機械システム科	21	32	29		82	
		電気システム科	18	6	16		40	
		総合ビジネス科	40	39	38		117	
		流通ビジネス科	40	30	26		96	
		情報ビジネス科	40	34	35		109	444
23	宮古水産	海洋生産科	12	11	8		31	
		食物科	31	25	21		77	
		専攻科漁業科	8	3			11	119
24	久慈東	食物系列		10	15		25	
		海洋科学系列		7	25		32	
		環境緑化系列		22	22		44	
		介護福祉系列		14	16		30	
		情報ビジネス系列		62	50		112	243
25	久慈工業	電子機械科	20	19	12		51	
		建設環境科	5	4	10		19	70

令和５年度　岩手県産業教育振興会　支援対象校・支援対象生徒一覧

番号	学校名	学科名	１年	２年	３年	４年	合計	総計
26	種市	建設環境科	9	15	23		47	47
27	福岡工業	機械システム科	19	28	29		76	
		電気情報システム科	14	31	27		72	148
28	一戸	情報ビジネス系列		7	4		11	
		介護・福祉系列		6	6		12	
		生活・文化系列		29	24		53	76
29	盛岡市立	商業科	76	81	71		228	228
30	岩手女子	看護科	39	44	45		128	
		福祉教養科	9	18	22		49	
		看護専攻科				(84)	0	177
31	江南義塾	情報処理科			2		2	2
32	盛岡誠桜	商業系列		20	29		49	
		家政系列		20	24		44	
		食物調理系列		25	24		49	
		専攻科(保育子供未来)	(32)	(26)			0	142
33	盛岡スコーレ	調理選択		36	27		63	63
34	専大北上	自動車科	30	18	20		68	
		商業科			71		71	
		グローカルビジネス科	79	53			132	271
		情報ビジネスコース					0	0
35	水沢第一	調理科	29	37	30			
36	一関学院							総計
		令和５年度合計	2,187	2,731	2,558	4		7,480
		令和４年度合計	2,291	2,671	2,929			7,891
		令和３年度合計	2,238	3,082	3,055	1		8,376

岩手県産業教育振興会
令和5年度
事業活動報告書

令和6年3月22日発行

発行者：岩手県産業教育振興会
事務局：〒020-0841
岩手県盛岡市羽場18－11－1
岩手県立盛岡工業高等学校内
TEL 019-639-7250　FAX 019-656-0677
E-mail e-info@sanshin-iwate.jp
ＵＲＬ https://www/sanshin-iwate.jp/